



# 信州大学キャンパスマスタープラン 2018

Shinshu University Campus Master Plan 2018

信州「独創の知」





キャンパスマスタープランについて

|                                                  |   |
|--------------------------------------------------|---|
| 1-1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯                      | 1 |
| 1-2. アクションプランの位置づけ                               | 1 |
| 1-3. 信州大学の理念との整合                                 | 2 |
| 1-4. PLAN “the N・E・X・T”、信州大学ビジョン2015／信州飛翔プランとの整合 | 2 |
| 1-5. キャンパスの全体像                                   | 6 |
| 1-6. 各キャンパス共通事項                                  | 7 |

A. 松本キャンパス

2. 現状分析

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 2-1. 配置図・現状写真・問題点 | A-1 |
| 2-2. ディベロップメントプラン | A-1 |

3. 松本キャンパスマスタープラン

|                                |      |
|--------------------------------|------|
| 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針      | A-2  |
| 3-2. 基本方針と戦略                   | A-3  |
| 3-3. カテゴリー別計画                  |      |
| 3-3-1. 全体骨格・フレームワーク            | A-4  |
| 3-3-2. 施設配置・計画                 | A-5  |
| 3-3-3. パブリックスペースの計画            | A-6  |
| 3-3-4. 交通・動線の計画                | A-8  |
| 3-3-5. 環境・インフラストラクチャーの計画       | A-10 |
| 3-3-6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 | A-11 |

B. 長野(教育)キャンパス

2. 現状分析

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 2-1. 配置図・現状写真・問題点 | B-1 |
| 2-2. ディベロップメントプラン | B-1 |

3. 長野(教育)キャンパスマスタープラン

|                                |      |
|--------------------------------|------|
| 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針      | B-2  |
| 3-2. 基本方針と戦略                   | B-3  |
| 3-3. カテゴリー別計画                  |      |
| 3-3-1. 全体骨格・フレームワーク            | B-4  |
| 3-3-2. 施設配置・計画                 | B-5  |
| 3-3-3. パブリックスペースの計画            | B-7  |
| 3-3-4. 交通・動線の計画                | B-9  |
| 3-3-5. 環境・インフラストラクチャーの計画       | B-11 |
| 3-3-6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 | B-12 |

B-at. 長野附属キャンパス

2. 現状分析

|                   |        |
|-------------------|--------|
| 2-1. 配置図・現状写真・問題点 | B-at-1 |
| 2-2. ディベロップメントプラン | B-at-1 |

3. 長野附属キャンパスマスタープラン

|                                |         |
|--------------------------------|---------|
| 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針      | B-at-2  |
| 3-2. 基本方針と戦略                   | B-at-3  |
| 3-3. カテゴリー別計画                  |         |
| 3-3-1. 全体骨格・フレームワーク            | B-at-4  |
| 3-3-2. 施設配置・計画                 | B-at-5  |
| 3-3-3. パブリックスペースの計画            | B-at-7  |
| 3-3-4. 交通・動線の計画                | B-at-9  |
| 3-3-5. 環境・インフラストラクチャーの計画       | B-at-10 |
| 3-3-6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 | B-at-11 |

C. 長野(工学)キャンパス

2. 現状分析

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 2-1. 配置図・現状写真・問題点 | C-1 |
| 2-2. ディベロップメントプラン | C-1 |

3. 長野(工学)キャンパスマスタープラン

|                                |      |
|--------------------------------|------|
| 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針      | C-2  |
| 3-2. 基本方針と戦略                   | C-3  |
| 3-3. カテゴリー別計画                  |      |
| 3-3-1. 全体骨格・フレームワーク            | C-4  |
| 3-3-2. 施設配置・計画                 | C-5  |
| 3-3-3. パブリックスペースの計画            | C-7  |
| 3-3-4. 交通・動線の計画                | C-9  |
| 3-3-5. 環境・インフラストラクチャーの計画       | C-11 |
| 3-3-6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 | C-12 |

D. 伊那キャンパス

2. 現状分析

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 2-1. 配置図・現状写真・問題点 | D-1 |
| 2-2. ディベロップメントプラン | D-1 |

3. 伊那キャンパスマスタープラン

|                                |      |
|--------------------------------|------|
| 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針      | D-2  |
| 3-2. 基本方針と戦略                   | D-3  |
| 3-3. カテゴリー別計画                  |      |
| 3-3-1. 全体骨格・フレームワーク            | D-4  |
| 3-3-2. 施設配置・計画                 | D-5  |
| 3-3-3. パブリックスペースの計画            | D-7  |
| 3-3-4. 交通・動線の計画                | D-9  |
| 3-3-5. 環境・インフラストラクチャーの計画       | D-11 |
| 3-3-6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 | D-12 |

E. 上田キャンパス

2. 現状分析

|                   |     |
|-------------------|-----|
| 2-1. 配置図・現状写真・問題点 | E-1 |
| 2-2. ディベロップメントプラン | E-1 |

3. 上田キャンパスマスタープラン

|                                |      |
|--------------------------------|------|
| 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針      | E-2  |
| 3-2. 基本方針と戦略                   | E-3  |
| 3-3. カテゴリー別計画                  |      |
| 3-3-1. 全体骨格・フレームワーク            | E-4  |
| 3-3-2. 施設配置・計画                 | E-5  |
| 3-3-3. パブリックスペースの計画            | E-7  |
| 3-3-4. 交通・動線の計画                | E-9  |
| 3-3-5. 環境・インフラストラクチャーの計画       | E-11 |
| 3-3-6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 | E-12 |



## はじめに

キャンパスマスタープランは、信州大学の「理念と目標」（2001年）である「教育・研究・地域貢献・国際交流」に基づくと共に、「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」（2008年）の内容を踏まえ、「キャンパスマスタープラン」を策定して長期的なビジョンとして目指すべきキャンパスの方向性を示すものである。

「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」の内容を踏まえた、「PLAN the N・E・X・T 2016-2018」が2016年に策定された。「キャンパスマスタープラン」は5年を目処に見直すこととしており、「PLAN the N・E・X・T 2016-2018」を踏まえて、「キャンパスマスタープラン2013」を見直すこととし長期的なビジョンとして策定するものである。

文部科学省では、「第4次国立大学法人等施設整備5か年計画」（平成28～32年度）が策定され、「1. 安全・安心な教育研究環境の基盤の整備」「2. 国立大学等の機能強化等の変化への対応」「3. サティナブル・キャンパスの形成」の3つの重点整備と、「戦略的な施設マネジメントの取組の推進」「多様な財源を活用した施設整備の推進」の2つの推進方策が文部科学大臣により決定されている。

また、平成28年4月14日に発生した熊本地震において、熊本大学をはじめとする高等教育機関においても施設及び整備等の損壊があり、教育研究活動への影響が広範かつ深刻な被害が生じたところである。

これにより総合的な防災対策の強化による教育・研究・診療活動の継続的確保の重要性が再認識されたところである。  
新たな時代に向けて本マスタープランが有効に活用され本学の進歩と躍進に繋がれば幸いである。

## 1-1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯

本学は地域分散型総合大学であり、松本、長野（教育・工学）、上田、伊那、それぞれに沿革と特性の異なる5つの主要キャンパスを持っている。

「キャンパスの施設長期計画要領」（平成6年文部科学省（当時文部省）編集）には「成長と変化を続ける大学等において、各大学等の教育・研究内容にふさわしい施設を整備し、ゆとりと潤いのあるキャンパスとするためには、長期的な観点に立って秩序ある施設整備を進めるために方向を示す、長期の見通しに立った施設計画を策定する必要がある。」とあり、この要領に基づき本学においても平成12年に各キャンパスの長期計画を策定し、策定後5年毎に見直しを掛けてきた。

法人化された今、法人独自で長期計画の策定が必要とされ、環境対応、危機管理対応、ユニバーサル化、省エネルギー、オープンキャンパス、サイン計画、緑地の確保、駐車スペースの確保等々大学キャンパスに求められている課題解決が山積しており、「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」（2015年に向かって全学の構成員が目指すべき目標を骨子として策定したもの）が策定されたことにより、新たにキャンパスマスタープランが構築された。

今日、信州大学は第3期中期目標・中期計画期間に入り、新体制の基「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」を受け、策定された「PLAN the N・E・X・T 2016-2018」（本学の行動指針とそれを実現するための具体的な手法）により新たな大学経営への取り組みが始まった。キャンパスマスタープランについては2013年版策定から5年が経過し、新たに見直しをかける事となった。信州大学にふさわしいキャンパスづくりを目指し今後の将来像を描くものである。

## 1-2. アクションプランの位置づけ

キャンパスマスタープランの基本方針と戦略を踏まえ、建物、オープンスペース、交通、インフラストラクチャー、コミュニティ、維持管理の各計画が示されているプランを実現していくための実行計画（アクションプラン）を策定するにあたりプロジェクトの規模や内容に応じて、4つに分類し整備を進めていく。

なお、アクションプランは毎年見直しを図ることを原則とし、マスタープランの進捗を確認する。

### I. 概算要求を行い国の予算により実施する事業

大規模で、全学的視点で事業計画を立案し、事業の必要性・緊急性・事業効果を踏まえ、年次計画に基づき予算要求。

### II. 学内予算措置により計画的に実施する事業

小規模で学内措置により実施可能な事業については、計画に基づき段階的に整備する。

### III. 教職員参加型の活用により実施する事業

花壇、アートなど、ボランティアなどの協力で実施可能な事業については、経費・組織を整備の上、実施する。

### IV. 民間資金の活用など新たな整備手法で行う事業

駐車場の利用者負担による整備など

下記の課題も視野に入れ、必要であれば組織を整備して進めていく。

- ・建物のスペースマネジメント
- ・プリメンテナンス
- ・クオリティマネジメント
- ・当該部局の施設マネジメント会議との連携
- ・その他必要に応じて



1－3．信州大学理念との整合

■信州大学の理念と目標

理 念

- 信州大学は、信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。
- 信州大学は、その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。
- 信州大学は、世界の多様な文化・思想の交わる場所であり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。
- 信州大学は、自立した個性を大切にします。
- 信州大学で学び、研究する我々は、その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。

目 標

- 信州大学は、その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。
- [ 教 育 ]
- かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。
- [ 研 究 ]
- 人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展をめざした独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。
- [ 地域貢献 ]
- 信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。
- [ 国際交流 ]
- 諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。

(2001 年 10 月制定)

1－4．信州大学ビジョン2015／信州飛翔プラン「PLAN the N・E・X・T 2016-2018」との整合

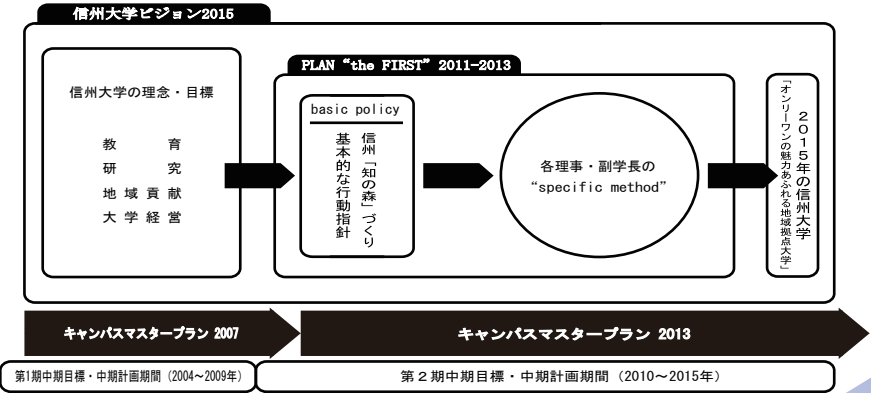


PLAN "the FIRST" 2011-2015

キャンパスマスタープラン2018



キャンパスマスタープラン2013





## ■信州大学ビジョン 2015 ／信州発飛翔プラン

### －「オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学」をめざして－

○信州大学のめざすもの

信州大学は、「信州は、我らのキャンパスだ！」を合言葉に、「オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学」をめざして

1. 未来の社会を展望した有為な人材教育の実践
2. 地域に根ざし世界に拓く研究拠点の形成
3. 豊かな地域社会の創造に向けての協働と貢献
4. 社会環境の変化に柔軟に対応する大学経営の推進

に取り組めます。

#### 1. 未来の社会を展望した有為な人材教育の実践

信州大学は、学生の視点に立ち、その自己実現を支援し、優れた社会的課題解決能力などの人間力と豊かな人間性を備え、社会で指導的役割を果たしうる人材を育成することを教育の中軸とします。そのために信州大学は自らの理念と目標に立ち、構成教職員の有する多様で豊かな教育力と信州の自然、社会、歴史、文化などの環境を最大限に活用して教育活動に努めます。

- (1) 真理の探究による知の創造拠点の形成とその成果に基づく教育の実践
- (2) 地域社会および国際社会で活躍できる高度専門人材の育成
- (3) 生涯学習の支援と社会人再教育
- (4) 学生の確保
- (5) 教育の「質」の保障
- (6) 教育実施体制の整備充実

#### 2. 地域に根ざし世界に拓く研究拠点の形成

信州大学は、人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展をめざした独創的研究を推進し、その成果を広く提供することにより、地域と世界に貢献します。

- (1) 長期的視野に立った基礎研究の推進
- (2) 信州の自然や生活環境に根ざしたモデル研究の創出と世界展開
- (3) グローバルな教育研究拠点の形成とネットワークの構築
- (4) 学内高度研究特区などの設置
- (5) 「知財」の重視と円滑な「知的創造サイクル」システムの構築
- (6) 研究環境の整備
- (7) 研究資金の自立的獲得の支援

#### 3. 豊かな地域社会の創造に向けての協働と貢献

信州にある唯一の総合大学として、県内全域への教育拠点づくりや地域のブランドづくり、街づくりなどにも積極的に関わっていきます。

- (1) 信州を中心とした地域連携による教育および文化の拠点としての機能強化
- (2) 産学官連携強化による産業振興と力強い地域経済構築への協働
- (3) 高度な先進医療の提供と医療人の育成および健康増進のための地域システムの構築
- (4) 信大サポーターのネットワークづくり

#### 4. 社会環境の変化に柔軟に対応する大学経営の推進

大学を取り巻く社会環境が著しく変化する中で、学長のリーダーシップのもと「信州大学ビジョン 2015」の達成に向けて、広く内外の状況に目を向け、変化に柔軟に対応する自立的な大学経営を推進します。

- (1) 社会的使命とその公共性の上に立った自立的な大学運営
- (2) 財政基盤の強化
- (3) 多様化に応える人事システムと柔軟な組織の構築
- (4) 病院経営の基盤強化
- (5) ブランド・マネジメントの推進
- (6) 安全快適なキャンパス環境の整備

##### ＜アクションプラン＞

- ・各キャンパスの個性を大切に整備を行う。
- ・現状資産を有効に利活用し、アメニティ（環境の心地よさ）を高めるために整備を行う。
- ・地域社会との連携・交流の推進に配慮した整備を行う。
- ・学生・教職員の参加によるキャンパスづくりを推進する。
- ・エコキャンパスづくりなど、サステナビリティ（持続可能性）の観点を重視した整備を行う。
- ・誰もが使いやすいキャンパスづくりを推進する。
- ・防災、防犯を考慮した安全なキャンパスの整備を行う。

## 【PLAN the N・E・X・T 2016-2018】

大学の使命は、教育および研究であり、それらを通して社会に貢献していくことです。2006年に施行された教育基本法では、大学に関する規定（第7条）が新設されました。その中では、高い教養と専門的能力の涵養、深い真理の探究、新たな知見の創造、これら成果の社会への提供と社会発展への寄与が謳われ、自主性・自律性など大学における教育・研究の特性尊重が明記されています。

2004年に国立大学法人が発足し、信州大学でも法人として様々な対応を行ってまいりました。第1期中期目標期間中の2008年には、教育基本法に呼応するように「信州大学Vision 2015」、2009年にそれに基づく「Action Plan」が策定されました。このビジョンは、2015年に向かって信州大学の全構成員が新たな可能性への挑戦を企画するための目標を骨子として策定されており、個性豊かな学部が協働し、総合力と相乗効果を発揮させ、教育研究にキラリと光る特色を持たせ、地域とともに成長し、世界へ飛翔する“オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学”を目指すものとなっています。2015年が終了した今、このビジョンの方向性に沿って、信州大学は特色ある教育研究をグローバル展開し、地域と共に歩んでいます。

第2期中期目標期間中の2011年には、「PLAN “the FIRST” 2011-2013」が、それに引き続いて2013年には「PLAN “the FIRST” 2013-2015」が策定され、戦略的な視点に立った大学運営の基本構想として行動指針とそれを実現するための具体的な手法が詳細に述べられています。行動指針は、学生、教員、職員の各側面と地域社会との連携の側面から記述され、それを実現し信州「知の森」を深化させるための戦略的な経営の必要性が謳われています。

文部科学省「国立大学改革プラン」において、第2期中期目標期間の後半（2013～2015年度）は改革加速期間と位置づけられ、客観的データに基づき各大学の強み・特色・社会的役割を整理した「ミッションの再定義」が行われました。これを踏まえて、各国立大学法人では社会の変化に対応できる教育研究組織づくりが行われています。また、この「国立大学改革プラン」では、教育研究のグローバル化、イノベーション機能強化、人事・給与システムの弾力化等が求められており、信州大学でも教員組織である学術研究院の設置、信州大学の特色ある研究領域をさらに先鋭化させるための先鋭領域融合研究群の設置、学部・大学院における教育組織の改編を進めています。

第3期中期目標期間において信州大学は、特色ある教育・研究のグローバル展開、創造性豊かな人材育成、地域・社会発展への寄与を持続的・戦略的に行うため、6つのキーワード（3つのGと3つのL）を設け、大学運営の基本方針を定めました。PLAN the N・E・X・Tは、学長のリーダーシップのもと各理事・副学長が第3期中期計画を具体的施策としてどのように実施していくかを示したものです。

信州大学全教職員に大学の目標・施策を理解いただき、また、学生にも信州大学の方向性を周知し、ともに次世代を担う大学として歩んでいければと期待しています。

## ■ キャンパスマスタープランの基本的な考え方について

キャンパスマスタープランは、5年ごとを目処に見直すこととなっており、2017年度に取りまとめた。

今回の見直しについては、PLAN the N・E・X・T 2016-2018における「3つのGとLで実現する信州「独創の知」を踏まえ、限られた空間(スペース)を有効に活用する観点から総合的に検討を行うものとする。



### 大学運営の基本方針

#### 3つの「G」

##### ▶ Green

信州の山々に囲まれた、清涼で緑豊かな、じっくりと物事を考えることのできる環境を活用し、独創性豊かな人材を育成します。また、環境保全・環境共生等に関する研究を推進し、それをもとに環境マインドを持った人材育成を系統的に行います。

##### ▶ Global

海外からの留学生の受入と日本人学生の海外への派遣を戦略的に行い、国際的な視点をもって世界で活躍する人材を育成します。また、海外大学・研究機関等と積極的に交流して国際共同研究を推進し、研究レベルの向上を図ります。

##### ▶ Gentle

未来を支える人材の第一の条件は人や社会に対する優しさであり、気品高く、穏やかに、落ち着いて物事を考えることができる人材を育成します。また、大学内外の様々な人が優しく触れ合うことができる安全で安心なキャンパスづくりを目指します。

#### 3つの「L」

##### ▶ Local

長野県内4地域に点在する5つのキャンパスを最大限に活かし、それぞれのキャンパス、それぞれの市町村に特徴的な社会貢献を行います。特に、次世代のまち・ひと・しごと創生で戦略的な役割を果たします。

##### ▶ Literacy

語学、情報、歴史など様々な教養を身につけ、それらの活用能力を培うことができるカリキュラムを提供します。また、研究を通してこれまで分からなかったことの解明やできなかったものの創造を行い、次世代の教養を構築します。

##### ▶ Linkage

部局を越えて教職員や学生の連携を強め、様々な視点から教育・研究・社会貢献が行える体制を構築します。また、国内外の大学・研究所・医療機関との連携、様々な企業や自治体との産学官連携、地域の方々との連携、卒業生との連携等、様々な連携を強固にし、教育・研究・社会貢献のグローバル拠点を構築します。



持続

PLAN the N・E・X・T と キャンパスマスタープラン2018

PLAN the N・E・X・T 2016-2018

キャンパスマスタープラン2018

○信州「独創の知」づくりのための基本的な行動

〔大学運営の基本方針〕

3つの「G」

○Green (PLAN the N・E・X・T 2016-2018)

信州の山々に囲まれた、清涼で緑豊かな、じっくりと物事を考えることのできる環境を活用し、独創性豊かな人材を育成します。また、環境保全環境共生等に関する研究を推進し、それをもとに環境マインドを持った人材育成を系統的に行います。

○Global (PLAN the N・E・X・T 2016-2018)

海外からの留学生の受入と日本人学生の海外への派遣を戦略的にを行い、国際的な視点をもって世界で活躍する人材を育成します。また、海外大学研究機関等と積極的に交流して国際共同研究を推進し、研究レベルの向上を図ります。

○Gentle (PLAN the N・E・X・T 2016-2018)

未来を支える人材の第一の条件は人や社会に対する優しさであり、気品高く、穏やかに、落ち着いて物事を考えることができる人材を育成します。また、大学内外の様々な人が優しく触れ合うことができる安全で安心なキャンパスづくりを目指します。

3つの「L」

○Local (PLAN the N・E・X・T 2016-2018)

長野県内4地域に点在する5つのキャンパスを最大限に活かし、それぞれのキャンパス、それぞれの市町村に特徴的な社会貢献を行います。特に、次世代のまち・ひと・しごと創生で戦略的な役割を果たします。

○Literacy (PLAN the N・E・X・T 2016-2018)

語学、情報、歴史など様々な教養を身につけ、それらの活用能力を培うことができるカリキュラムを提供します。また、研究を通してこれまで分らなかったことの解明やできなかったものの創造を行い、次世代の教養を構築します。

○Linkage (PLAN the N・E・X・T 2016-2018)

部局を越えて教職員や学生の連携を強め、様々な視点から教育・研究・社会貢献が行える体制を構築します。また、国内外の大学・研究所・医療機関との連携、様々な企業や自治体との産学官連携、地域の方々との連携、卒業生との連携等、様々な連携を強固にし、教育・研究・社会貢献のグローバル拠点を構築します。

持続可能な明日のために

【環境施設】

PLAN the N・E・X・T

【Method 1】

キャンパスマスタープランの改訂

各キャンパスの将来構想を検討し、平成29年度中にキャンパスマスタープランを改訂します。これに基づいて施設整備を計画的に進め、教育研究環境の充実を図ります。

特に、耐震化率100%の達成を目指して建物の耐震改修を優先的に進めます。

【Method 2】

環境活動を推進し、サスティナブルキャンパスを形成環境マネジメントシステム活動で培った実績を踏まえ、環境マインドを持つ人材の育成に向けた教育や取組をさらに進めます。

また、省エネ性能の高い建物への改修などにより施設維持管理コストを削減し、地球環境に配慮したキャンパスづくりを行います。

【Method 3】

大学の機能強化に対応した施設整備を推進施設のリノベーションや有効活用を進めるとともに、グローバル人材の育成や本学が強みを有する分野の強化など、大学の組織改革や機能強化の方向に沿った施設整備を推進します。

また、平成29年度中の包括先進医療棟完成など附属病院の機能を強化します。

基本方針と戦略

1 キャンパスアイデンティティー

2 アメニティーを高める現状資産の活用

3 地域社会との連携

4 参加型キャンパス

5 サスティナビリティ

6 ユニバーサルデザイン

7 安全・安心なキャンパス

6つのカテゴリー

①全体骨格・フレームワーク

②施設配置・計画

③パブリックスペース

④交通・動線

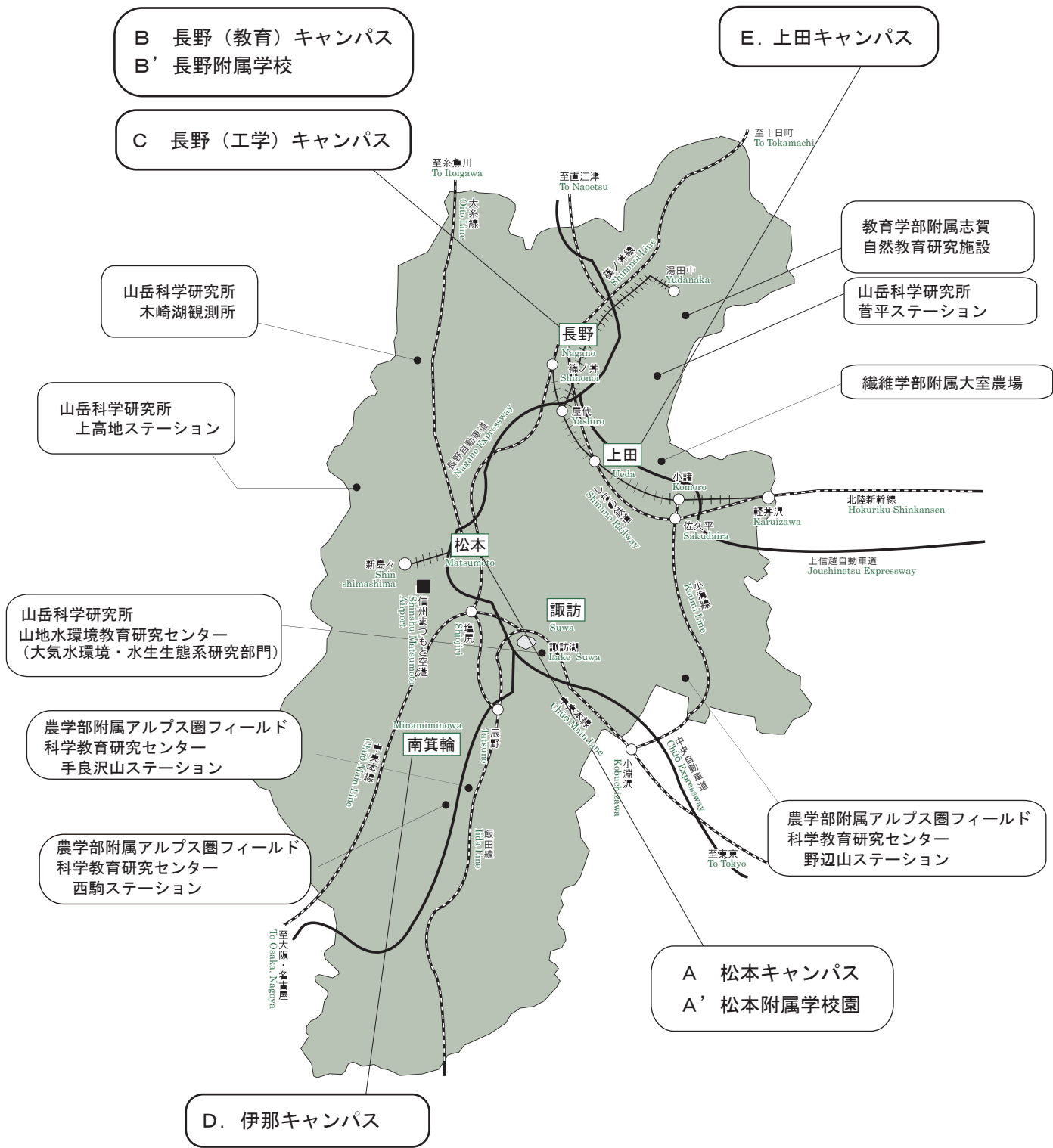
⑤設備・インフラストラクチャー

⑥コミュニティ

| テーマ            | 文部科学省評価項目(22項目)       |
|----------------|-----------------------|
| キャンパスの骨格に関するもの | 1 現状分析                |
|                | 2 骨格・フレームワーク          |
|                | 3 土地利用・ゾーニング          |
|                | 4 交通・動線               |
|                | 5 パブリックスペース           |
|                | 6 設備・インフラ             |
|                | 7 ランドスケープ             |
|                | 8 環境・サステナビリティ         |
|                | 9 キャンパス資源(土地・建物・生態環境) |
|                | 10 単位空間の計画            |
| その他            | 11 施設配置               |
|                | 12 施設計画               |
|                | 13 災害・安全衛生            |
|                | 14 緑地・緑化計画            |
|                | 15 サイン・アート            |
|                | 16 ユニバーサルデザイン         |
|                | 17 デザインガイドライン         |
|                | 18 整備中期計画             |
|                | 19 エネルギー管理            |
|                | 20 施設環境マネジメント         |
|                | 21 維持管理               |
|                | 22 パイロットプロジェクト        |

1－5．キャンパスの全体像

信州大学は、5つの主要キャンパス12施設から構成される（下図及び右表参照）。本キャンパスマスタープランにおいては、この5キャンパスそれぞれについて検討を行い、右表の通り分類記号を付すものとする。



| 地 区         | 分類記号 | キャンパス名      | 各施設名（延床面積）                                                                                                           | 敷地面積       |
|-------------|------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 松本市         | A    | 松本キャンパス     | 附属図書館（6,358㎡）<br>人文学部（4,490㎡）<br>経法学部（8,329㎡）<br>理学部（18,094㎡）<br>医学部（34,472㎡）<br>医学部附属病院（90,031㎡）<br>全学教育機構（12,911㎡） | 258,126㎡   |
|             | A'   | 松本附属学校園     | 附属松本小学校（4,855㎡）<br>附属松本中学校（5,309㎡）<br>附属幼稚園（1,126㎡）                                                                  | 55,785㎡    |
| 長野市         | B    | 長野（教育）キャンパス | 教育学部（24,506㎡）                                                                                                        | 71,047㎡    |
|             | B'   | 長野附属学校      | 附属長野小学校（7,885㎡）<br>附属長野中学校（7,141㎡）<br>附属特別支援学校（4,103㎡）                                                               | 85,593㎡    |
| 南箕輪村<br>上田市 | C    | 長野（工学）キャンパス | 工学部（47,662㎡）                                                                                                         | 73,727㎡    |
|             | D    | 伊那キャンパス     | 農学部（29,785㎡）                                                                                                         | 525,441㎡   |
| 上田市         | E    | 上田キャンパス     | 繊維学部（48,902㎡）                                                                                                        | 132,591㎡   |
|             |      |             | 附属志賀自然教育研究施設（山ノ内町）（1,099㎡）                                                                                           | 69,885㎡    |
| その他         |      |             | 宇宙線地下観測所（長野市、安曇野市）（200㎡）                                                                                             | 3,268㎡     |
|             |      |             | 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 西駒ステーション（伊那市）（195㎡）                                                                           | 2,518,360㎡ |
| その他         |      |             | 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 手良沢山ステーション（伊那市）（745㎡）                                                                         | 2,288,356㎡ |
|             |      |             | 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター 野辺山ステーション（南牧村）（2,523㎡）                                                                        | 287,847㎡   |
| その他         |      |             | 繊維学部大室農場（東御市）（894㎡）                                                                                                  | 98,094㎡    |
|             |      |             | 山岳科学研究所 大気水環境・水生生態系研究部門（諏訪市）（1,547㎡）                                                                                 | 1,002㎡     |
| その他         |      |             | 山岳科学研究所 上高地ステーション（松本市）（171㎡）                                                                                         | 1,530㎡     |
|             |      |             | 山岳科学研究所 木崎湖観測所（大町市）（41㎡）                                                                                             | 429㎡       |
| その他         |      |             | 山岳科学研究所                                                                                                              | 2,630㎡     |
|             |      |             | 職員宿舎（松本市ほか）（23,041㎡）                                                                                                 | 45,171㎡    |
| その他         |      |             | 学生寮（松本市ほか）（16,673㎡）                                                                                                  | 22,073㎡    |
|             |      |             | 国際交流会館（松本市、長野市）（3,159㎡）                                                                                              | 2,943㎡     |
| その他         |      |             | 学生課外活動施設等（松本市ほか）（1,306㎡）                                                                                             | 6,958㎡     |



1－6．各キャンパス共通事項

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1 | 設備・インフラ（インフラ長寿命化計画） |
|---|---------------------|

I．はじめに

政府全体の取組として、国民生活や社会経済活動を支えるインフラに関する維持管理等の方向性を示す基本的な計画である「インフラ長寿命化基本計画」が、平成25年11月に策定された。

このため、文部科学省は、この基本計画を踏まえ、所管又は管理する施設の維持管理等を着実に推進するための中期的な取組の方向性を明らかにするため、「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」（以下「文科省行動計画」という。）を策定し、これにより、各施設の長寿命化に向けた取組を一層推進することとしている。

本学のインフラ老朽化の状況については築25年を超える建物が全体の約6割を占めていることを踏まえると、今後、これらのインフラの老朽化が急速に進行し、維持管理等にかかる費用が増大していくことが予想される。そこで本学においても、施設の維持管理を着実に推進するため、目指すべき姿を踏まえ、「国立大学法人信州大学インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定し、これに基づき、インフラ長寿命化に向けた取組を一層推進するものとする。

II．計画の範囲

○対象施設

本学が保有しているキャンパス内のインフラについて、安全性、経済性及び重要性の観点から、計画的な点検や修繕等の取組を実施する必要性が認められるすべての施設（宿舍、取壊し予定建物、プレハブ等小規模施設を除く）を対象とする。（具体的な対象施設は次のとおり）

□対象施設（施設項目）

建築 外壁・屋上防水・外構・屋外手摺り  
電気 高圧変圧器・高圧受電盤・火災受信機・中央監視設備  
屋外電力線（高圧・低圧）  
屋外通信線（情報・電話・防災）  
機械 受水槽設備（給水ポンプ等を含む）・冷暖房設備・エレベーター  
屋外給水管（上水・中水）  
屋外排水管（雨水・汚水・雑排水・実験排水）  
屋外ガス管

主な対象施設

| 分野   | 主な施設      | 施設数 | 単位 |
|------|-----------|-----|----|
| 建築物等 | 大学教育・研究施設 | 127 | 棟  |
|      | 図書館       | 7   | 棟  |
|      | 体育施設      | 18  | 棟  |
|      | 支援施設      | 28  | 棟  |
|      | 宿泊施設      | 19  | 棟  |
|      | 附属学校      | 27  | 棟  |
|      | 附属病院      | 13  | 棟  |
|      | 大学管理施設    | 13  | 棟  |
|      | 大学設備室等    | 16  | 棟  |
|      | 道路・通路等    | -   |    |

| 分野    | 主な施設          | 施設数    | 単位 |
|-------|---------------|--------|----|
| 基幹設備等 | 特別高圧受変電設備     | 1      | 箇所 |
|       | 自家発電設備        | 23     | 基  |
|       | 変電設備(変圧器・配電盤) | 61     | 箇所 |
|       | 電話交換機         | 6      | 箇所 |
|       | 中央監視設備        | 2      | 箇所 |
|       | 受水槽設備         | 121    | 基  |
|       | 冷凍機設備         | 8      | 基  |
|       | ボイラー          | 18     | 基  |
|       | 空調設備(GHP)     | 2,975  | 台  |
|       | 空調設備(EHP)     | 1,251  | 台  |
|       | エレベーター        | 93     | 台  |
|       | 屋外電力線         | 66,162 | m  |
|       | 屋外通信線         | 77,290 | m  |
|       | 屋外給水管         | 17,525 | m  |
|       | 屋外排水管         | 34,761 | m  |
|       | 屋外ガス管         | 10,350 | m  |
|       |               |        |    |
|       |               |        |    |
|       |               |        |    |
|       |               |        |    |
|       |               |        |    |

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 2 | デザインガイドライン（キャンパスデザイン計画） |
|---|-------------------------|

1．キャンパスデザイン計画の位置付け

「信州大学キャンパスマスタープラン」を実現していくための長期にわたる整備のなかで、統一された魅力的な空間を創出するために「キャンパスデザイン計画」を策定する。

2．キャンパスデザイン計画の基本方針

- 学問の府にふさわしい調和のとれたキャンパスとする。また、信州大学・地域の歴史や伝統を継承しキャンパスアイデンティティの確立を図り、大学の顔・地域のシンボルとしてふさわしい景観を創る。
- キャンパスごとに異なる立地の特色を生かし、かつ、周辺の風景や自然環境と調和のとれたキャンパスとする。
- 教育研究・地域貢献・国際交流等の多様な知的創造活動が感じられるキャンパスとする。
- キャンパスを構成する広場、施設、緑などを一体として計画する。

3．キャンパスデザインガイドライン

- キャンパスデザインの重要な考え方を示した「基本方針」に沿った整備を推進するために、具体的な整備方針として、下記の視点による「デザインガイドライン」を示す。
  - (1) 通り (2) 見通し (3) 緑・植栽 (4) 敷地境界 (5) 色・素材 (6) 屋外照明

4．ユニバーサルデザイン

- ・誰もがハンディキャップを感じることなく利用できるキャンパスの提供を目指し、空間や施設を整備する。
- ・安全性、経済性や技術的条件などを考慮しながら整備する。
- ・使い方が簡単ですぐわかり、安心して利用できるデザインとする。

5．サイン

- ・キャンパス内のスムーズな移動をサポートする分かりやすいサインとする。
- ・グローバル化に対応し和英併記を行う。
- ・維持管理や経済性に配慮した構造、デザインとし、仕様（材質・形状等）を定める。

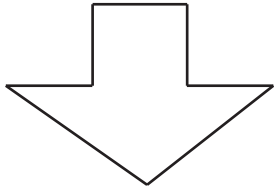
|   |                                |
|---|--------------------------------|
| 3 | 土地利用・ゾーニング（キャンパス資源の有効活用・土地利用等） |
|---|--------------------------------|

国立大学法人等の資産の有効活用を図るための措置

その対価を教育研究水準の一層の向上に充てるため、教育研究活動に支障のない範囲に限り、文部科学大臣の認可を受けて、土地等を第三者に貸し付けることができることとする。（国立大学法人法 第34条の2）

【制度の基本的考え方】

国立大学法人等の業務の遂行に支障のない範囲内で、文部科学大臣の認可を受けて、現に使用されておらず、かつ、当面これらのために使用されることが予定されていないものであること。



本学において使用されていない土地等について教育研究活動に支障のないことを確認しながら、第三者への貸付けなどを検討し、土地の有効利用をはかる。

○土地処分計画

国立大学法人法の改正も踏まえ、未利用地についてその活用方策を検討し、貸付や売却等も視野に入れ有効活用を図っていく。

|   |                       |
|---|-----------------------|
| 4 | 環境・サステナビリティ（信州大学環境方針） |
|---|-----------------------|

I. 基本理念

信州大学は、かけがえのない地球環境を守るため、本学における教育・研究、地域貢献、国際交流など、あらゆる活動を通して、人と自然が調和した、持続可能な社会の実現に貢献します。

II. 基本方針

信州大学は、この基本理念に基づき、国内外の機関・団体等とも連携を図りつつ、本学の教職員・学生ならびに本学にかかわるすべての人々との協力のもと、Greenの“G”を1つの旗印として以下の取組を推し進めます。

1. 豊かな自然に恵まれた信州に立地する大学としての特色を生かしつつ、環境に関する教育・研究活動を積極的に進めるとともに、その成果を国内外に発信します。
2. 教育・研究、地域貢献、国際交流など、あらゆる活動を通じて、本学にふさわしい環境マインドを持った人材を育成します。
3. 環境にかかわる法令を遵守するとともに、環境マネジメントシステムの継続的改善を図り、環境負荷の低減と環境汚染の予防に努めます。

|   |               |
|---|---------------|
| 5 | エネルギー管理（管理標準） |
|---|---------------|

1 エネルギー管理標準

I. 管理標準制定の目的

本管理標準は信州大学松本キャンパスの省エネルギー活動を効果的に推進することを目的として、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」（以下「省エネルギー法」という。）に適合したエネルギー管理標準を文書化したものである。

II. 適用範囲

信州大学松本キャンパスにおいて、消費される電力、化石燃料、ガス燃料、水道等すべてのエネルギーに適用する。

本管理標準は、信州大学松本キャンパスの施設運営業務に適用する。

III. 運用方法

本管理標準の制定・改定および周知については、以下のとおりとする。

- (1) 信州大学松本キャンパスの管理標準は、エネルギー管理員が立案し、環境施設マネジメント委員会の承認を受ける。
- (2) 職員は、本管理標準について改定の必要があるときは、エネルギー管理統括者に改定の要求を行うことができる。
- (3) 制定および改定された事項は記録に残す。
- (4) 改定の内容は職員全員に周知する。

|   |         |
|---|---------|
| 6 | 災害・安全衛生 |
|---|---------|

災害

自然災害や火災等に対して、学生や教職員の安全確保・教育、研究や病院の継続と早期の復旧・地域への貢献を行う対策を推進していく。

- ・建物の耐震化や非構造部材の耐震化の実施やインフラの整備
- ・事業継続計画（BCP）による施設面の取組への計画と推進
- ・大規模災害時の地域住民も利用可能な広場や避難所機能等の整備

安全衛生

施設面における教育・研究を行う上で必要な安全衛生に配慮したキャンパス環境を整備していく。

- ・下水道法や水質汚濁防止法に基づき実験排水の管理を引き続き行い老朽施設の解消を図る。
- ・労働安全衛生法や学校保健安全法等に基づき必要な施設整備と対策を行う。
- ・安全な歩行空間を確保するため歩車分離や駐車場の計画を進める。

|   |           |
|---|-----------|
| 7 | 防犯・セキュリティ |
|---|-----------|

キャンパス全体や建物の防犯・セキュリティはハード面とソフト面の対策が一体となり安全性や資産の保護を行っていくことが必要となる。各キャンパス入口にはゲートを設け車の出入りをチェックしている。建物入口にはＩＣカードによる学生証・職員証を利用した施錠システムによるセキュリティ対策を行っている。また防犯カメラを各所に設置し外部警備会社での監視体制を構築している。長野附属キャンパスにおいては、小学校・中学校・特別支援学校の三校が連携した警備システムの構築を目指す。

今後建物の改修や新增築等には防犯カメラ・センサーや施錠管理、また、窓や扉の構造、屋外照明や外構の整備等を行っていく。建物改修時期等に関わりなく防犯・セキュリティ対策をさらに進めていき危険箇所の改善をはかる必要がある。





# 信州大学キャンパスマスタープラン

Shinshu University Campus Master Plan 2018

## A. 松本キャンパス ～ 学生・情報・自然が集まる 多文化共生の知 ～





キャンパスマスタープランについて

1－1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 ..... 1

1－2. アクションプランの位置づけ ..... 1

1－3. 信州大学の理念との整合 ..... 2

1－4. PLAN “the N・E・X・T”、信州大学ビジョン2015／信州飛翔プランとの整合 … 2

1－5. キャンパスの全体像 ..... 6

1－6. 各キャンパス共通事項 ..... 7

A. 松本キャンパス

2. 現状分析

2－1. 配置図・現状写真・問題点 ..... A－1

2－2. ディベロップメントプラン ..... A－1

3. 松本キャンパスマスタープラン

3－1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針 ..... A－2

3－2. 基本方針と戦略 ..... A－3

3－3. カテゴリー別計画

3－3－1. 全体骨格・フレームワーク ..... A－4

3－3－2. 施設配置・計画 ..... A－5

(1)施設環境マネジメント (2)キャンパス資源の整備 (3)デザインガイドライン

(4)環境・サステイナビリティ

3－3－3. パブリックスペースの計画 ..... A－6

(1)緑地・緑化整備 (2)中央広場整備 (3)サイン・アート・照明計画

(4)ユニバーサルデザイン

3－3－4. 交通・動線の計画 ..... A－8

(1)駐車場整備 (2)駐輪場修繕・車止め設置

3－3－5. 設備・インフラストラクチャーの計画 ..... A－10

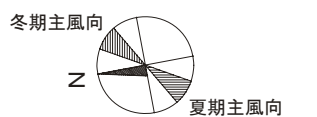
(1)インフラ整備 (2)廃棄物処理

3－3－6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 ..... A－11

(1)交流施設の計画・運営 (2)施設の地域開放促進



## 2-1. 配置図・現状写真・問題点



▲ キャンパス出入口  
▲ 病院出入口

## 2-2. ディベロップメントプラン（耐震改修が必要な建物一覧）

## 問題点凡例

- 課外活動施設は経年による老朽化が進んでいる。
- ◀▶▶▶ 中央南通りと中央北通りのつながりは車輻動線として一体化されていない。防災対応等の視点に立ってキャンパス全体の車輻動線を再考する必要がある。
- 西門からの道路は安心を高めるため、自転車と歩行者を分離するのが望ましい。
- 理学部校舎周囲は自転車が未整理で飽和状態である。
- 構内動線計画について、サーキュレーションが確保されていないため、救急動線が不明確かつ複雑で改善が必要である。

## ディベロップメントプラン

|   |               |           |    |        |         |
|---|---------------|-----------|----|--------|---------|
| ■ | 本部管理及び保健管理棟改修 | 1972(昭47) | R5 | 4,181㎡ | Is値0.63 |
| ■ | 本部旭会館改修       | 1979(昭54) | R4 | 2,829㎡ | Is値0.62 |



### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学松本キャンパスは、大学の理念及び人文学部、経法学部、理学部、医学部、医学部附属病院、全学教育機構の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたってはそれらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティという6つのカテゴリーに分類整理し、全体骨格を除く5つのカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■人文学部の理念

信州の大自然の織りなす四季のもと、都会の喧噪とほどよく距離をたもちつつ、時代や人間をみる確かな目と、他者や自然と共生できる豊かな感性を育む教育を行います。

複雑多様化し混迷する現代社会のあらゆる局面で、不断に根源的な思索を試み、それらに批判的・創造的にかかわってゆくことのできる「実践知」を身につけた新しい時代の人文人（ネオ・フマニスト）を育成します。

#### ■経法学部の理念

よりよい社会を作るという社会科学の基本に基づいて、経済学および法学の領域で、制度設計の視点から政策の提案や運営に、教育・研究の両面で貢献することを基本理念としています。

この基本理念のもとで、信州大学経法学部は、経済学または法学を体系的に修得した上で、身に付けた専門性を現代社会のさまざまな課題の現場で発揮し、課題解決のために能動的に貢献できる人材を養成するために教育・研究を実践しています。

#### ■理学部の理念

信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。。

知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成に役立てます。

世界の多様な自然、文化、思想を理解し、受け入れ、共に生きる若者を育てます。

個性を大切にすると共に、専門分野を越えた広い視野と、柔軟な適応性を養います。

研究成果を人々の幸福に役立て自然の尊厳を傷つけないように使うことのないよう責任を持ちます。

#### ■医学部の理念

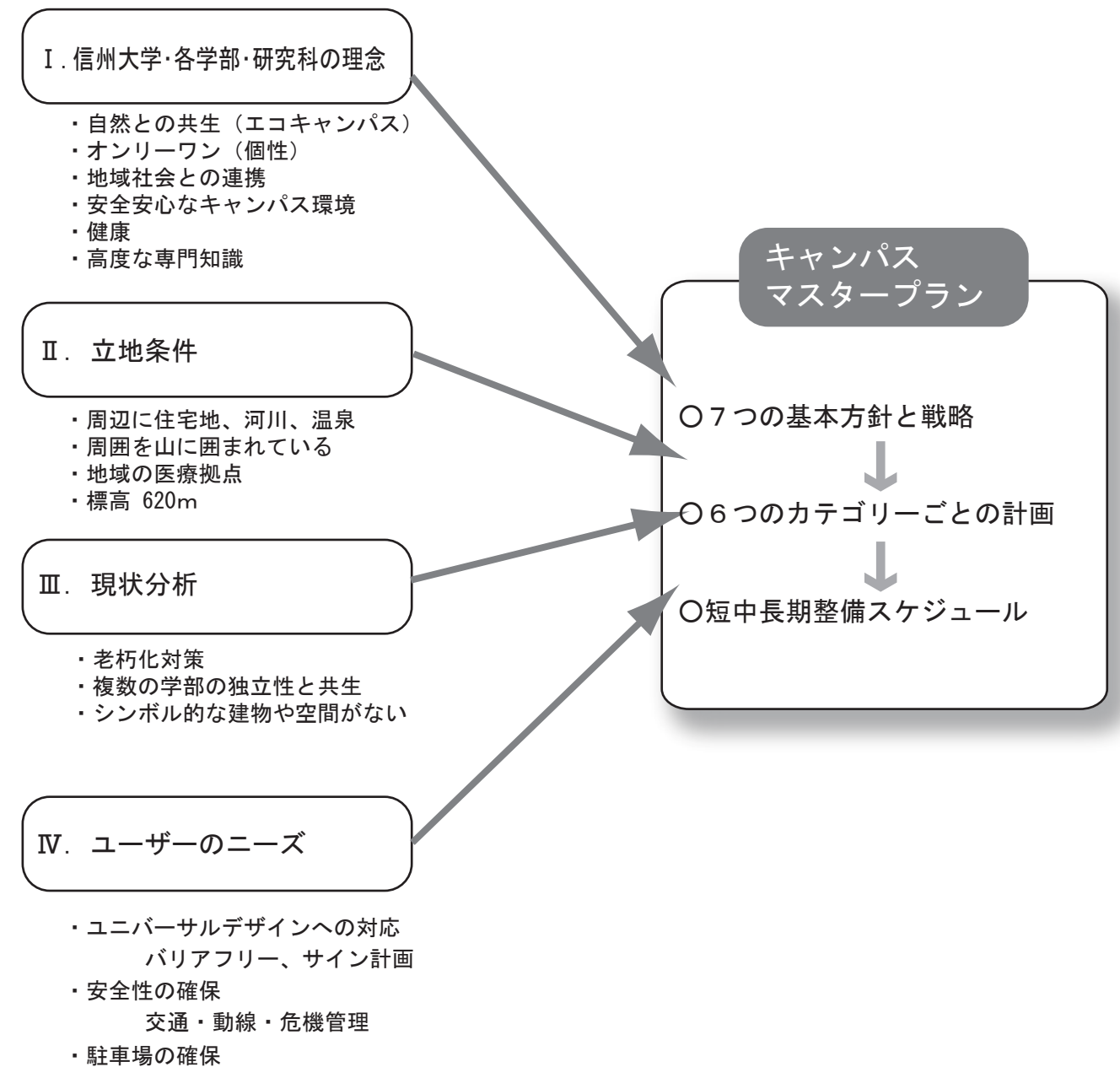
豊かな人間性、広い学問的視野と課題探求能力を身につけた臨床医、医療技術者や医学研究者などを育成するとともに、高度で個性的な医科学研究を行います。また医科学の教育・研究と医療活動を発展させることによって地域貢献を果たし、国際交流に寄与します。

#### ■医学部附属病院の理念

本院は診療・教育・研究を遂行する大学病院としての使命を有し、また患者さんの人権を尊重した先進的医療を行うとともに、次代を担う国際的な医療人を育成する。

#### ■全学教育機構の理念

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人を育成し、専門教育の基礎となる教育を施しつつ、専門教育と連携して、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神とユニークな個性を育成する。





## 3-2. 基本方針と戦略 ～学生・情報・自然が集まる 多文化共生の知～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

| 基本方針 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 戦 略                                                                                                                                              | カテゴリー                                                                                                                                                                                                                |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | <b>キャンパス<br/>アイデンティティ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【地域の核】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療サービス、教育サービス</li> <li>・地域コミュニティー</li> </ul> </li> <li>【複数学部の共生、信州大学の核】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・多種多様な研究、専門知識の発信、交流</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人も利用できる広場・施設の整備</li> <li>・地域文化、大学文化の発信・交流</li> <li>・知識の核としての図書館の充実</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li> <li>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li> <li>パブリックスペース(2)中央広場整備</li> <li>コミュニティ(1)交流施設の計画・運営</li> <li>コミュニティ(2)施設の地域開放促進</li> </ul>                            |
| 2    | <b>アメニティを高める<br/>現状資産の活用</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生研究施設と地域開放エリア</li> <li>・キャンパスの軸とオープンスペースの充実</li> </ul> </li> <li>【ニーズに対応した施設利用】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生、職員の交流スペース</li> <li>・教育研究環境の充実</li> <li>・駐車場、駐輪場動線の見直し</li> </ul> </li> <li>【老朽化対策】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の安全性の確保</li> </ul> </li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・並木の整備</li> <li>・駐車場の増設</li> <li>・施設整備</li> <li>・機能改善</li> <li>・耐震補強</li> <li>・インフラストラクチャーの見直し</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>施設配置・計画(1)施設環境マネジメント</li> <li>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li> <li>パブリックスペース(1)緑地・緑化整備</li> <li>パブリックスペース(3)サイン・アート・照明計画</li> <li>交通・動線(1)駐車場整備</li> <li>設備・インフラ(1)インフラ整備</li> </ul> |
| 3    | <b>地域社会との連携</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【「知財・人財・資財」の共有、発展】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習、地域交流施設</li> </ul> </li> <li>【地域住民との共生】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然資源、施設の地域開放</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業と連携した研究、地域サービス</li> <li>・地域文化、大学文化の発信・交流</li> <li>・図書館、福利施設等の地域開放</li> <li>・防災拠点としての機能向上</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li> <li>パブリックスペース(4)ユニバーサルデザイン</li> <li>コミュニティ(1)交流施設の計画・運営</li> <li>コミュニティ(2)施設の地域開放促進</li> </ul>                                                      |
| 4    | <b>参加型キャンパス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生、教職員が参加した点検評価</li> <li>・ソフト事業への学生参加</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な点検評価のシステム、組織づくり</li> <li>・学生の企画参加</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ(1)交流施設の計画・運営</li> </ul>                                                                                                                                                |
| 5    | <b>サステナビリティ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【地域の風土の反映】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産材の使用や地域産業との連携</li> </ul> </li> <li>【エコキャンパス】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ、CO2削減</li> </ul> </li> <li>【循環型社会への取り組み】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ削減、リサイクル、リユース</li> </ul> </li> </ul>                                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用</li> <li>・維持管理計画の策定</li> <li>・景観に配慮したゴミ置き場の整備</li> </ul>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>施設配置・計画(4)環境・サステナビリティ</li> <li>パブリックスペース(1)緑地・緑化整備</li> <li>設備・インフラ(2)廃棄物処理</li> </ul>                                                                                        |
| 6    | <b>ユニバーサルデザイン</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが使いやすい</li> </ul> </li> <li>【わかりやすいキャンパス】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・迷わない案内</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ユニバーサルデザイン（デザインガイドラインの策定）</li> <li>・サイン計画</li> </ul>                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li> <li>パブリックスペース(3)サイン・アート・照明計画</li> <li>パブリックスペース(4)ユニバーサルデザイン</li> </ul>                                                                             |
| 7    | <b>安全・安心なキャンパス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>【安全な歩行空間】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と車と自転車の動線の分離</li> </ul> </li> <li>【防犯、危機管理】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間の安全性</li> </ul> </li> </ul>                                                                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通計画(歩車分離)、駐車場計画、駐輪場計画</li> <li>・照明計画</li> <li>・廃棄物処理計画</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>パブリックスペース(3)サイン・アート・照明計画</li> <li>交通・動線(1)駐車場整備</li> <li>交通・動線(2)駐輪場修繕・車止め整備</li> <li>設備・インフラ(2)廃棄物処理</li> </ul>                                                              |





3-3-2 施設配置・計画

■現状と課題

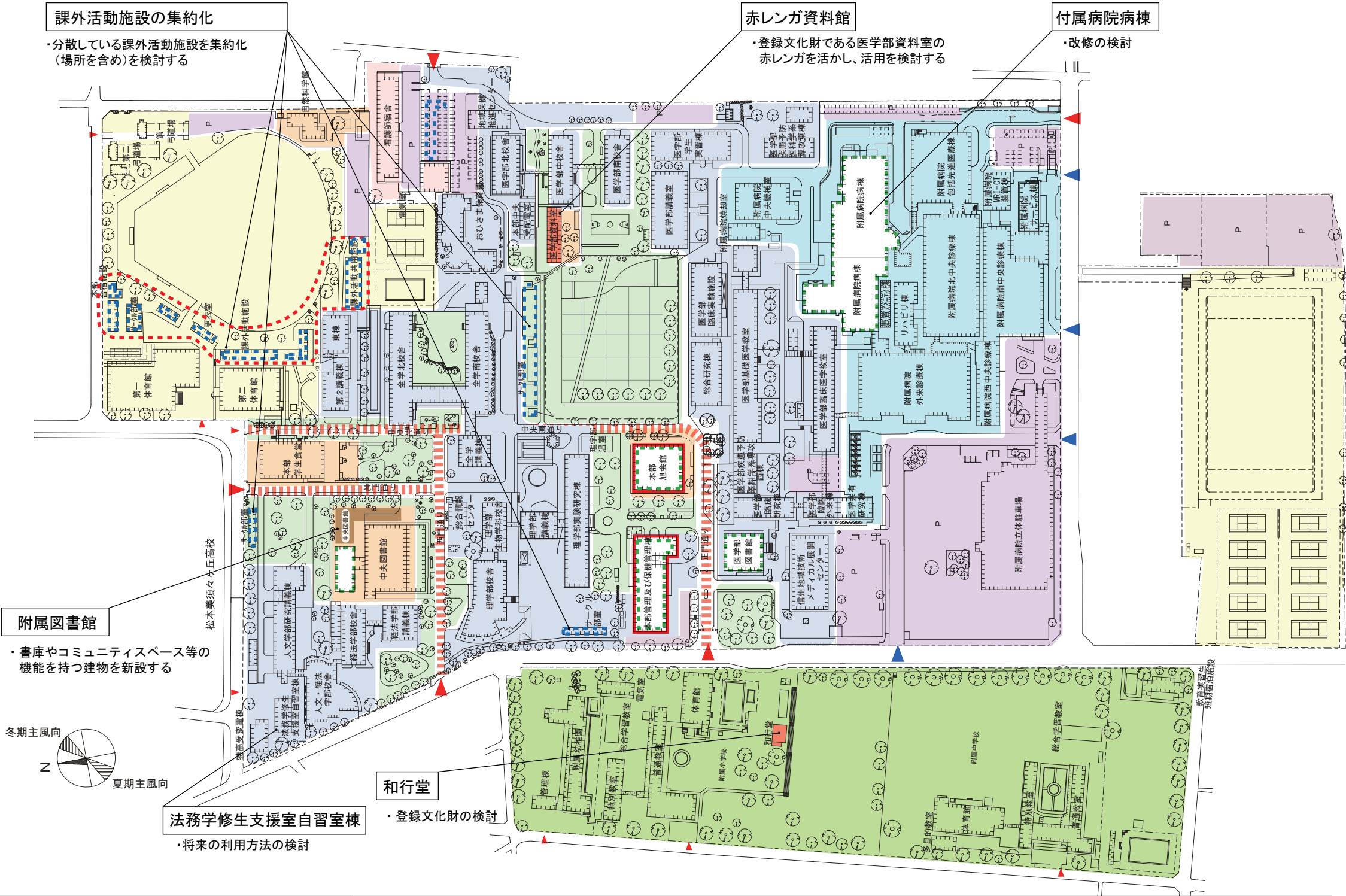
未だ補強を終えていない耐震強度の低い建物があり、順次補強していく必要がある。景観や実用面を考慮しながら施設の有効活用を図り改修計画を進めていく。

■方針

景観に配慮しながら耐震補強を検討し、美しいキャンパスづくりを目指す。

今後、新築建物の整備については、松本市の立地適正化計画の動向に留意しつつ、用途制限の範囲を確認しながら検討する必要がある。

登録文化財の指定を受けた医学部赤レンガ資料室については、保存活用を検討する。



| 事業項目           |                                                       | 事業展開                           |  |     |  |    |  |
|----------------|-------------------------------------------------------|--------------------------------|--|-----|--|----|--|
|                |                                                       | 短期                             |  | 中期  |  | 長期 |  |
|                |                                                       | 6年                             |  | 12年 |  |    |  |
| 1. 施設環境マネジメント  | 耐震強度の低い建物から順次補強改修していく。<br>また、補強工事と同時にファサードデザインの改善を行う。 | ●耐震設計→補強・改修                    |  |     |  |    |  |
| 2. キャンパス資源の整備  | 既存建物の保存、改修、移転など順次整備していく。                              | ●施設利用方針検討 ●赤レンガ資料館 ●課外活動施設 ●病棟 |  |     |  |    |  |
| 3. デザインガイドライン  | 誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。  | ●デザインガイド作成 ●サイン計画              |  |     |  |    |  |
| 4. 環境・サステナビリティ | 積極的に県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)を使用し、地域産業への関心を高める。           | ●施設計画に合わせて使用検討                 |  |     |  |    |  |

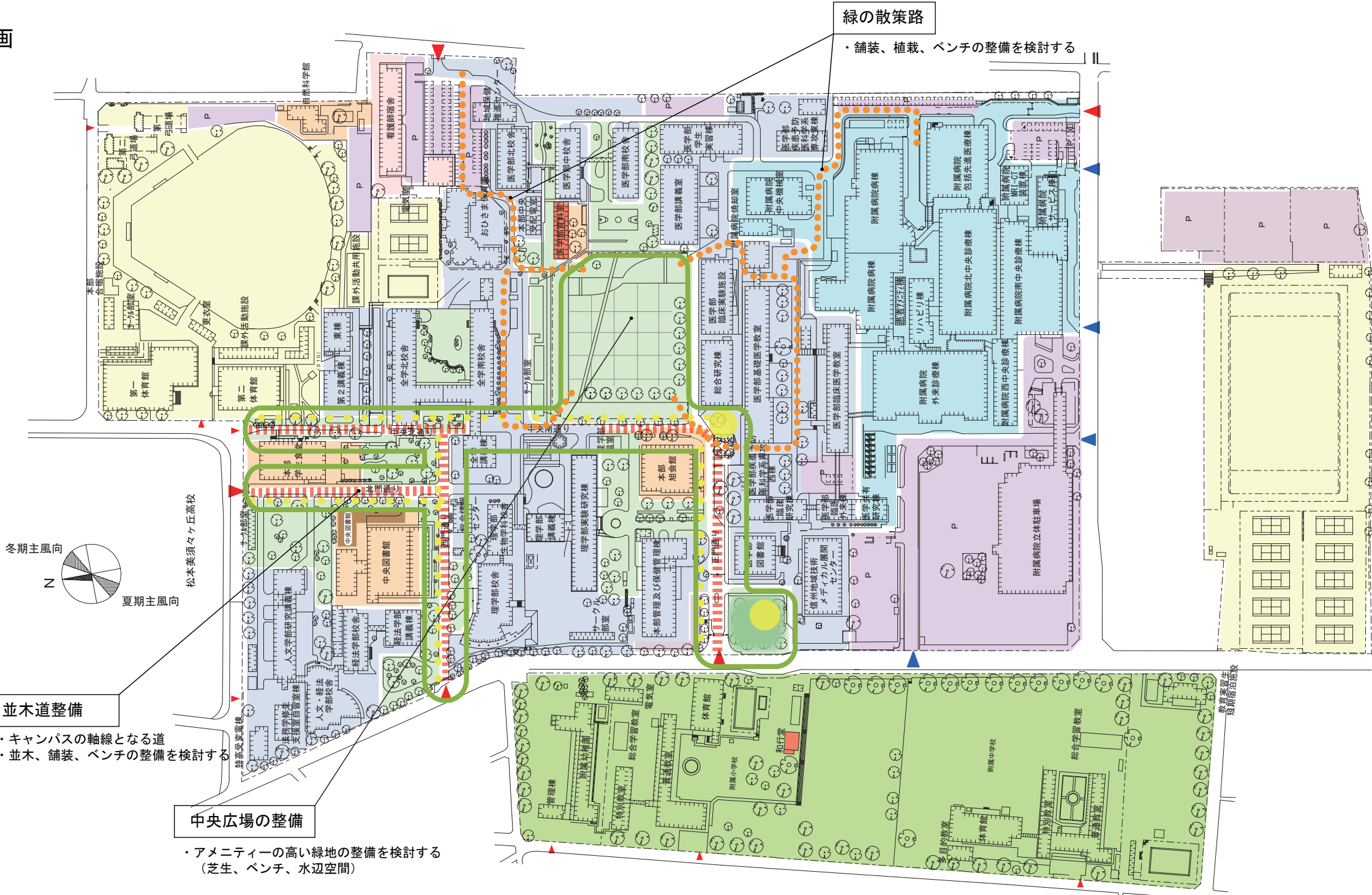
3-3-3 パブリックスペースの計画

■現状と課題

キャンパス中央にあるグラウンドが現在駐車場として利用されており、全学部の学生や教職員が集い交流できる広場などへの転換が期待される。

■方針

緑化、歩道改修など、散策路等の整備により学生、患者及び職員が憩える緑豊かな美しいキャンパス環境整備を検討する。  
また暫定駐車場となっている運動場については広域防災の対応等、安全・安心の確保の場として活用を検討していく。



計画ゾーニング凡例

|            |          |
|------------|----------|
| 教育・研究ゾーン   | 附属病院ゾーン  |
| 運動・課外活動ゾーン | 附属学校ゾーン  |
| 地域連携ゾーン    | 景観形成軸    |
| 駐車場ゾーン     | 保存活用する建物 |
| 緑地広場ゾーン    | 新規計画建物   |
| 居住ゾーン      | キャンパス出入口 |
|            | 病院出入口    |

凡例

|                |
|----------------|
| 散策路            |
| 広場整備           |
| ベースライト(安全確保照明) |
| ハイルイト(演出照明)    |
| 並木道整備          |

| 事業項目            |                                                         | 事業展開       |  |           |       |  |     |    |  |
|-----------------|---------------------------------------------------------|------------|--|-----------|-------|--|-----|----|--|
|                 |                                                         | 短期         |  | 6年        | 中期    |  | 12年 | 長期 |  |
| 1. 緑地・緑化整備      | 並木道、散策路の整備や正門脇の広場の整備を行う。                                | ●正門脇広場整備   |  | ●並木、散策路整備 |       |  |     |    |  |
| 2. 中央広場整備       | 暫定駐車場となっている運動場については広域防災の対応等、安全・安心の確保の場（中央広場）として活用を検討する。 | ●駐車場の移動    |  | ●中央広場の整備  |       |  |     |    |  |
| 3. サイン・アート・照明計画 | わかりやすい案内サイン、夜間の安全を確保できるベースライトを整備する。                     | ●サイン       |  | 照明設計      | ●随時整備 |  |     |    |  |
| 4. ユニバーサルデザイン   | 誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイドラインをつくり、空間設計に反映させる。 | ●デザインガイド作成 |  |           |       |  |     |    |  |



## 1 緑地・緑化整備

-パブリックスペースの計画ディテール-

## ■方針

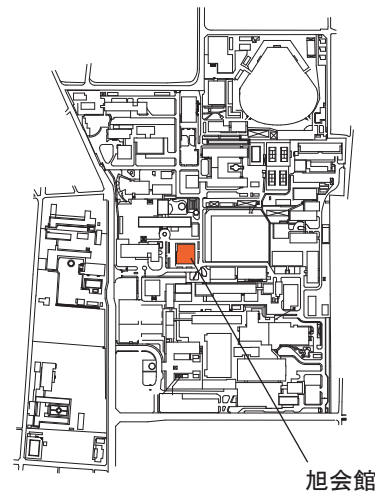
キャンパスの軸となるような並木道を整備する。また、地域の人達も通り抜けられる気持ちの良い散策路として景観に適した舗装を整備する。

## ●中央南通り

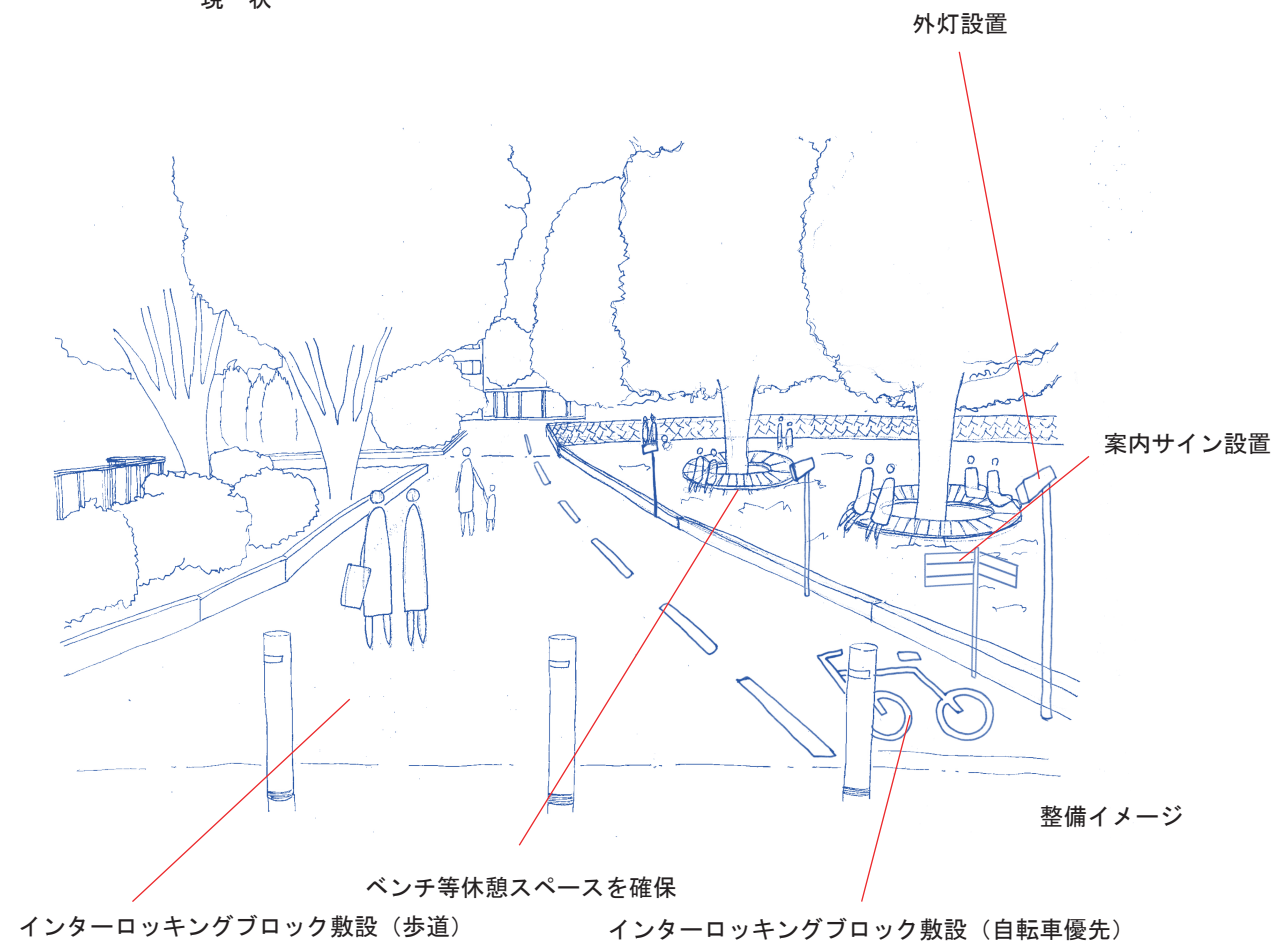
旭会館の東側前面道路は、現在はアスファルト舗装となっており、両側を車止めで車両進入禁止にはしているものの、駐輪場の不足から自転車が道路側に溢れ、休憩するスペースもなく、単なる「通路」としての機能しか果たしていない。ここを学生のためのアメニティ空間として環境整備する。



現 状



旭会館



## 2 中央広場整備

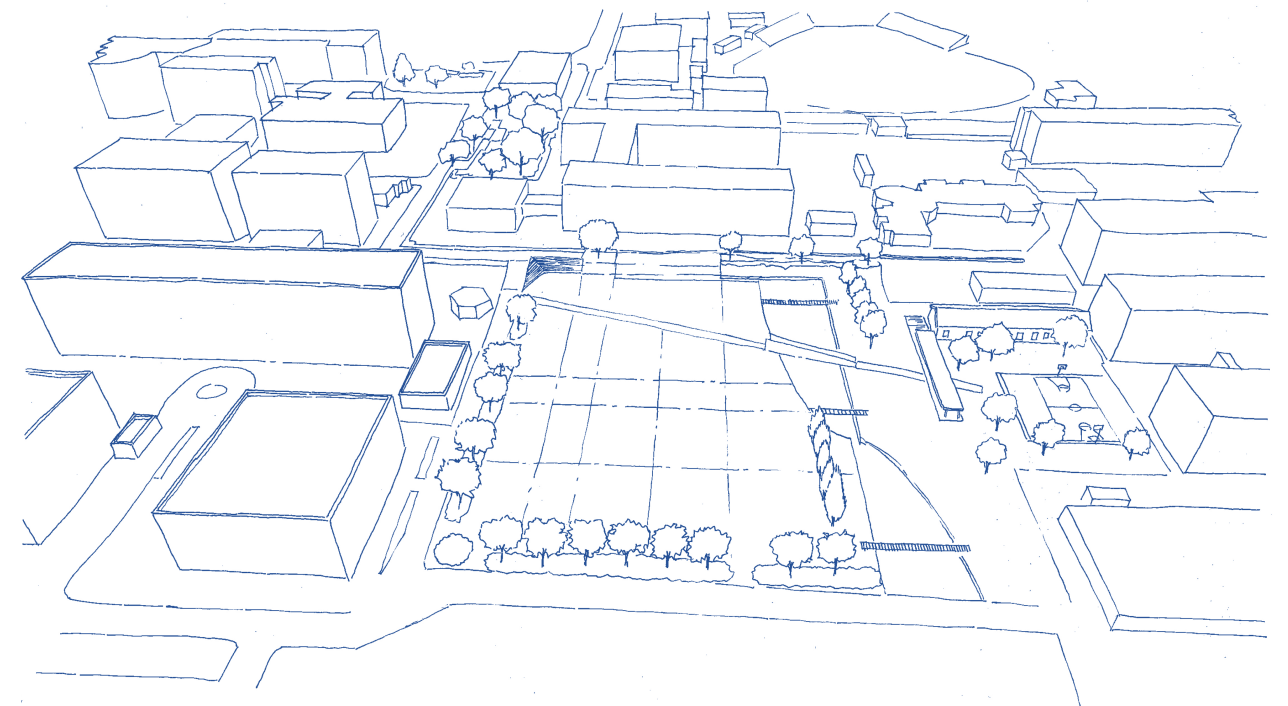
-パブリックスペースの計画ディテール-

## ■方針

大学にふさわしいアメニティーの高い緑地を整備する。その際に、芝生やベンチを配置し、学生や教職員のみならず、地域住民も集い交流できる憩いの場とする。重点的に整備する場所を検討し整備を進めていく。キャンパスの中央に位置するこの場所が、駐車場から広場へと転用されることは、防災面でも重要な意味を持つ。



現 状



整備イメージ

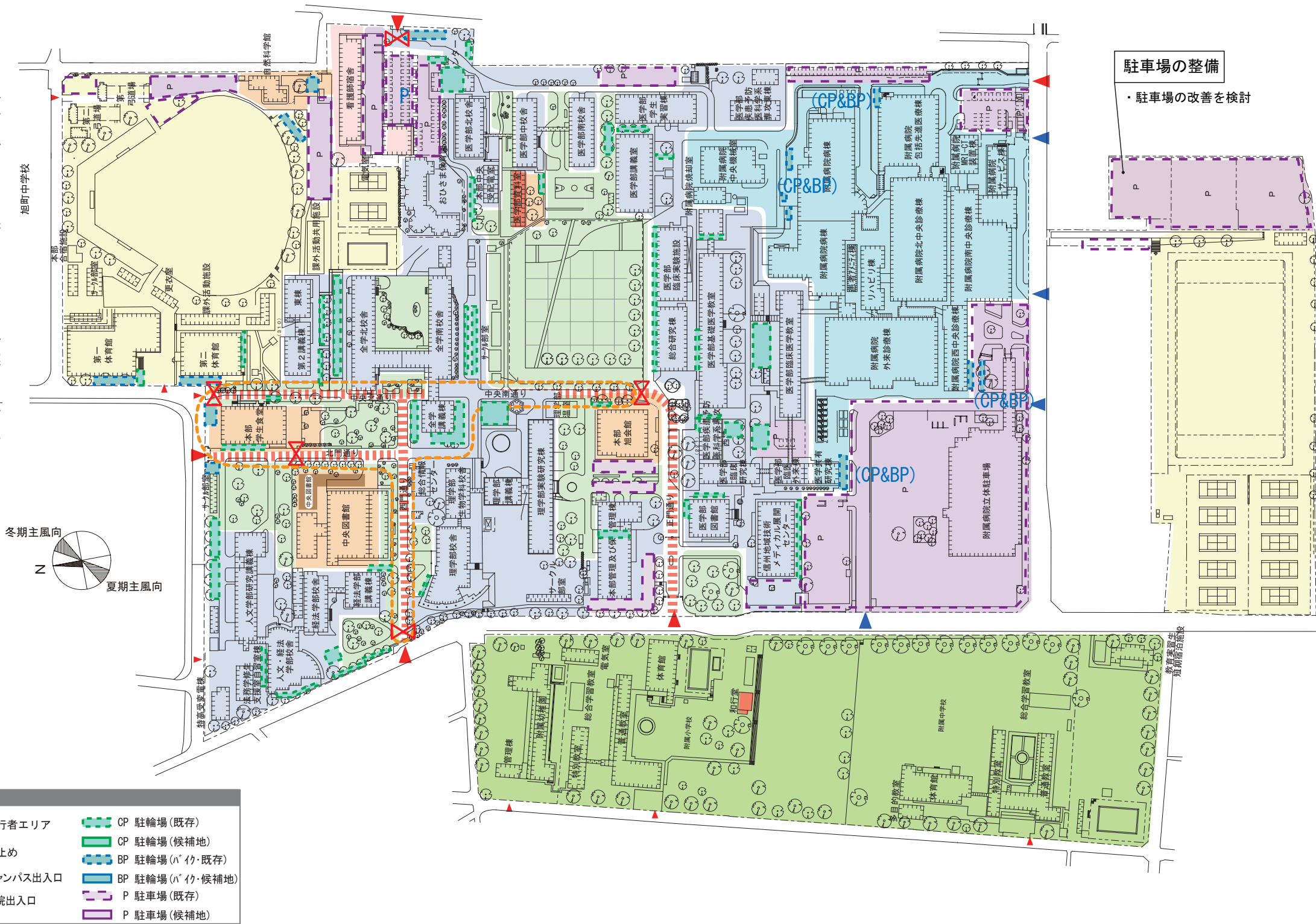
3-3-4 交通・動線の計画

■現状と課題

車ででの来訪が多くキャンパス内道路端への駐車も多い。現在約450台分の駐車場となっているグラウンドを有効活用するため、その収容台数を新たに確保する必要がある。また、キャンパス内の各所に設置されている自転車置き場は飽和状態であり、建物周辺に放置する自転車も多く、景観悪化の原因となっている。

■方針

自転車については、交通動線が複雑で進入禁止領域の設定は難しいため、現状の駐輪状況を勘案し、駐輪場整備を検討する。バイクは門の近くの駐輪場を利用し、構内の走行を禁止する。駐車場に関しては、今後のニーズに合わせて整備を行い必要な駐車台数を確保する。



| 計画ゾーニング凡例  |          | 凡 例      |                 |
|------------|----------|----------|-----------------|
| 教育・研究ゾーン   | 居住ゾーン    | 歩行者エリア   | CP 駐輪場(既存)      |
| 運動・課外活動ゾーン | 附属病院ゾーン  | 車止め      | CP 駐輪場(候補地)     |
| 地域連携ゾーン    | 附属学校ゾーン  | キャンパス出入口 | BP 駐輪場(バイク・既存)  |
| 駐車場ゾーン     | 景観形成軸    | 病院出入口    | BP 駐輪場(バイク・候補地) |
| 緑地広場ゾーン    | 保存活用する建物 |          | P 駐車場(既存)       |
|            | 新規計画建物   |          | P 駐車場(候補地)      |

| 事業項目           |                                 | 事業展開       |  |  |    |  |  |    |  |
|----------------|---------------------------------|------------|--|--|----|--|--|----|--|
|                |                                 | 短期         |  |  | 中期 |  |  | 長期 |  |
| 1. 駐車場整備       | キャンパス内外の駐車場確保などを含めた駐車場の整備を実施する。 |            |  |  |    |  |  |    |  |
|                |                                 | ●駐車場整備     |  |  |    |  |  |    |  |
| 2. 駐輪場修繕・車止め設置 | 景観に配慮した駐輪場の整備や修繕、車止め等の設置をする。    |            |  |  |    |  |  |    |  |
|                |                                 | ●駐輪場、車止め整備 |  |  |    |  |  |    |  |



## 1 駐車場整備

ー交通・動線の計画ディテールー

## ■職員駐車場確保における今後の検討の方向性

## ○ 整備に伴う問題点

- ・ 既存職員駐車場の駐車台数が充足せず、暫定的に第2運動場を駐車スペースとして使用している。
- ・ 第2運動場等の暫定使用を見直し、必要な台数を確保するために、松本市の立地適正化計画の動向に留意しつつ、立体駐車場等の整備を検討していく。

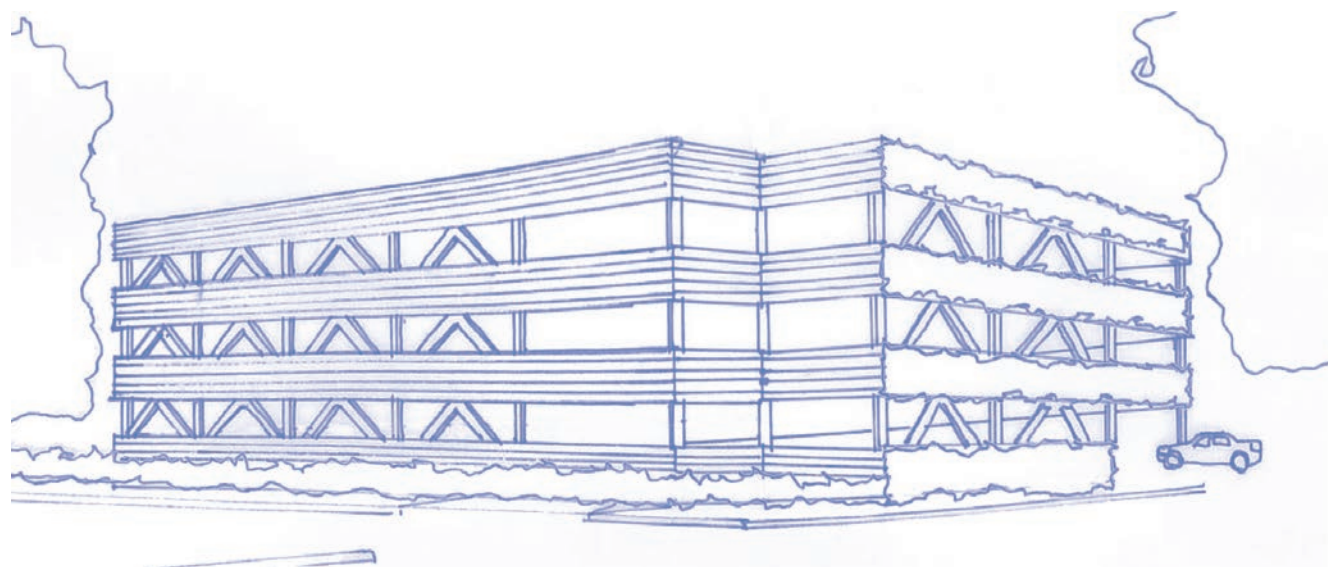
## ○ これまでの取り組み

駐車場不足の対策としてこれまでに以下の内容について取り組んできた。

- ・ 既存駐車場内ライン引き直しによる駐車スペースの追加
- ・ 構内未利用地の整備等による駐車スペースの増設設備
- ・ 立体駐車場建設の検討
- ・ 松本市との協議

## ○ 今後の検討

- ・ 立体駐車場等の整備に関し、今後、松本市等との協議を重ね、その実施を目指していく。



立体駐車場建設イメージ

## 2 駐輪場修繕・車止め設置

ー交通・動線の計画ディテールー

## ■方針

景観形成軸上の放置自転車を減らすため、所定の場所への駐輪を徹底し、各駐輪場の改修や自転車ラックを設置するなど、現在ある駐輪スペースにより多くの自転車を止められる工夫をする。旭会館の利用者のための駐輪場を整備する必要もある。



旭会館周り

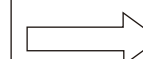


医学部講義室周り



全学～図書館周り

現状



サイクルラックなどで収容台数を増やす工夫をする。

工夫



3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

■現状と課題

- [受配電設備]

電力供給会社より、70kV特別高圧2回線で受電し、特高変圧器2台により、6kVに降圧し、各学部、附属病院、附属松本学校園等へ配電している。
- [自家発電設備]

附属病院中央機械室に1,000kW、800kW700kWの3台、臨床実験施設棟に160kWが1台、旭総合研究棟に80kWが1台、総合情報センターに25kW2台が設置されている。また災害時に対応するために、災害本部が設置される本部管理棟及び避難所となる体育館に非常用発電機が設置済みである。
- [給水設備]

市水本管より供給を受け、高架水槽方式等により各建物に給水。また、深井戸2本により中央機械室受水槽から、医学部及び附属病院で便所洗浄等に使用。尚、一部の建物では、雨水を中水として利用している。
- [排水設備]

雨水系・生活系・実験系の3系統分流式がある。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流される。生活系・実験系は公共下水道へ放流される。尚、実験排水は実験系建物単位でPH濃度をモニタリングしている。
- [ガス設備]

都市ガス(13A)を2箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給。また中圧配管を設置し中央機械室に供給している。
- [空調設備]

新営建物及び改修整備済建物については個別空調が主体である。一部は蒸気による暖房となっており、熱源は中央機械室より供給しているが各建物一括供給であるため、個別暖房ができずエネルギーロスが多い。各施設に適したシステムが必要である。
- [廃棄物]

資源の有効活用のため分別の徹底によるリサイクル化の推進。それ以外の一般廃棄物・実験系廃棄物及び医療系廃棄物は業者に委託して処理している。

■方針

1. 省エネルギー化

設備機器（ボイラー）の耐用年数を鑑みGHP（ガスヒートポンプ）、EHP（電気ヒートポンプ）の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。ZEBについても検討していく。
2. 地球環境への配慮

C02の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。
3. 循環型社会への取り組み

ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど各キャンパスの課題としてキャンパス毎に研究し取り組んでいく。
4. 衛生管理上の問題への配慮

高架水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。



| 項 目       | 事 業 展 開                                                    |     |     |
|-----------|------------------------------------------------------------|-----|-----|
|           | 短 期                                                        | 中 期 | 長 期 |
| 1. インフラ整備 | ●維持管理計画策定<br>●給排水・ガス配管の改修および更新<br>●空調熱源の検討<br>●加圧ポンプ式給水の検討 |     |     |
| 2. 廃棄物処理  | ●処理方法の検討<br>●ゴミ置き場の整備<br>●その他廃棄物施設の整備                      |     |     |



3-3-6 コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

松本キャンパスは複数学部があり、建物が密集しオープンスペースも点在しているため、全学部生が交流できる核となる場所は学食周辺など一部に限られている。また、図書館や学食周辺においては個々のエリアが独立し他との連続性に欠けている。

■方針

イベント開催や諸施設の積極的な地域開放により、市民も気軽に来れる、より地域に開かれたキャンパス運営とする。

計画ゾーニング凡例

|            |          |
|------------|----------|
| 教育・研究ゾーン   | 居住ゾーン    |
| 運動・課外活動ゾーン | 附属病院ゾーン  |
| 地域連携ゾーン    | 附属学校ゾーン  |
| 駐車場ゾーン     | 景観形成軸    |
| 緑地広場ゾーン    | キャンパス出入口 |
|            | 病院出入口    |

凡 例

|                       |
|-----------------------|
| 地域開放推進施設              |
| 地域共用・コミュニティゾーン        |
| 附属病院エリア               |
| 各コミュニティゾーンをつなぐグリーンベルト |
| 散策路                   |



| 事業項目                    | 事業展開                                        |    |    |
|-------------------------|---------------------------------------------|----|----|
|                         | 短期                                          | 中期 | 長期 |
| 1. 交流施設の計画・運営への学生や市民の参加 | イベント企画など広く市民にも呼びかけ、学生や教職員はじめ市民の交流の場として活用する。 |    |    |
| 2. 施設の地域開放促進            | 諸施設の地域開放を促進する。                              |    |    |

|   |           |                  |
|---|-----------|------------------|
| 2 | 施設の地域開放促進 | -コミュニティの計画ディテール- |
|---|-----------|------------------|

■方針

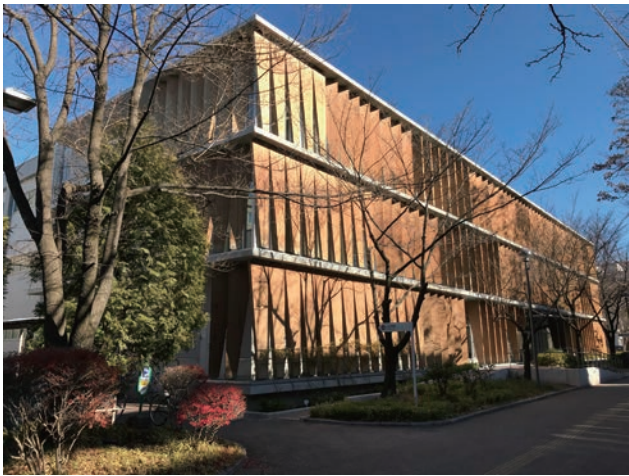
キャンパス内の施設を地域に開放し、多くの人が利用できるようにする。

●既存施設（運動施設・図書館・福利施設）

民間経営会社との業務委託契約（土日に限る）によりトータル的な施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。  
図書館の地域開放により利用者が年間3万人を超えるようになった。



体育館



中央図書館







# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2018

## B. 長野（教育）キャンパス ～ 学生と地域を結ぶ 緑地空間が育むまちなか交流の知 ～





キャンパスマスタープランについて

1－1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 ..... 1

1－2. アクションプランの位置づけ ..... 1

1－3. 信州大学の理念との整合 ..... 2

1－4. PLAN “the N・E・X・T”、信州大学ビジョン2015／信州飛翔プランとの整合 … 2

1－5. キャンパスの全体像 ..... 6

1－6. 各キャンパス共通事項 ..... 7

B. 長野(教育)キャンパス

2. 現状分析

2－1. 配置図・現状写真・問題点 ..... B－1

2－2. ディベロップメントプラン ..... B－1

3. 長野(教育)キャンパスマスタープラン

3－1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針 ..... B－2

3－2. 基本方針と戦略 ..... B－3

3－3. カテゴリー別計画

3－1. 全体骨格・フレームワーク ..... B－4

3－3－2. 施設配置・計画 ..... B－5

(1)環境施設マネジメント (2)キャンパス資源の整備

(3)デザインガイドライン (4)環境・サステイナビリティ

3－3－3. パブリックスペースの計画 ..... B－7

(1)緑地・緑化整備 (2)ランドスケープ整備 (3)市民参加

(4)サイン・アート計画 (5)照明計画 (6)ユニバーサルデザイン

3－3－4. 交通・動線の計画 ..... B－9

(1)駐車場整備 (2)駐輪場整備 (3)ゲートの整備 (4)正門周りの整備

3－3－5. 設備・インフラストラクチャーの計画 ..... B－11

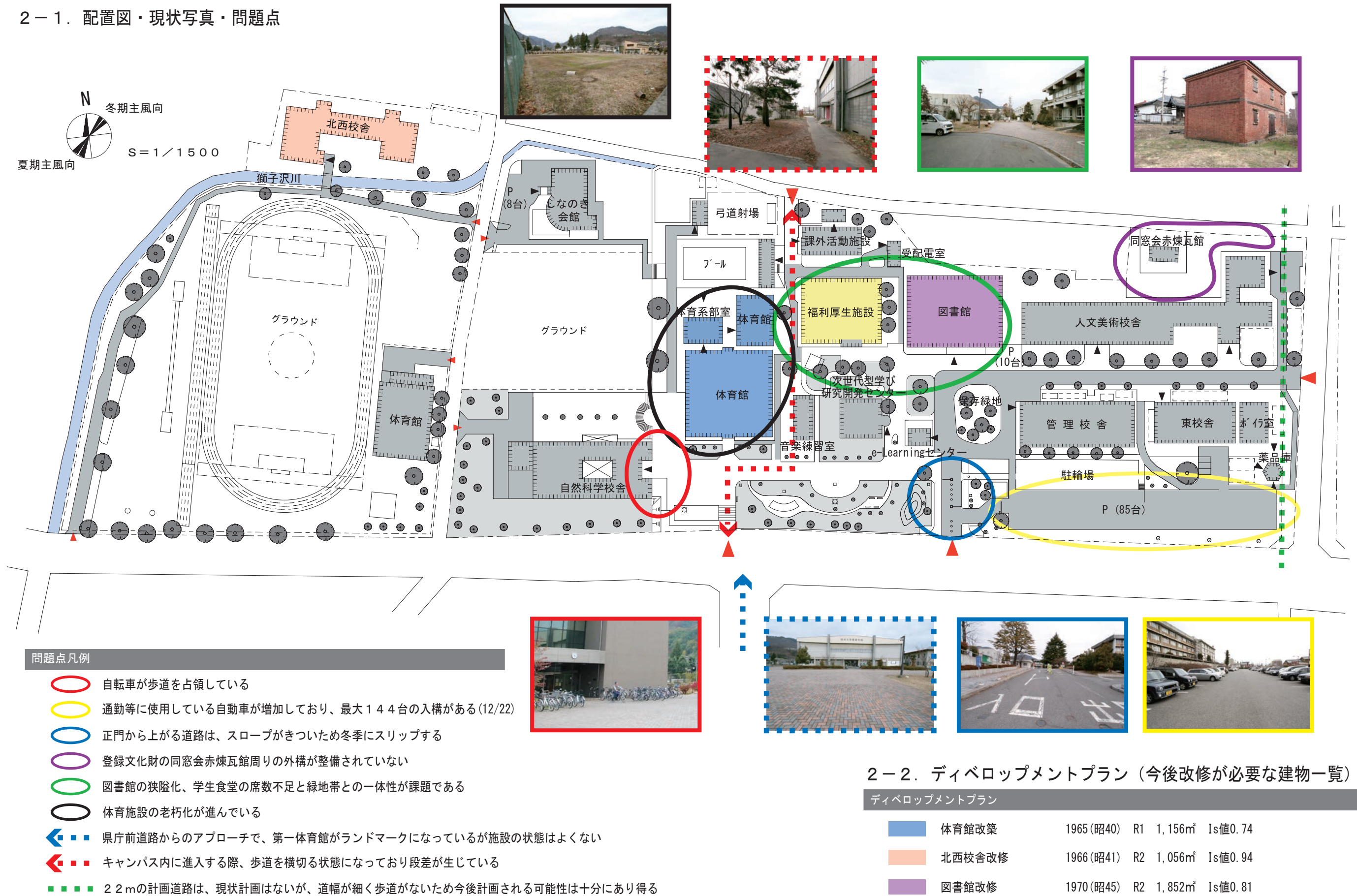
(1)インフラ整備 (2)廃棄物処理

3－3－6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 ..... B－12

(1)駐車場の有料化と一般開放 (2)施設の地域開放推進



## 2-1. 配置図・現状写真・問題点



### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学長野(教育)キャンパスは、大学の理念及び教育学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティという6つのカテゴリーに分類整理し、全体骨格を除く5つのカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■教育学部の理念・目標

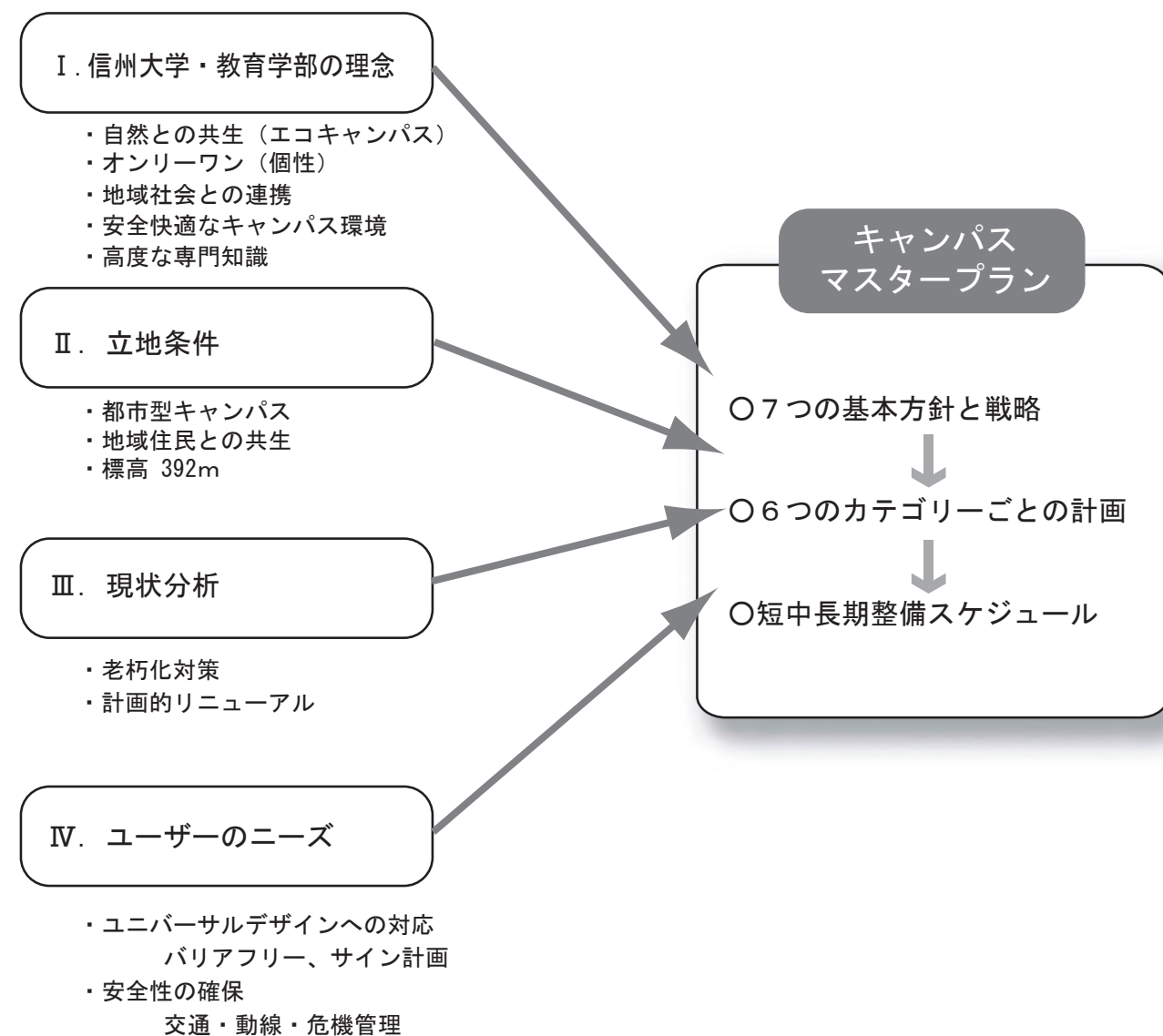
##### (理 念)

教育学部は、信州の恵まれた自然環境と教育を尊重する県民の気風・風土の中で、豊かな人間性と専門的知識及び実践に培う基礎的能力を身につけた、明日の教育を担う人材を育成する。このため、附属学校園との一体化はもとより、教育委員会や諸学校との連携を深め、地域や家庭の協力のもと実践的な知の体系としての「臨床の知」の修得を目指した教育研究を推進する。

##### (目 標)

「臨床の知」の理念のもと、次の目標を掲げて教育研究を推進する。

1. 高度な専門知識と実践的な教育技術を身につけ、創造性に溢れた教育者の育成
2. 附属学校園の積極的な活用等により、教え方の工夫や新たな教材開発など教育現場に役立つ研究の推進
3. 教育委員会や地域の諸学校等と連携し、不登校、学力問題、カリキュラム開発等の多様な教育課題を解決するための専門的な支援
4. 生涯教育・リフレッシュ教育等の地域社会の要請に対応する開かれた教育・研究体制の構築





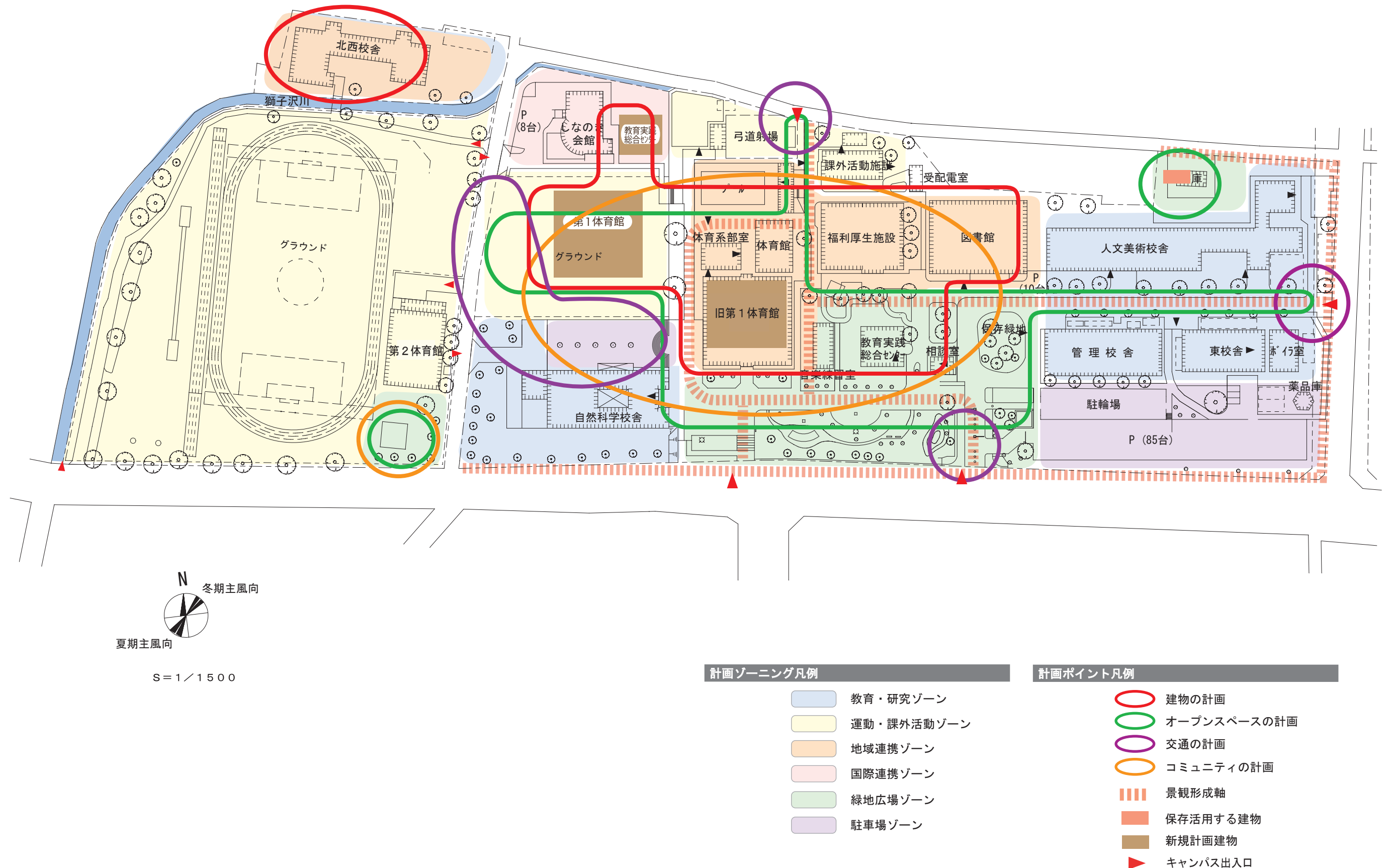
## 3-2. 基本方針と戦略 ～こどもと地域と学びあう まちなか学びの森～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

| 基本方針 |                                                                                                                                                                                                                                       | 戦 略                                                                                                                                        | カテゴリー                                                                                                                                                                                                |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | <b>キャンパスアイデンティティー</b><br>【学部の特徴を生かす】<br>・学校教員の養成を使命とした教育学部の多様な教育課程<br>・信州教育の資質、教員の多様な専門性を活かした取り組み<br>【都市立地を生かす「都市型キャンパス」】<br>・学外施設の共有利用<br>・周辺景観への配慮<br>・現代的な教育課題に対応する教育機関としてのキャンパス                                                   | ・音、アートなど五感で感じる空間づくり<br>・教育環境の充実・発展のための先進的な施設の整備（総合体育館）                                                                                     | ・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備<br>・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備<br>・パブリックスペース(4)サイン・アート計画                                                                                                                            |
| 2    | <b>アメニティを高める現状資産の活用</b><br>【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】<br>・大学の顔、象徴的建物[シンボル]<br>・地域に開かれた広場や通り抜けの道<br>・エッジの景観とアクセスのしやすさ<br>・豊かな自然と眺望、石碑・歌碑などの文化遺産<br>【ニーズに対応した施設利用】<br>・学生、職員の交流スペース<br>・教育研究環境の充実<br>・駐車場、駐輪場動線の見直し<br>【老朽化対策】<br>・建物の安全性の確保 | ・シンボル広場整備(まなび広場、同窓会赤煉瓦館周り等)<br>・道の整備(舗装、緑化交流スペース)<br>・ゲートの整備、駐車場・駐輪場の見直し<br>・施設整備(第一体育館)<br>・機能改善(音楽練習棟、模擬授業教室、理科実習室等)<br>・インフラストラクチャーの見直し | ・施設配置・計画(1)環境施設マネジメント<br>・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備<br>・パブリックスペース(1)緑地・緑化整備<br>・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備<br>・パブリックスペース(6)ユニバーサルデザイン<br>・交通・動線(1)駐車場整備<br>・交通・動線(2)駐輪場整備<br>・交通・動線(3)ゲートの整備<br>・インフラ(1)インフラ整備 |
| 3    | <b>地域社会との連携</b><br>【「知財・人財・資財」の共有、発展】<br>・教育学部の人的資源を活かした地域社会へのアウトリーチ活動<br>・産学官協働<br>・施設開放(駐車場、図書館、体育館等)<br>【地域住民との共生】<br>・パブリックスペースの協同管理、整備<br>・街中教室での授業の実施など地域の中へ溶け込み、広がっていくキャンパス                                                    | ・地域における生涯スポーツ拠点、教育文化交流の拠点整備<br>・教育現場との連携、家庭との連携<br>・駐車場の有料化と一般開放<br>・図書館、福利施設等の地域開放<br>・防災拠点としての機能向上                                       | ・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備<br>・交通・動線(1)駐車場整備<br>・コミュニティ(1)駐車場の有料化と一般開放<br>・コミュニティ(2)施設の地域開放推進<br>・維持管理(1)施設管理のシステム化                                                                                       |
| 4    | <b>参加型キャンパス</b><br>【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】<br>・学生、教職員が参加した点検評価<br>・意識向上                                                                                                                                                                 | ・定期的な点検評価のシステム、組織づくり<br>・キャンパスづくりへの参加活動                                                                                                    | ・施設配置・計画(3)デザインガイドライン<br>・パブリックスペース(3)市民参加<br>・維持管理(2)参加型点検評価                                                                                                                                        |
| 5    | <b>サステナビリティ</b><br>【地域の風土の反映】<br>・地場産材の使用や地域産業との連携<br>【エコキャンパス】<br>・省エネ、CO2削減<br>【循環型社会への取り組み】<br>・ゴミ削減、リサイクル、リユース                                                                                                                    | ・県産材(信州から松・土・わらすさ・和紙など)の使用<br>・維持管理計画の策定<br>・景観に配慮したゴミ置き場の整備                                                                               | ・施設配置・計画(4)環境・サステナビリティ<br>・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備<br>・インフラ(2)廃棄物処理<br>・維持管理(1)施設管理のシステム化                                                                                                              |
| 6    | <b>ユニバーサルデザイン</b><br>【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】<br>・誰もが使いやすい<br>【わかりやすいキャンパス】<br>・迷わない案内                                                                                                                                                   | ・ユニバーサルデザイン(デザインガイドラインの策定)<br>・サイン計画                                                                                                       | ・施設配置・計画(3)デザインガイドライン<br>・施設配置・計画(4)サイン・アート計画<br>・パブリックスペース(6)ユニバーサルデザイン                                                                                                                             |
| 7    | <b>安全・安心なキャンパス</b><br>【安全な歩行空間】<br>・人と車と自転車の動線の分離<br>【防犯、危機管理】<br>・夜間の安全性                                                                                                                                                             | ・交通計画、駐車場計画、駐輪場計画、ゲート整備<br>・避難所機能の充実(総合体育館)<br>・照明計画(夜間照明の充実)<br>・廃棄物処理計画                                                                  | ・パブリックスペース(5)照明計画<br>・交通・動線(1)駐車場整備<br>・交通・動線(2)駐輪場整備<br>・交通・動線(3)ゲートの整備<br>・インフラ(2)廃棄物処理<br>・コミュニティ(2)施設の地域開放推進                                                                                     |

### 3-3 カテゴリー別計画

#### 3-3-1 全体骨格・フレームワーク





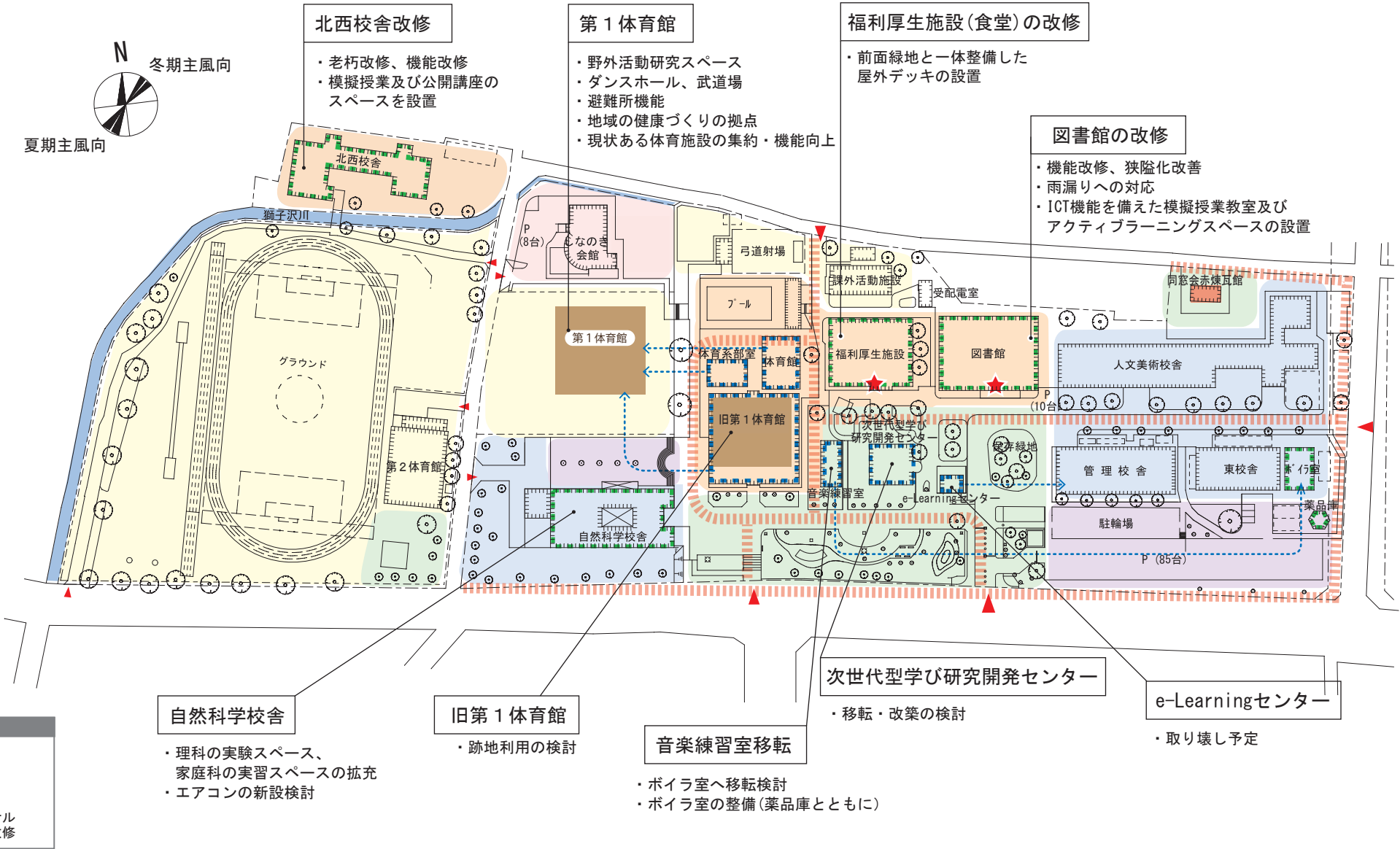
3-3-2 施設配置・計画

■現状と課題

現在ある建物は建設時期の古いものから比較的最近建てられたもので、構造、規模、デザイン等統一されていない。また、内外装の老朽化が進んでいる。各施設のバリアフリー対策が不十分であり、車椅子等によるアクセスが困難である。現状の施設を最大限に活かしつつ、構造的な安全性の確保とニーズに対応した空間の整備が必要である。

■方針

学生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるよう、既存建物の老朽化対策・機能向上をし、ニーズに対応したリニューアルを行う。内外装は地元の材料等の使用を積極的に検討する。さらに、キャンパスに愛着をもてるよう、建設過程においても学生や市民も参加できるような仕組みをつくるのが望ましい。また、誰もが使いやすいユニバーサルデザインのガイドラインを作成し、順次整備する。既存の体育施設は、集約することで、機能の向上を目指す。



| 計画ゾーニング凡例  |         | 凡 例       |              |
|------------|---------|-----------|--------------|
| 教育・研究ゾーン   | 緑地広場ゾーン | 内外装リニューアル | ユニバーサルデザイン改修 |
| 運動・課外活動ゾーン | 駐車場ゾーン  | 解体・移転     |              |
| 地域連携ゾーン    |         | 保存活用する建物  |              |
| 国際連携ゾーン    | 景観形成軸   | 新規計画建物    |              |

| 事業項目           |                                                                               | 事業展開                   |  |                                   |  |    |  |  |  |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------|------------------------|--|-----------------------------------|--|----|--|--|--|
|                |                                                                               | 短期                     |  | 中期                                |  | 長期 |  |  |  |
|                |                                                                               | 6年                     |  | 12年                               |  |    |  |  |  |
| 1. 施設環境マネジメント  | 空調・衛生設備・セキュリティなど建物の機能向上を図る。                                                   | ●空調・衛生設備・セキュリティなどの機能向上 |  |                                   |  |    |  |  |  |
| 2. キャンパス資源の整備  | 学生、教職員のニーズに合わせ図書館、福利施設など老朽・狭隘解消を目的とした改修を順次行う。また地域交流を含め多用途に運用可能な総合体育館の整備を推進する。 | ●施設利用方針検討 ●施設設計        |  | ●第1体育館 ●自然科学校舎 ●音楽練習室移転 ●福利厚生施設再生 |  |    |  |  |  |
| 3. デザインガイドライン  | 誰もが使いやすいデザイン（キャンパス内のバリアフリー化）、分かり易い案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。           | ●デザインガイド作成 ●サイン計画      |  |                                   |  |    |  |  |  |
| 4. 環境・サステナビリティ | 県産材(信州から松・土・わらすさ・和紙など)を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。                                |                        |  | ●施設計画に合わせて使用検討                    |  |    |  |  |  |

## 2 キャンパス資源の整備

## 一施設配置・計画ディテール

## ■方針

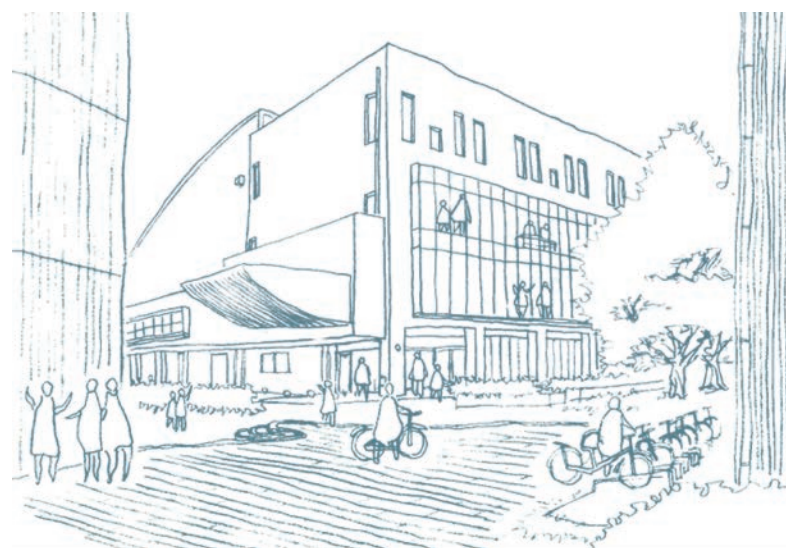
豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

## ●第1体育館

野外活動研究スペース、ダンスホール、武道場、避難所などの機能を備え、地域の健康づくりの拠点となる施設を建設する。



現 状



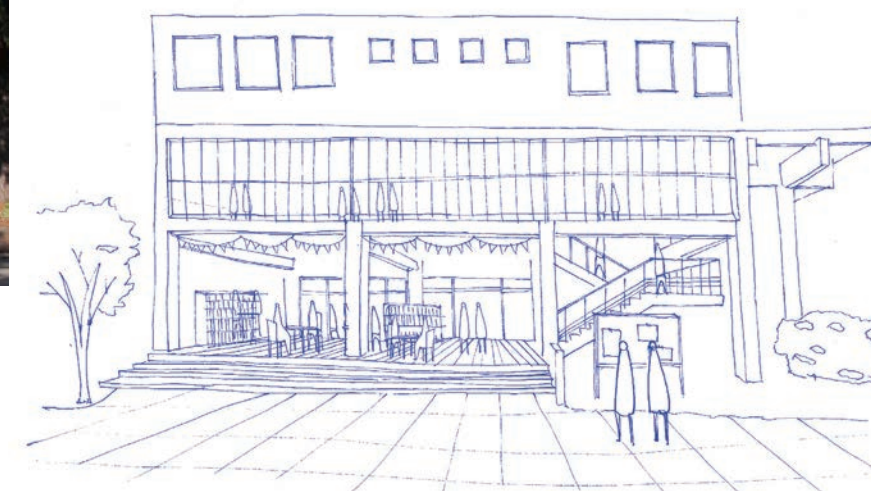
整備イメージ

## ●図書館

機能改修、狭隘化改善事業を実施し、「学びの核」として学生の知の拠点かつ交流の場所とする。



現 状



整備イメージ

## ●学生食堂の整備

学生や教職員以外にも市民が利用しやすいよう、前面緑地と一体整備した屋根付き屋内デッキを設置する。



現 状



整備イメージ



3-3-3 パブリックスペースの計画

■現状と課題

現在のキャンパス内の広場としては、福利厚生施設前の緑地、国道406号線沿いの広場が学生たちの主な交流場所となっている。人文美術校舎の前には放置自転車も目立ち前庭の緑地がいかされてなく、アメニティの高い歩行空間としての整備が必要である。また、敷地周辺には住宅が立ち並び構内を通り抜けする人も多く、構内の緑地やグラウンドは地区公園としての利用ニーズもある。敷地の高低差に配慮しながら市民が入りやすいゲートや道、広場の整備を行う必要がある。

■方針

学生や教職員だけではなく地域の人にも広く利用される魅力的な広場を目指し、アクセスしやすい快適な道やわかりやすいゲートを整備する。既存の緑地や歴史的文化的遺産も活用し、塀や石垣などで閉じている敷地境界は、アート広場など沿道に開かれた圧迫感のない空間とする。

外来者も気持ちよく利用できるようにベンチや照明、わかりやすい案内を整備する。



| 計画ゾーニング凡例  |         |  |  |
|------------|---------|--|--|
| 教育・研究ゾーン   | 緑地広場ゾーン |  |  |
| 運動・課外活動ゾーン | 駐車場ゾーン  |  |  |
| 地域連携ゾーン    |         |  |  |
| 国際連携ゾーン    | 景観形成軸   |  |  |

| 凡 例  |                 |  |  |
|------|-----------------|--|--|
| 市民の道 | 広場の整備           |  |  |
| 学問の道 | ベンチ休憩スペース       |  |  |
| 歴史の道 | ユニバーサルデザイン改修    |  |  |
|      | ベースライト (安全確保照明) |  |  |
|      | ハイライト (演出照明)    |  |  |

| 事業項目          | 事業展開 |                   |                                                        |                                             |
|---------------|------|-------------------|--------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
|               | 短期   | 6年                | 中期<br>12年                                              | 長期                                          |
| 1. 緑地・緑化整備    |      |                   | センター広場 1期(前庭) ●設計 ●整備<br>アート広場 ●設計 ●整備<br>煉瓦広場 ●設計 ●整備 | センター広場 2期(拡張) ●設計 ●整備                       |
| 2. ランドスケープ整備  |      |                   | 市民の道1期(南北) ●設計 ●整備<br>●人文美術校舎前整備 (ベンチ、休憩スペース)          | 市民の道2期(南北) ●設計 ●整備                          |
| 3. 市民参加       |      |                   | センター広場 1期(前庭) ●設計 ●整備<br>市民の道1期(南北) ●設計 ●整備            | センター広場 2期(拡張) ●設計 ●整備<br>市民の道2期(南北) ●設計 ●整備 |
| 4. サイン・アート計画  |      | サイン計画 ●設計 ●整備     | ●設計 ●整備                                                |                                             |
| 5. 照明計画       |      | 照明設計 ●設計 ●整備      | ●設計 ●整備                                                |                                             |
| 6. ユニバーサルデザイン |      | デザインガイド作成 ●設計 ●整備 | アート広場のスロープ計画 ●設計 ●整備                                   |                                             |

## 1 緑地・緑化整備

ーパブリックスペースの計画ディテールー

## ■方針

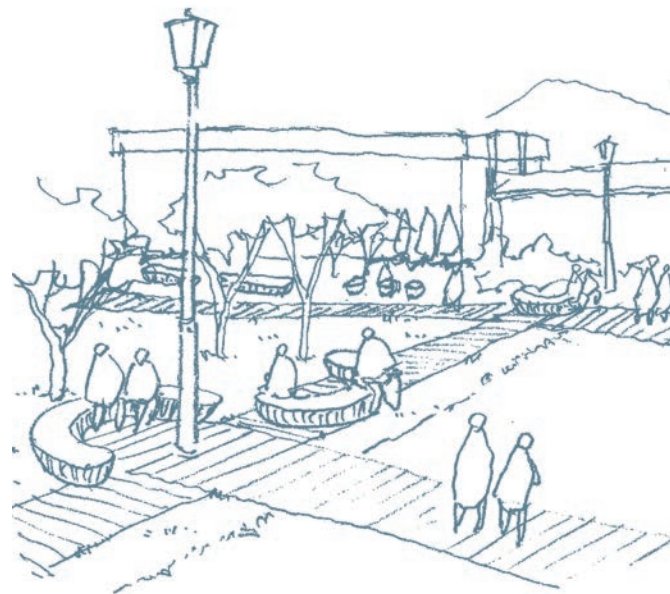
旭山の眺望や夜間の照明演出等の工夫をし、地域の人も広く利用できる緑豊かな広場を整備する。また、教育学部らしく、音やアートなど五感で感じる空間づくりとする。

## ●センター広場整備

図書館及び学食前の保存緑地地帯をアメニティの高いコミュニティースペースとして植栽の再整備とベンチ等の整備を行う。



現 状



整備イメージ

## 2 ランドスケープ整備

ーパブリックスペースの計画ディテールー

## ■方針

各門から伸びる東西、南北に通る道をキャンパスの軸として位置づけ、周辺の建物や広場とを結ぶ回遊ネットワークとして整備する。また、アメニティの高い憩いのスペースとしてベンチや植栽を整備していく。

## ●歴史の道

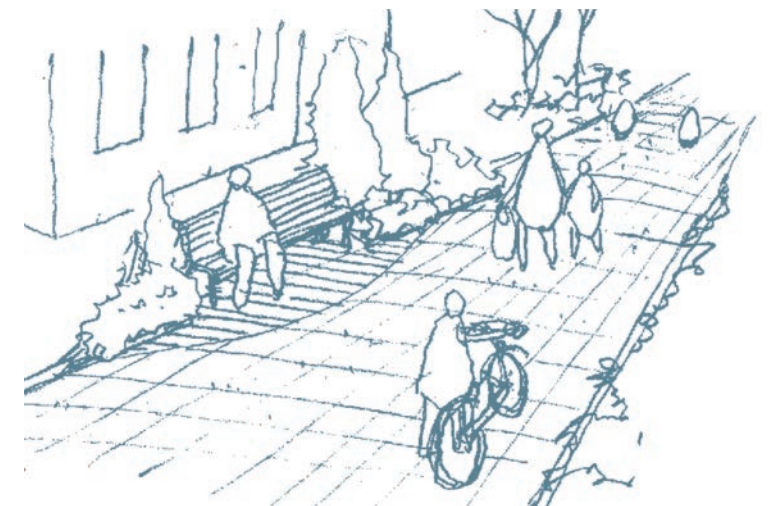
ベンチや植栽を適切な位置に配置し、東門からのアプローチを整備する。



整備イメージ

## ●市民の道

東西に長い本キャンパスにおいては北門から正門へ抜ける市民が多い。その通り抜けの道を「市民の道」として舗装を高質化したりベンチを設置するなど景観整備する。



整備イメージ



3-3-4 交通・動線の計画

■現状と課題

現在、国道406号線沿いに85台の駐車スペースがあり、正門と北門より構内へ車両の乗り入れが可能である。通勤等に使用している自動車が増えてきており、最大約120台の入構があるため、増設の検討が必要である。正門のスロープの勾配がきつく、冬季のスリップ対策が必要である。

また、自転車置き場は各所にまとまった規模で設置しているが、校舎前に放置されている自転車が多く、エントランスをふさいでるほか美観も損なっているため、その対策が課題である。

■方針

安全な歩行空間を確保するため歩車分離とする。正門からの車両の進入は来客メインとし、搬入車両は北側ゲートより進入する。原則として車両、自転車ともにゲート近くの駐車場および駐輪場にとめ、構内は歩くように促す（Park & Walk）。西側に駐車場を整備することで、歩車分離を進めていく。ただし、緊急車両やサービス用車両の乗り入れはできるようにする。また、自転車で通過する外来者の取扱いに関しては今後検討していく。

|     | 整備前  | 整備後   |
|-----|------|-------|
| 駐車場 | 103台 | 約210台 |
| 駐輪場 | 450台 | 約490台 |

| 計画ゾーニング凡例              |                      |
|------------------------|----------------------|
| <div></div> 教育・研究ゾーン   | <div></div> 緑地広場ゾーン  |
| <div></div> 運動・課外活動ゾーン | <div></div> 駐車場ゾーン   |
| <div></div> 地域連携ゾーン    | <div></div> 景観形成軸    |
| <div></div> 国際連携ゾーン    | <div></div> 保存活用する建物 |
|                        | <div></div> 新規計画建物   |

| 凡 例                 |                         |
|---------------------|-------------------------|
| <div></div> 車       | <div></div> CP 駐輪場(既存)  |
| <div></div> 歩行者     | <div></div> CP 駐輪場(候補地) |
| <div></div> 地域連携バス  | <div></div> P 駐車場(既存)   |
| <div></div> ゲート整備   | <div></div> P 駐車場(候補地)  |
| <div></div> 境界部分の改修 | <div></div> 車止め         |



駐車場整備

- ・自然科学校舎北側を駐車場とする（駐輪スペースも設ける）
- ・第1体育館整備にあわせて駐車場スペースを拡充する
- ・車用ゲート整備
- ・増設の検討

正門周り

- ・傾斜によるスリップ改善
- ・ゲート改修
- ・整備検討
- ・段差の解消

車庫

- ・改修検討

| 事業項目       |                                                                                    | 事業展開 |              |    |              |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------|----|--------------|
|            |                                                                                    | 短期   |              | 中期 |              |
|            |                                                                                    |      | 6年           |    | 12年          |
| 1. 駐車場整備   | 構内侵入を防ぐための車止めやサインを設置する。また、駐車場の冬季スリップ対策として舗装を改善し、出入口を整備する。                          |      | ●駐車場整備       |    | ●駐車場整備       |
| 2. 駐輪場整備   | 現在の収容量を確保しながら各ゲート近くへ集中設置する（多段式等の検討）。また、不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。 |      | ●駐輪場整備       |    | ●駐輪場整備       |
| 3. ゲートの整備  | 道の整備と合わせて大学の門構えや塀の改修を行う。また、ポケットパーク及び第1体育館のアクセスゲートを整備し、グラウンドへ横断する公道は車速を抑制する措置を検討する。 |      | ●「学問の道」ゲート整備 |    | ●「市民の道」ゲート整備 |
| 4. 正門周りの整備 | 車路の変更も含め、景観を考慮した改修を検討する。                                                           |      | ●検討          |    | ●整備          |

## 1 駐車場整備

ー交通・動線の計画ディテールー

### ■方針

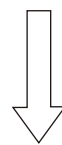
車はキャンパスの正門横にある駐車場に駐車し、原則としてキャンパス内への乗り入れを制限する。正門入り口部分の車両ゲートを撤去し、脱着式の車止めにより緊急車両や身障者の乗り入れはできるようにする。車両ゲートは駐車場出入口のみとする。また、駐車場の冬季スリップ対策として舗装を改善する。



正門入り口のゲート



駐車場



構内道路での路肩駐車

現状



照明器具もかねた車止めの例

工夫

## 2 駐輪場整備

ー交通・動線の計画ディテールー

### ■方針

現在自転車はキャンパス景観を損ねる最も大きな要因となっている。そこで自転車についても車同様にエントランスに隣接する駐輪場に停めることを徹底し、キャンパス内移動は徒歩とする。そのためエントランスに隣接する駐輪場を2段式に整備し収容能力を高める整備を行う。また、ベンチ・植栽・花壇等を設置する。



放置自転車は歩行者の障害となっている



ロータリー付近は車両の通行もあり危険である

現状



2段式駐輪システムの例

工夫



3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

■現状と課題

- [電気設備] 1回線高圧受電方式で、2系統受電し共同溝を介して各棟へ配電。
- [給水設備] 市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、高層建物は高架水槽方式により各建物に給水。高置水槽の衛生面が課題。
- [排水設備] 雨水系・生活系・実験系の3系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水の一部はPH濃度をモニタリングしている。配管老朽化により樹木の根が管路に侵入し閉塞するトラブルが多発している。
- [ガス設備] 都市ガス(13A)を3箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給。
- [空調設備] 建物についてはガスヒートポンプによる中央熱源方式が主体であり、使用室単独の空調ができずエネルギーロスが多い。各施設に適したシステムが必要。老朽化に伴い、補修部分確保が困難な機器もある。
- [廃棄物] 資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。それ以外の一般廃物及び実験系廃棄物は業者に委託して処理している。実験系の部屋が多々ある自然科学校舎と薬品庫の距離が長く、安全性に不安がある。

■方針

1. 省エネルギー化  
屋外灯の高効率を検討する。ZEBIについても検討していく。
2. 地球環境への配慮  
CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。
3. 循環型社会への取り組み  
ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど各キャンパスの課題としてキャンパス毎に研究し取り組んでいく。
4. 衛生管理上の問題への配慮  
高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。



| 項 目       | 事業展開                                           |     |     |
|-----------|------------------------------------------------|-----|-----|
|           | 短 期                                            | 中 期 | 長 期 |
| 1. インフラ整備 | ●維持管理計画策定<br>●給排水・ガス配管の改修および更新<br>●加圧ポンプ式給水の検討 |     |     |
| 2. 廃棄物処理  | ●処理方法の検討<br>●その他廃棄物施設の整備                       |     |     |

3-3-6 コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

地域との連携は今後の大学に求められる重要な責務のひとつである。現在、地域の人が利用できる施設は図書館、福利厚生施設、グラウンドなどであるが、積極的に宣伝開放しているわけではないので外来者利用率は低い。本学部の教員が学校等の地域の教育関係機関の求めに応じ、出向して講義等を行なう「出前講座」を実施したり、公開講座の開催や心理教育相談室など地域へのサービス提供も行われている。

中心市街地に隣接した当立地においてさらに地域連携を強化し、大学施設、教員、学生を地域の財産として活用してもらえる仕組みをつくると同時に、我々も地域の施設を利用したり大学の枠を越え学生の社会参加を促すべきである。

■方針

現在実施されている出前講座や公開講座などをさらに発展させ、地域との結びつきをより深くする。また、キャンパス内の施設を積極的に市民に開放するために利用できる範囲を明確にし周知宣伝し、構内にて諸講座を柔軟に展開できるような環境整備もあわせて行う。具体的には、北西校舎によるFabラボやカウンセリング、しなのき会館による宿泊・研究会などをより推新していく。

計画ゾーニング凡例

教育・研究ゾーン

運動・課外活動ゾーン

地域連携ゾーン

国際連携ゾーン

緑地広場ゾーン

駐車場ゾーン

景観形成軸

保存活用する建物

新規計画建物

凡 例

地域開放推進施設

地域共用・コミュニティゾーン

学生コミュニティゾーン

| 事業項目            | 事業展開                                                                |    |    |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------|----|----|
|                 | 短期                                                                  | 中期 | 長期 |
| 1. 駐車場の有料化と一般開放 | 教職員の利用は平日に限り、有料化する。土日祝日は観光客など市民に有料開放できるようゲートを改修する。                  |    |    |
| 2. 施設の地域開放推進    | 諸施設の民間開放を促進する一方、土日祝日といった限定期間において民間へ施設を貸し出し、その運営管理も任せるPFI方式の導入も検討する。 |    |    |

|   |              |                  |
|---|--------------|------------------|
| 1 | 駐車場の有料化と一般開放 | ーコミュニティの計画ディテールー |
|---|--------------|------------------|

■方針

現在、駐車場を利用しているのは主に教職員であり、利用率が低くなる土日祝日を一般に有料で開放することを検討する。

また、教職員の利用についても年間維持費として有料化を検討する。

|   |           |                  |
|---|-----------|------------------|
| 2 | 施設の地域開放推進 | ーコミュニティの計画ディテールー |
|---|-----------|------------------|

■方針

図書館、体育館、グラウンド、福利厚生施設（学生食堂、生協）等の大学所有施設の地域開放を促進する。

●体育館、グラウンド

地域スポーツの振興、健康づくりのため、土日に限り申込みのあった団体や個人の使用を認める。

また、民間経営会社との業務委託契約（土日に限る）によりトータルの施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。

●図書館

一般市民の利用は受付カウンターにて申込み、閲覧、貸し出しが可能である。

●福利厚生施設（学生食堂、生協）

一般市民の利用。

B-12





# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2018

B-at . 長野附属キャンパス ～ こどもの感性を育てる つなぎ・つどう知 ～



キャンパスマスタープランについて

|                                                  |   |
|--------------------------------------------------|---|
| 1－1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯                      | 1 |
| 1－2. アクションプランの位置づけ                               | 1 |
| 1－3. 信州大学の理念との整合                                 | 2 |
| 1－4. PLAN “the N・E・X・T”、信州大学ビジョン2015／信州飛翔プランとの整合 | 2 |
| 1－5. キャンパスの全体像                                   | 6 |
| 1－6. 各キャンパス共通事項                                  | 7 |

B-at. 長野附属キャンパス

2. 現状分析

|                   |        |
|-------------------|--------|
| 2－1. 配置図・現状写真・問題点 | B-at－1 |
| 2－2. ディベロップメントプラン | B-at－1 |

3. 長野附属キャンパスマスタープラン

|                               |        |
|-------------------------------|--------|
| 3－1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針     | B-at－2 |
| 3－2. 基本方針と戦略                  | B-at－3 |
| 3－3. カテゴリー別計画                 |        |
| 3－1. 全体骨格・フレームワーク             | B-at－4 |
| 3－3－2. 施設配置・計画                | B-at－5 |
| (1)施設環境マネジメント (2)キャンパス資源の整備   |        |
| (3)デザインガイドライン (4)環境・サステイナビリティ |        |
| 3－3－3. パブリックスペースの計画           | B-at－7 |
| (1)ランドスケープ整備 (2)緑地・緑化整備       |        |
| (3)グランド整備 (4)ユニバーサルデザイン       |        |
| 3－3－4. 交通・動線の計画               | B-at－9 |
| (1)通用口整備 (2)駐車場整備 (3)駐輪場整備    |        |

|                                |         |
|--------------------------------|---------|
| 3－3－5. 設備・インフラストラクチャーの計画       | B-at－10 |
| (1)インフラ整備 (2)廃棄物処理             |         |
| 3－3－6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 | B-at－11 |
| (1)交流施設の計画・運営への学生や市民の参加        |         |
| (2)施設の地域開放促進                   |         |



## 2-1. 配置図・現状写真・問題点



## 2-2. ディベロップメントプラン（今後改修が必要な建物一覧）

## ディベロップメントプラン

|  |                |           |    |        |
|--|----------------|-----------|----|--------|
|  | 特別支援学校中高等部校舎改修 | 1979（昭54） | R2 | 1,954㎡ |
|  | 特別支援学校小学部校舎改修  | 1979（昭54） | R1 | 393㎡   |

## 問題点凡例

- グラウンドの排水性及び砂塵による近隣住民への影響等、芝張り等の対策が必要である。
- 敷地を分断している長野電鉄線による騒音等は長年の課題となっている。また、大きな木が強風で電車に影響している。
- 各附属学校にある給食室の集約による効率化の検討が必要である。
- 不法侵入者の防止のため門を常時閉鎖している状況であり、遊歩道の機能が失われている。
- 老朽・狭隘及び耐震性能不足の解消のため校舎・体育館の機能・耐震改修が必要である。
- 通勤時間帯は、近隣住民の長野電鉄駅への動線として使われ、安全面で対策が必要である。

### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学長野附属キャンパスは、大学の理念及び附属学校園（長野小・長野中・特別支援学校）の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたってはそれらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、設備・インフラ、コミュニティという6つのカテゴリーに分類し、全体骨格を除く5つのカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■教育学部附属長野学校園の理念・目標

（理 念）

～附属学校園の三つの使命～

○教育学部学生の実習を指導し、次代をになう教育者の育成につとめる。

○小・中・特支学校の諸般の教育活動について、その実際や理論について研究する。

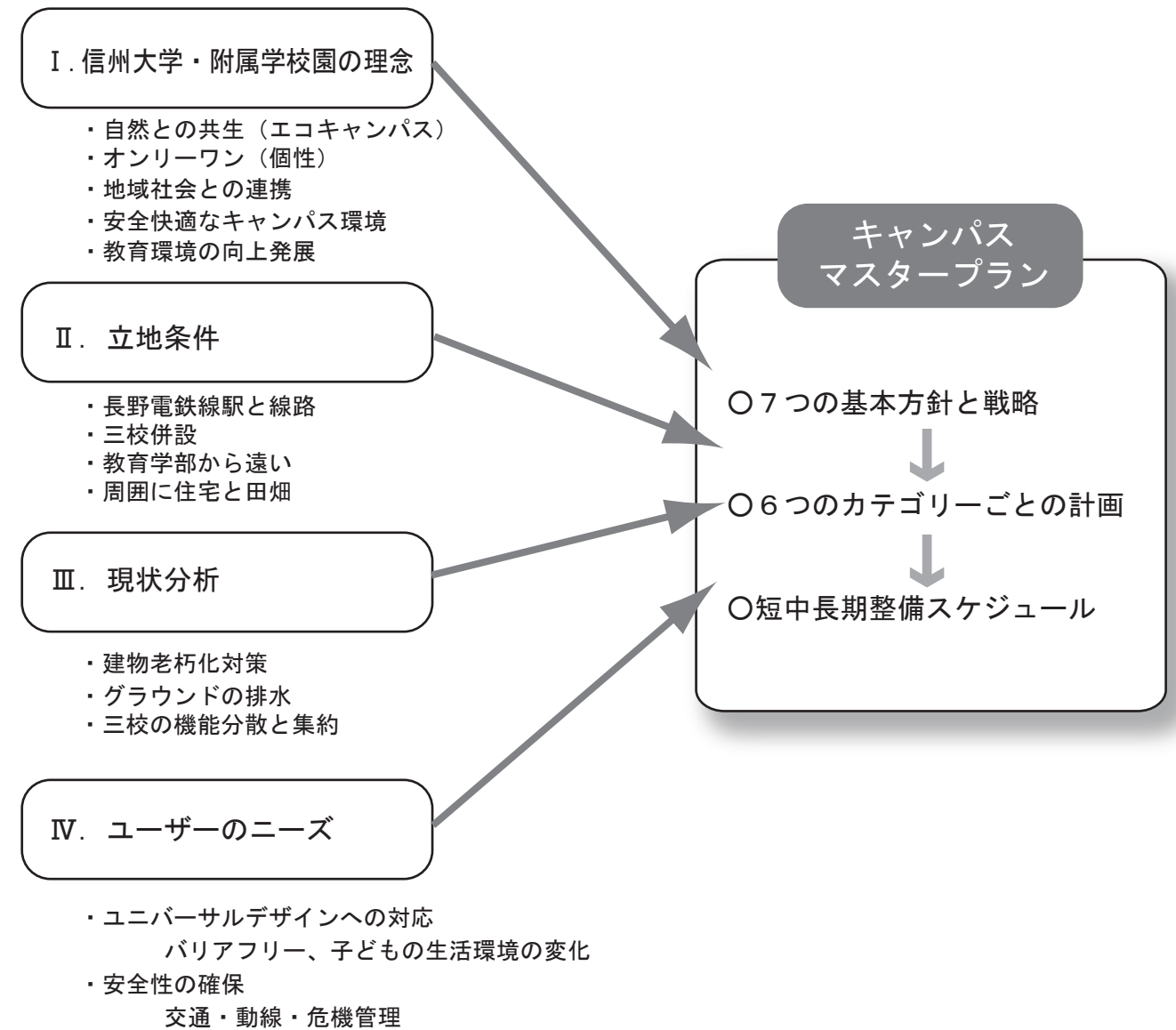
○授業や活動を通して研究を公開し、県内外の各学校や地域の教育の向上発展に寄与する。

（目 標）

【長野小】 1. 判断力のある思いやりの深い子ども  
2. 創造力のあるたくましい子ども  
3. 協調性のある自主的な子ども

【長野中】 とともに学び 一人となる  
『心をたがやし 命を大切にする』～律する 徹する 極める～

【特別支援】 自らの力をじゅうぶん発揮し、主体的に取り組む生活を今と将来にわたって実現する児童生徒の育成





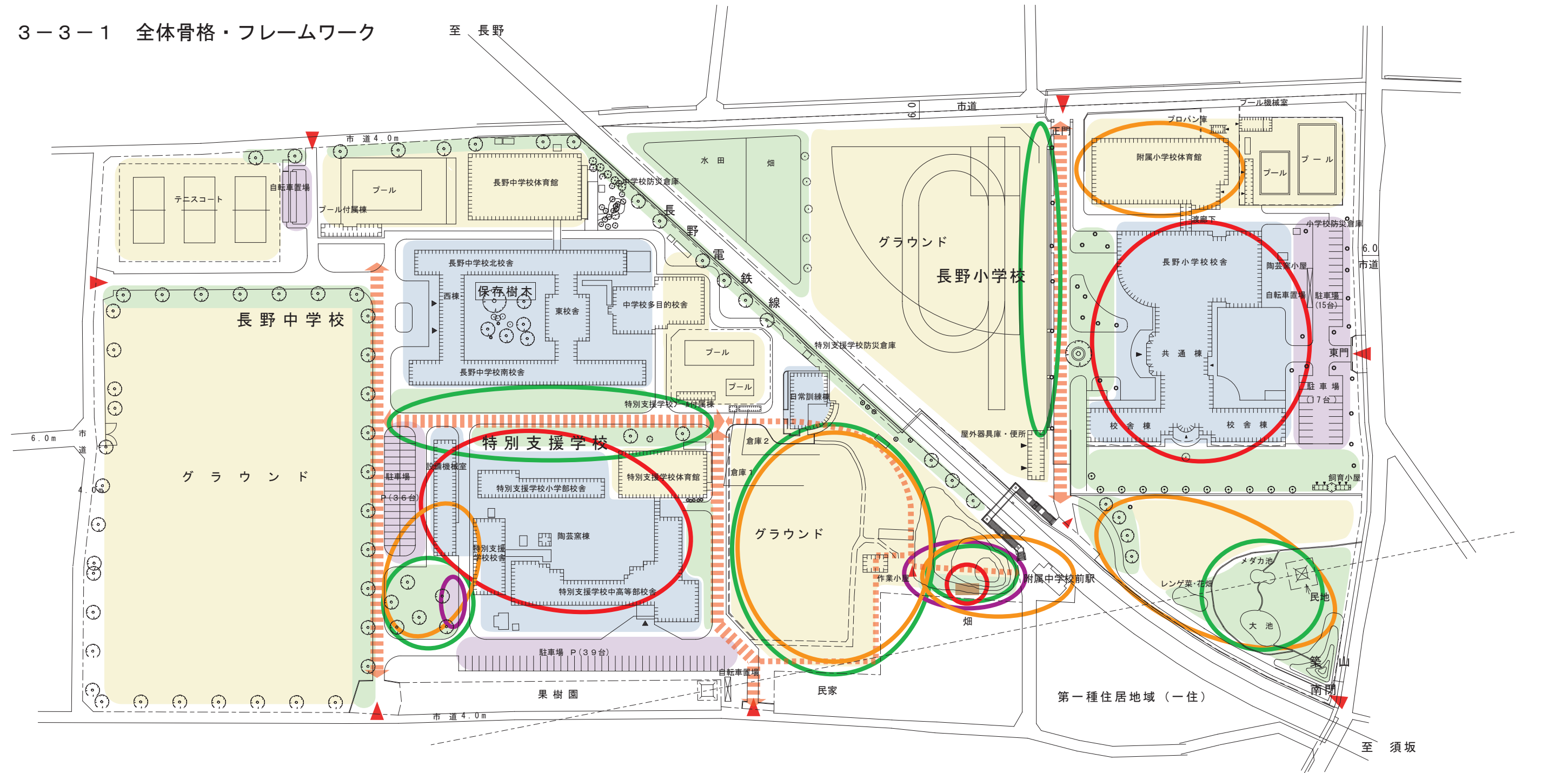
3-2. 基本方針と戦略 ～こどもの感性を育てる ふれあいの森～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

| 基本方針 |                      | 戦略                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | カテゴリー                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                            |
|------|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | キャンパス<br>アイデンティティー   | <div>【教育現場の向上・発展】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・教育学部実習生・地域・子ども間の交流活動</li></ul> <div>【広い敷地・三校隣接を生かしたフィールド学習】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・三校をつなぐ豊かな自然環境</li><li>・小・中・特支の教育連携と交流</li></ul>                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・三校一体型の外部空間利用と交流拠点整備</li><li>・子どもの感性を刺激する空間づくり</li><li>・学校の枠・地域の枠を超えたモデル的活動</li></ul>                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"><li>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>パブリックスペース(1)ランドスケープ整備</li><li>パブリックスペース(2)緑地・緑化整備</li><li>パブリックスペース(3)グラウンド整備</li><li>コミュニティ(1)地域交流の企画・運営への学生・市民参加</li></ul>                                            |
| 2    | アメニティを高める<br>現状資産の活用 | <div>【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域に開かれた広場や通り抜けの道</li><li>・子どもの成長に合わせた多様な空間</li></ul> <div>【ニーズに対応した施設利用】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・教育研究環境の充実</li><li>・三校の施設機能の集約合理化</li></ul> <div>【老朽化対策】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・建物の安全性の確保</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・グラウンド整備(芝生化・雑木林整備等)</li><li>・道の整備(舗装、緑化交流スペース)</li><li>・自然体験園の整備</li><li>・施設整備(中学武道場、特支訓練棟、交流施設等)</li><li>・機能改善(トイレの洋式化、空調設備整備、給食室の統合)</li><li>・耐震補強</li><li>・インフラストラクチャーの見直し</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>施設配置・計画(1)環境施設マネジメント</li><li>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li><li>パブリックスペース(1)ランドスケープ整備</li><li>パブリックスペース(2)緑地・緑化整備</li><li>パブリックスペース(3)グラウンド整備</li><li>インフラ(1)インフラ整備</li></ul> |
| 3    | 地域社会との連携             | <div>【「知財・人財・資財」の共有、発展】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・地域教育の発展</li><li>・施設開放(グラウンド、体育館等)</li></ul> <div>【地域住民との共生】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・パブリックスペースの協同管理、整備</li></ul>                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>・駅を通じた地域との連携(駅前広場の整備)</li><li>・教育現場、家庭、地域との連携交流(朝陽野スコラ)</li><li>・グラウンド、体育館等の地域開放</li><li>・社会体育の受け入れ窓口の検討</li><li>・自然体験園や花壇、避難施設の協同管理</li></ul>                                           | <ul style="list-style-type: none"><li>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>パブリックスペース(2)緑地・緑化整備</li><li>パブリックスペース(3)グラウンド整備</li><li>コミュニティ(1)地域交流の企画・運営への学生・市民参加</li><li>コミュニティ(2)施設の地域開放推進</li></ul>                                               |
| 4    | 参加型キャンパス             | <div>【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・教育学部学生、教職員が参加した点検評価</li><li>・児童・生徒の意識向上</li></ul>                                                                                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>・教育学部教員と学生の授業参加・共同活動促進</li><li>・定期的な点検評価のシステム、組織づくり</li><li>・キャンパスづくりへの参加活動</li></ul>                                                                                                    | <ul style="list-style-type: none"><li>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li><li>パブリックスペース(4)ユニバースデザイン</li><li>コミュニティ(1)地域交流の企画・運営への学生・市民参加</li></ul>                                                                                                    |
| 5    | サステナビリティ             | <div>【地域の風土を教育に生かす】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・地場産材の使用や地域産業との連携</li></ul> <div>【エコキャンパスとエコ教育の推進】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・省エネ、CO2削減</li></ul> <div>【循環型社会への取り組み】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ゴミ削減、リサイクル、リユース</li></ul>                                          | <ul style="list-style-type: none"><li>・県産材を使用した木工授業や環境整備</li><li>・維持管理計画の策定</li><li>・自然体験園や雑木林の維持・活用</li><li>・景観に配慮したゴミ置き場の整備</li><li>・ソーラーシステムの利用検討</li></ul>                                                                 | <ul style="list-style-type: none"><li>施設配置・計画(1)環境施設マネジメント</li><li>施設配置・計画(4)環境・サステナビリティ</li><li>パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</li><li>インフラ(1)インフラ整備</li><li>インフラ(2)廃棄物処理</li></ul>                                                                |
| 6    | ユニバーサルデザイン           | <div>【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・長野電鉄線を挟んだ往来</li><li>・誰もが使いやすく、迷わない案内</li></ul>                                                                                                                                                                                                 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ユニバーサルデザイン(デザインガイドラインの策定)</li><li>・サイン計画</li><li>・長野電鉄線を挟んだ往来手段の検討</li></ul>                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li><li>パブリックスペース(4)ユニバースデザイン</li><li>コミュニティ(1)地域交流の企画・運営への学生・市民参加</li></ul>                                                                                                    |
| 7    | 安全・安心なキャンパス          | <div>【安全な歩行空間】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・人と車の動線、駐車場の確保</li></ul> <div>【防犯、危機管理】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・不審者対策や夜間の安全性</li><li>・三校の連絡体制強化</li></ul>                                                                                                                              | <ul style="list-style-type: none"><li>・交通(校門)計画、駐車場計画、駐輪場計画</li><li>・照明計画</li><li>・三校が連携した警備システムの構築</li></ul>                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>施設配置・計画(1)環境施設マネジメント</li><li>パブリックスペース(1)ランドスケープ整備</li><li>交通・動線(1)通用口整備</li><li>交通・動線(2)駐車場整備</li><li>交通・動線(3)駐輪場整備</li></ul>                                                                       |

### 3-3 カテゴリー別計画

#### 3-3-1 全体骨格・フレームワーク

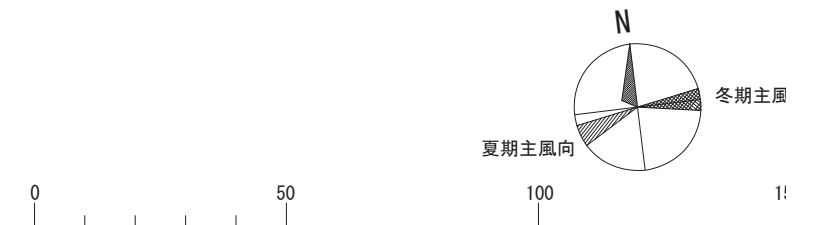


#### 計画ゾーニング凡例

- 教育・研究ゾーン
- 運動・課外活動ゾーン
- 地域連携ゾーン
- 緑地広場ゾーン
- 駐車場ゾーン

#### 計画ポイント凡例

- 建物の計画
- オープンスペースの計画
- 交通の計画
- コミュニティの計画
- 新規建物の計画
- 景観形成軸
- キャンパス出入口





3-3-2 施設配置・計画

■現状と課題

[長野中]

耐震強度の低い建物があり、補強工事と同時にリニューアルし学習環境の充実化をはかる必要がある。夏季の暑さ対策も課題である。

[長野小]

生活様式の変化により、洋式トイレの設置が望まれる。ランチルームの耐震改修を検討中である。

[特別支援]

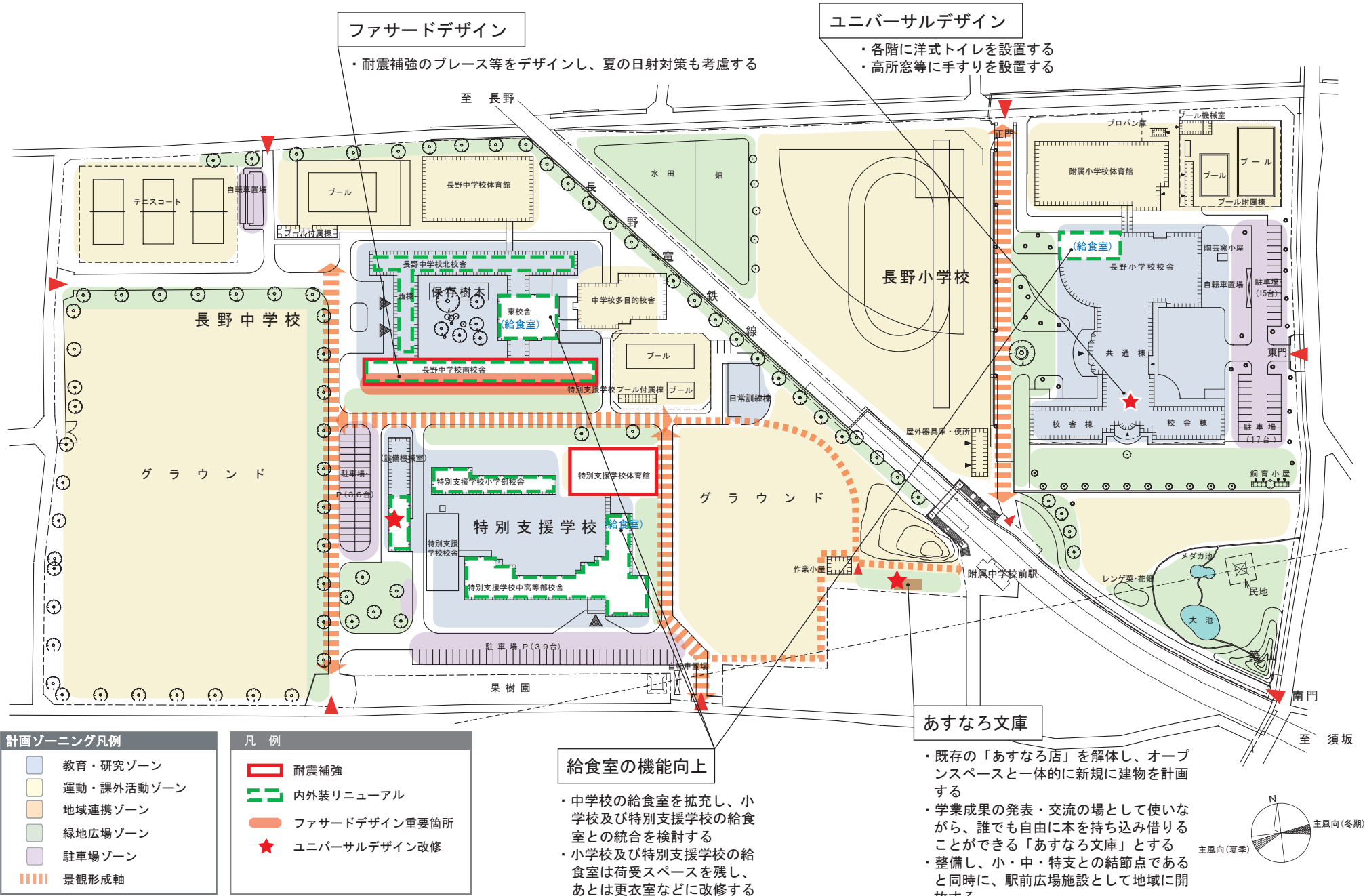
改修等は行われておらず、老朽化が進んでいるため機能改修が必要である。中高等部校舎中庭に遊具を設置し、環境整備を行いたい。

[共通]

各校とも個別学習等のスペースが不十分である一方、給食室が各校それぞれにあるなど、レイアウトの見直しが必要である。

■方針

強度不足の建物の耐震改修をし、ファサードのデザインとともに建物南面の日射対策を考慮し、学習環境の快適性向上もはかる。建物内の改修においては、洋式トイレ化、高所窓の手すり設置、冷房設備の整備など、快適性と安全性を確保するとともに、内外装は地元の材料等の使用を積極的に検討する。また、誰もが使いやすいユニバーサルデザインのガイドラインを作成し、順次整備する。また、三校の給食室の統合など施設の有効利用も検討する。



| 事業項目           |                                                      | 短期6年中期12年長期          |                |  |         |
|----------------|------------------------------------------------------|----------------------|----------------|--|---------|
| 1. 施設環境マネジメント  | 対象2棟の耐震補強を実施する。<br>空調・衛生設備・セキュリティなど建物の機能向上を図る。       | ●長野中学校南校舎 ●特別支援学校体育館 |                |  |         |
| 2. キャンパス資源の整備  | 交流施設、児童生徒の快適性・安全性を確保するための施設整備を行う。                    | ●空調・衛生設備・セキュリティ      |                |  | ●あすなる文庫 |
| 3. デザインガイドライン  | 誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。 | ●施設設計<br>●校舎改修       |                |  |         |
| 4. 環境・サステナビリティ | 県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。        | ●デザインガイド作成<br>●サイン計画 | ●施設計画に合わせて使用検討 |  |         |

## 1 施設環境マネジメント

ー施設配置・計画の計画ディテールー

### ■方針

1981年の耐震基準の法改正以前に建設された強度不足の建物を耐震補強していくまた、単純な耐震補強に終わらせることなく、室内レイアウトの見直しや外観のデザイン性を兼ね備えた整備を行う。

### ●中学校南校舎

耐震補強と同時に、南面の景観と夏の日射対策を考慮したファサード改修をし、アメニティの向上や機能拡充のためのリフォームもあわせて検討する。



現 状



整備イメージ

## 2 キャンパス資源の整備

ー施設配置・計画の計画ディテールー

### ●あすなろ文庫

既存の「あすなろ店」を解体し、学業成果の発表・交流の場として新たに「あすなろ文庫」を新設する。

[地域の交流拠点として]

- ・誰でも自由に本を持ち込み、借りることができる書棚を設置し、生徒児童の利用のほか電車利用客や地域の人も利用しやすい文庫とする。
- ・附属学校園の学習成果発表の場として、学校の枠を越えた地域の交流の場とする。
- ・オープンスペースと一体的に整備し、駅前広場施設として地域に開放する。

[企画運営と管理]

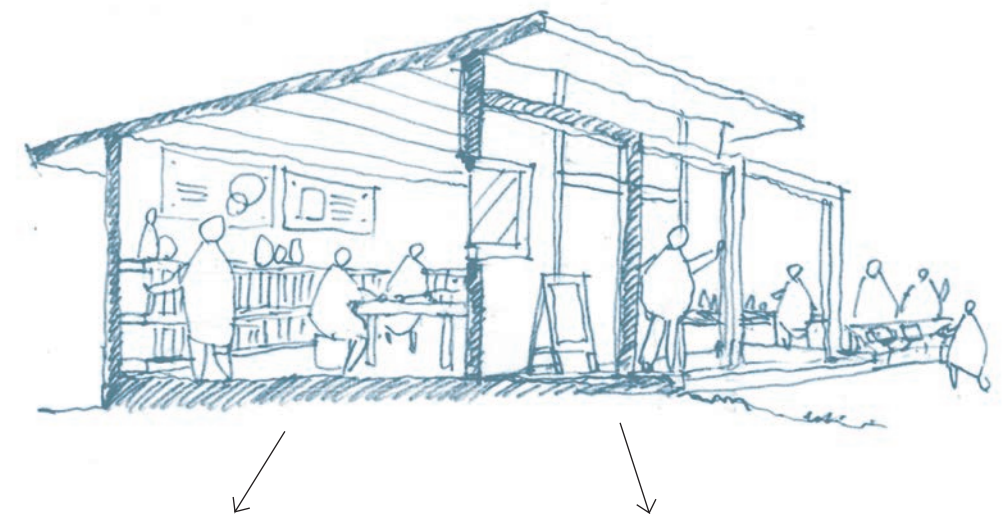
- ・職員、教育学部学生、生徒児童などで事務局を組織する。
- ・保護者や地域の人意見も取り入れるワークショップなどを開催し、利用者が協力しながら管理運営に携われるような仕組みをつくるのが望ましい。



現 状（あすなろ店）



現 状（駅へ通ずる道）



室内：読書や集まりなどに利用できる

デッキ：バザーやイベントなどにも利用できる

整備イメージ



3-3-3 パブリックスペースの計画

■現状と課題

[長野中・特別支援]

グラウンド周囲や線路沿いの立ち木のほか、玄関前など緑の手入れは行き届いている。特支のグラウンドの排水が悪く、大雨時に敷地外へ接続する枡から雨水があふれる。また、駅へ通ずる通路が狭く段差もあるなど、グラウンドの改良とともに、整備する必要がある。

[長野小]

メダカ池などのビオトープ（自然体験園）は、児童だけでなく地域の利用もあるが、木製の橋や繁茂した植物など手入れが必要な箇所もある。グラウンドは砂埃対策が必要であり、正門と駅をつなぐ通路は地域の人の通行も多く、メイン通りとしての景観的配慮も必要である。

■方針

オープンスペースは三校をつなぐ重要な要素であり、地域の人も利用する場でもある。それぞれの通りや広場の性格を考慮し、安全性・快適性の向上をはかる景観整備をする。特支のグラウンドは排水改善、小学のグラウンドは砂埃対策と景観整備、自然体験園は安全性と快適性の向上をはかる。また、学校の敷地を長野電鉄線の駅という地域の交通拠点である駅前コミュニティ広場として整備することにより、「分断」から「つなぐ・集う」という機能に転換させ、学校の枠を超えた地域との連携をはかる。自然体験園や駅前広場の計画においては、生徒児童と地域や教育学部学生とのワークショップを取り入れ、その後の管理や利用の方法など連携していくことが望ましい。



| 事業項目          |  | 6年                                                                                          |  |  |  |               |  |  |  |       |  |  |  | 12年      |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  | 長期       |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
|---------------|--|---------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|--|---------------|--|--|--|-------|--|--|--|----------|--|--|--|-----|--|--|--|------|--|--|--|----------|--|--|--|-----|--|--|--|--|--|--|--|
|               |  | 短期                                                                                          |  |  |  | 中期            |  |  |  | 長期    |  |  |  | 短期       |  |  |  | 中期  |  |  |  | 長期   |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
| 1. ランドスケープ整備  |  | 三校をつなぐメイン通りとして、児童生徒や教職員、地域の人のためのアメニティの高い道とする。隣接する広場、照明計画とともに整備する。                           |  |  |  |               |  |  |  |       |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
|               |  |                                                                                             |  |  |  | 菜花の道          |  |  |  |       |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  | 駅前歩道 |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
|               |  |                                                                                             |  |  |  | ●設計           |  |  |  | ●整備   |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  | ●設計      |  |  |  | ●整備 |  |  |  |  |  |  |  |
| 2. 緑地・緑化整備    |  | 地域の人も広く利用できる魅力的な広場を整備する。自然体験園や駅前広場などは、生徒児童の授業の一環として保護者や教育学部の学生、地域の人とワークショップや体験をしながら整備をすすめる。 |  |  |  |               |  |  |  |       |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
|               |  |                                                                                             |  |  |  | 菜花の道周辺        |  |  |  | 自然体験園 |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  | 駅前広場     |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
|               |  |                                                                                             |  |  |  | ●設計           |  |  |  | ●整備   |  |  |  | ●ワークショップ |  |  |  | ●整備 |  |  |  |      |  |  |  | ●ワークショップ |  |  |  | ●整備 |  |  |  |  |  |  |  |
| 3. グラウンド整備    |  | 特支のグラウンドは排水改善、小学校のグラウンドは砂埃対策の芝生化など、場所により目的にあった整備をする。                                        |  |  |  |               |  |  |  |       |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
|               |  |                                                                                             |  |  |  | ●特支・小学グラウンド整備 |  |  |  |       |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
| 4. ユニバーサルデザイン |  | 誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイドラインをつくり、空間設計に反映させる。                                     |  |  |  |               |  |  |  |       |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |
|               |  |                                                                                             |  |  |  | ●デザインガイド作成    |  |  |  |       |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |      |  |  |  |          |  |  |  |     |  |  |  |  |  |  |  |

|   |           |                     |
|---|-----------|---------------------|
| 1 | ランドスケープ整備 | ーパブリックスペースの計画ディテールー |
|---|-----------|---------------------|

■方針

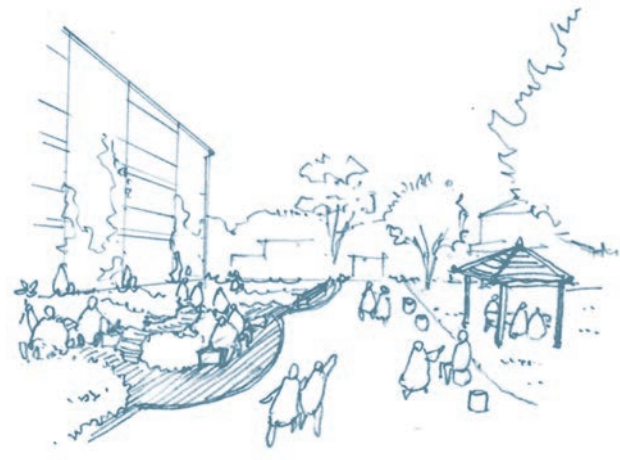
各校舎の配置や各門からのアクセスを考慮し、各道の役割を明確にしながら景観に配慮した快適な道路空間を整備する。

●菜花の道

中学的菜園を活かして菜花の中を散策するような道とする。中学・特支の憩いの場としてベンチなども設置する。



現 状



整備イメージ

|   |         |                     |
|---|---------|---------------------|
| 2 | 緑地・緑化整備 | ーパブリックスペースの計画ディテールー |
|---|---------|---------------------|

■方針

地域の人にも広く利用できる魅力的な広場を整備する。自然体験園や駅前広場などは、生徒児童の授業の一環として保護者や教育学部の学生、地域の人とワークショップや体験をしながら整備をすすめる。

●駅前広場と歩道

駅前広場として誰でも利用できるベンチ、花壇なども整備し、駅前から連続する開放的な空間とする。登下校時に開閉していた門を作業小屋の横に移設し、原則としてあすなろ文庫と広場は地域に開放する。また、放置自転車が敷地内にとめられないように、緑やベンチなど効果的に配置する。



|   |         |                     |
|---|---------|---------------------|
| 3 | グラウンド整備 | ーパブリックスペースの計画ディテールー |
|---|---------|---------------------|

■方針

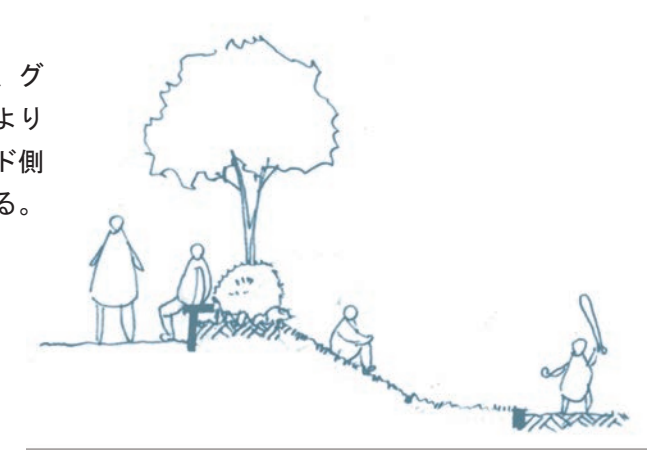
特支のグラウンドは排水改善、小学校のグラウンドは砂埃対策の芝生化など、場所により目的にあった整備をする。

●小学校のグラウンド

グラウンドの砂埃が校舎側に舞うのを緩和するため、グラウンド周辺部を芝生化する。校舎側はグラウンドより少し盛土してベンチ花壇と高木を配置し、グラウンド側は芝生の法面とするなど景観に配慮し砂埃対策をする。



現 状



校舎側通路 ———— 芝生 ———— グラウンド

整備イメージ



3-3-4 交通・動線の計画

■現状と課題

中学校と小学校は駐車場・駐輪場とも校門近くに整備され、収容量も不足なく構内は安全な歩行空間が確保されている。小学校の駅へ通ずる道は地域の人の通行も多い。

一方、特別支援学校では、児童・生徒を送迎する保護者の車が駐停車するスペースが狭いため、通路に駐停車せざるを得ない。当該通路は、小学校の児童が通学に利用する場合もあり、交通事故の危険もある。

また、長野電鉄線により敷地が分断され、中学・特支と小学間の往来が不便である。駅近くに通用門として出入り口を設けてあるが、防犯上登下校時意外は施錠している。

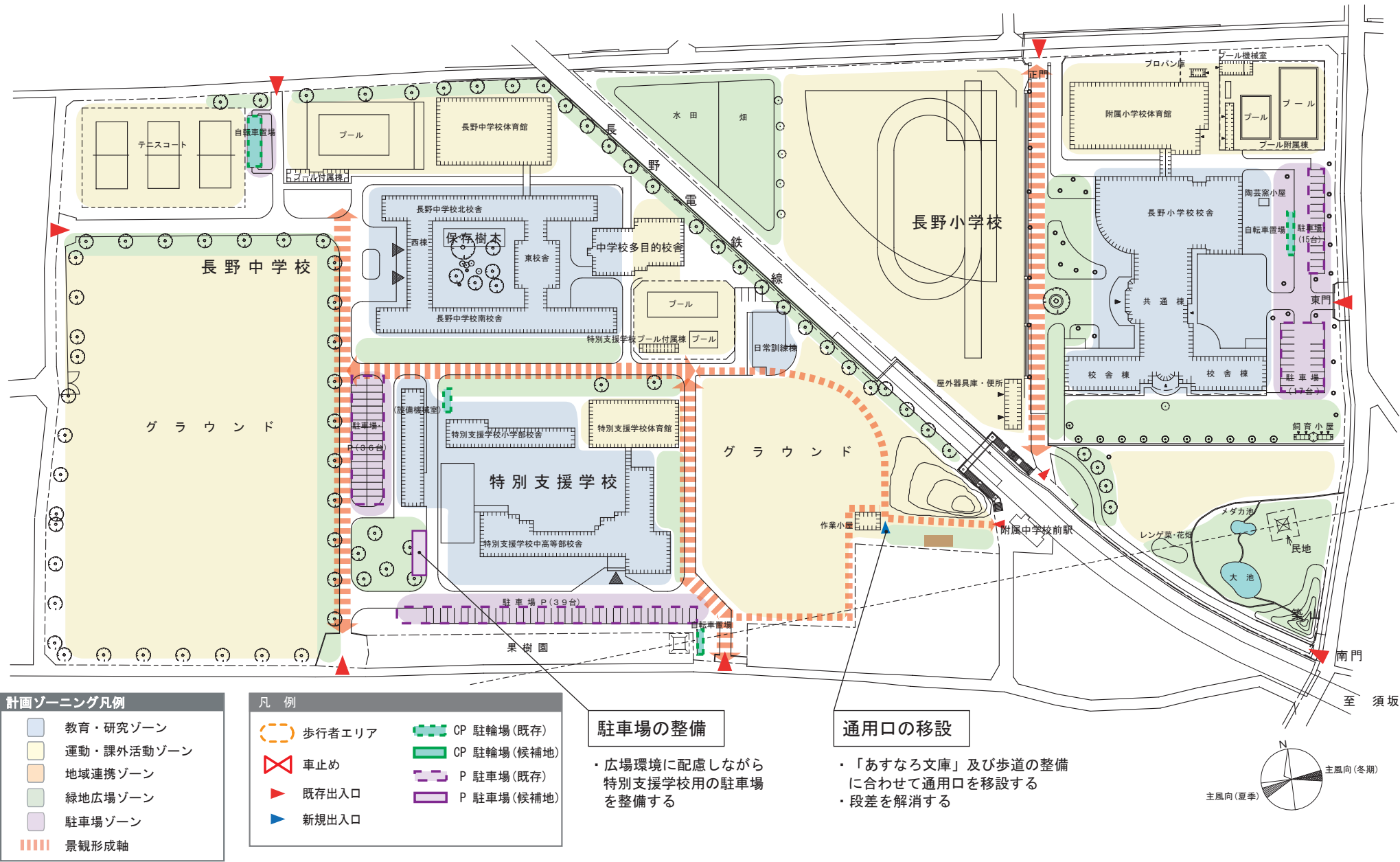
■方針

朝陽野広場の一角を児童・生徒を送迎する保護者の車が駐停車できるスペースとして整備する。

駐輪場にはラックを設置したり屋根の修繕等を行う。

また、駅前の通用口は駅前広場、歩道、あすなろ文庫の整備とともに作業小屋側に移設し、学校用地の一部を地域に開放する。

各門の施錠については、生徒児童の安全性確保と地域解放という両方の視点から考慮しなければならないが、地域ぐるみで安全性を考えることも必要である。



| 事業項目     |                                               |    |         |    |         |  |     |    |          |  |
|----------|-----------------------------------------------|----|---------|----|---------|--|-----|----|----------|--|
|          |                                               | 短期 |         |    | 中期      |  |     | 長期 |          |  |
| 1. 通用口整備 | 「あすなろ文庫」及び歩道の整備に合わせて通用口を移設する。                 |    |         | 6年 |         |  | 12年 |    | ●駅前通用口移設 |  |
| 2. 駐車場整備 | 朝陽野広場の整備とともに、児童・生徒を送迎する保護者の車が駐停車できるスペースを整備する。 |    |         |    | ●駐車場の整備 |  |     |    |          |  |
| 3. 駐輪場整備 | ラックの設置や景観に配慮した駐輪場の整備修繕をする。                    |    | ●駐輪場の修繕 |    |         |  |     |    |          |  |

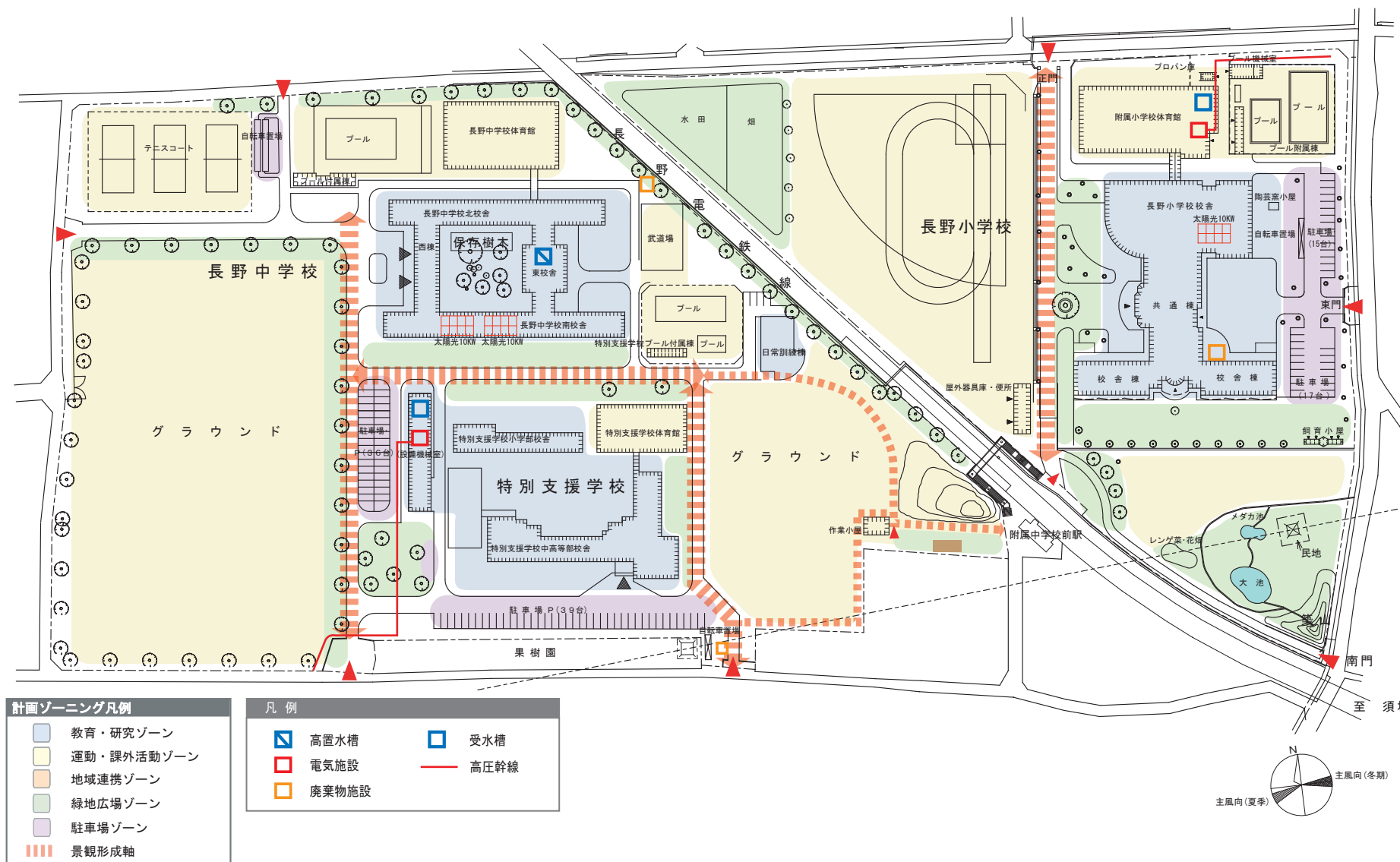
### 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

- 〔電気設備〕 長野電鉄線を挟んで、小学校側と中学校・特別支援学校側の2系統で高圧受電し、各施設に低圧で配電している。
- 〔給水設備〕 小学校：市水本管より供給を受け、加圧ポンプ方式で給水。  
中学校：市水本管より供給を受け、高置水槽方式で給水。屋上に設置された高置水槽の衛生面が課題。  
特別支援学校：市水本管より供給を受け、直結方式で給水。
- 〔排水設備〕 雨水系・生活系の2系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系は公共下水道へ放流。（3校共通）
- 〔ガス設備〕 小学校は、LPガスボンベ庫を設置し、供給。  
中学校・特別支援学校は、共同のLPガスボンベ庫を設置し、必要施設へ供給。施設間の土中埋設配管の老朽化が進んでおり、漏洩等の対策が必要となっている。
- 〔空調設備〕 暖房設備については、灯油の集中配管型FF式ファンヒーターで行っている。また、中学校は年次計画により個別空調化を行っている。  
特別支援学校体育館は、温水式床暖房を採用し、小学校体育館は、ガス遠赤外線輻射式暖房機を採用している。
- 〔廃棄物〕 資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。

#### ■方針

- 省エネルギー化への配慮  
設備機器（ボイラー）の耐用年数を鑑みGHP（ガスヒートポンプ）、EHP（電気ヒートポンプ）の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。ZEBについても検討していく。
- 地球環境への配慮  
CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。
- 循環型社会への取り組み  
ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど各校の課題として研究し取り組んでいく。
- 衛生管理上の問題への対応  
高置水槽による低層建物への給水からポンプ圧送方式への移行を検討する。
- 災害・安全衛生への取り組み  
三校が連携した警備システム（情報伝達システム）を検討する。



| 項 目       | 事 業 展 開                                                    |     |     |
|-----------|------------------------------------------------------------|-----|-----|
|           | 短 期                                                        | 中 期 | 長 期 |
| 1. インフラ整備 | ●維持管理計画策定<br>●給排水・ガス配管の改修および更新<br>●空調熱源の検討<br>●加圧ポンプ式給水の検討 |     |     |
| 2. 廃棄物処理  | ●処理方法の検討<br>●ゴミ置き場の整備<br>●その他廃棄物施設の整備                      |     |     |



## 3-3-6 コミュニティー（地域・学生・教職員の交流）の計画

## ■現状と課題

長野電鉄線の駅があり、小学校の敷地内を通行する地域の人が多い。また、自然体験園など休日に散策する人や体育館やグラウンドの貸し出しなども行っている。

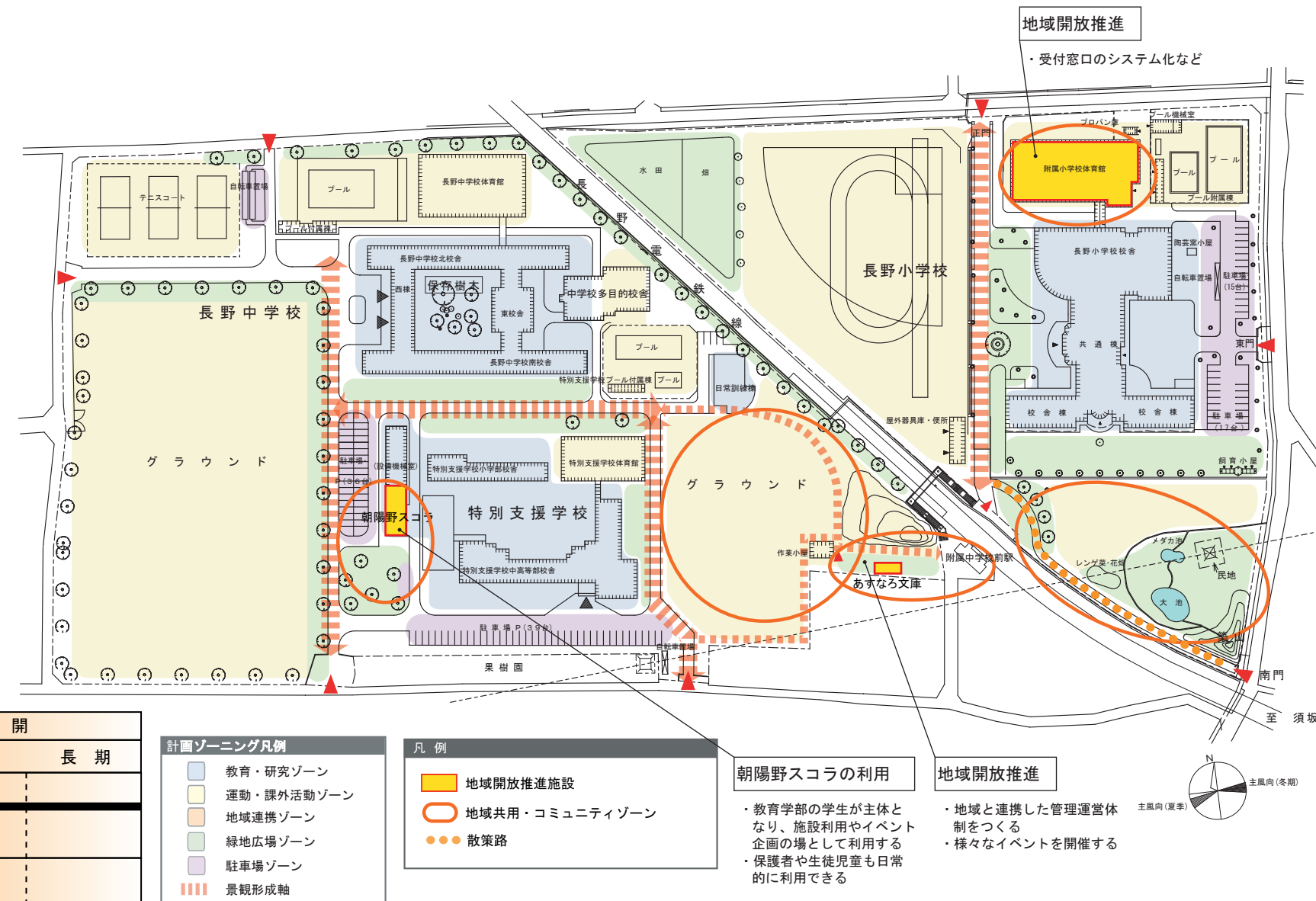
一方、教育学部と離れており学生との日常的な交流が難しく、線路により小学と中学・特支間の交流も乏しい。

## ■方針

敷地内のオープンスペース及び「朝陽野スコラ」や「あすなる文庫」といった交流施設を拠点として、生徒児童のみならず学校の枠を越え積極的に交流できる学習プログラムやイベントを開催し、それらの施設運営管理についても保護者やNP0との協働など連携体制を構築し、安全に地域に開放する方法を検討する。

体育館などの地域開放は現在でも行っているが、社会体育や地域の活動発表の場としての受付窓口の設置などにより、安全に快適に市民利用できるシステムも検討する。

また、陶芸釜や木工室など、学校施設をつかった地域の趣味学習活動支援など、休日の積極的な校舎利用も検討する。



| 事業項目                    | 事業展開   |        |    |
|-------------------------|--------|--------|----|
|                         | 短期     | 中期     | 長期 |
| 1. 交流施設の計画・運営への学生や市民の参加 | ●企画・実施 |        |    |
| 2. 施設の地域開放促進            |        | ●検討・実施 |    |

|   |                 |                  |
|---|-----------------|------------------|
| 1 | 計画・運営への学生や市民の参加 | -コミュニティの計画ディテール- |
|---|-----------------|------------------|

## ■方針

ハードからソフトまで学校づくりに積極的に児童生徒、学生や市民の参加を促し、地域に開かれた愛着ある学校とする。

## ●朝陽野スコラの利用

日常的に誰でも利用できるフリー休憩スペースであり、教育学部生と生徒児童、保護者など普段の学習相談から、広場を使っのイベント企画会議など場としても利用できる。主には教育学部の学生の居場所として、学生主体で施設の利用方針などを検討し、交流をはかる。

## ●あすなる文庫と駅前広場

駅利用者や地域と学校との接点となる施設。誰でも持込み・貸し出し自由な文庫を併設した休憩施設で、バザーや作品展などのイベント企画や、特支のグラウンドや駅前広場も含めて地域交流の拠点となるよう、その運営については地域と連携しワークショップを開催しながら協働で管理していくことが望ましい。



豆本づくりワークショップの例

## ■方針

できるかぎり各学校内の施設を地域に開放し、多くの人が利用できるようにする。

## ●既存施設（運動施設、陶芸・工芸教室等）

小学校の体育館は建物が独立して更衣室やシャワー室などもあり、舞台を使った演劇などでもできる。この施設をより地域に開放し利用してもらえるよう、受付窓口のシステム化を検討する。

また、校舎内の教室の利用促進は安全性を考慮しながら地域の生涯学習プログラムなどある程度利用者が限定されるかたちで実験的に行いながら、施設の有効利用と地域貢献につとめる。



小学校の体育館







# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2018

C. 長野（工学）キャンパス ～ 緑萌えるふれあい工房 ものづくりの知 ～





キャンパスマスタープランについて

1－1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 ..... 1

1－2. アクションプランの位置づけ ..... 1

1－3. 信州大学の理念との整合 ..... 2

1－4. PLAN “the N・E・X・T”、信州大学ビジョン2015／信州飛翔プランとの整合 … 2

1－5. キャンパスの全体像 ..... 6

1－6. 各キャンパス共通事項 ..... 7

C. 長野(工学)キャンパス

2. 現状分析

2－1. 配置図・現状写真・問題点 ..... C－1

2－2. ディベロップメントプラン ..... C－1

3. 長野(工学)キャンパスマスタープラン

3－1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針 ..... C－2

3－2. 基本方針と戦略 ..... C－3

3－3. カテゴリー別計画

3－3－1. 骨格・フレームワーク ..... C－4

3－3－2. 施設配置・計画 ..... C－5

(1)施設環境マネジメント (2)キャンパス資源の整備 (3)デザインガイドライン

(4)環境・サステナビリティ

3－3－3. パブリックスペースの計画 ..... C－7

(1)緑地・緑化整備 (2)ランドスケープ整備 (3)サイン・アート・照明計画

(4)ユニバーサルデザイン

3－3－4. 交通・動線計画 ..... C－9

(1)駐輪場整備 (2)ゲート整備 (3)駐車場整備

3－3－5. 設備・インフラストラクチャーの計画 ..... C－11

(1)インフラ整備 (2)廃棄物処理

3－3－6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 ..... C－12

(1)交流施設の計画・運営への学生や市民の参加 (2)施設の地域開放促進





### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学長野(工学)キャンパスは、大学の理念及び工学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティという6つのカテゴリーに分類整理し、全体骨格を除く5つのカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

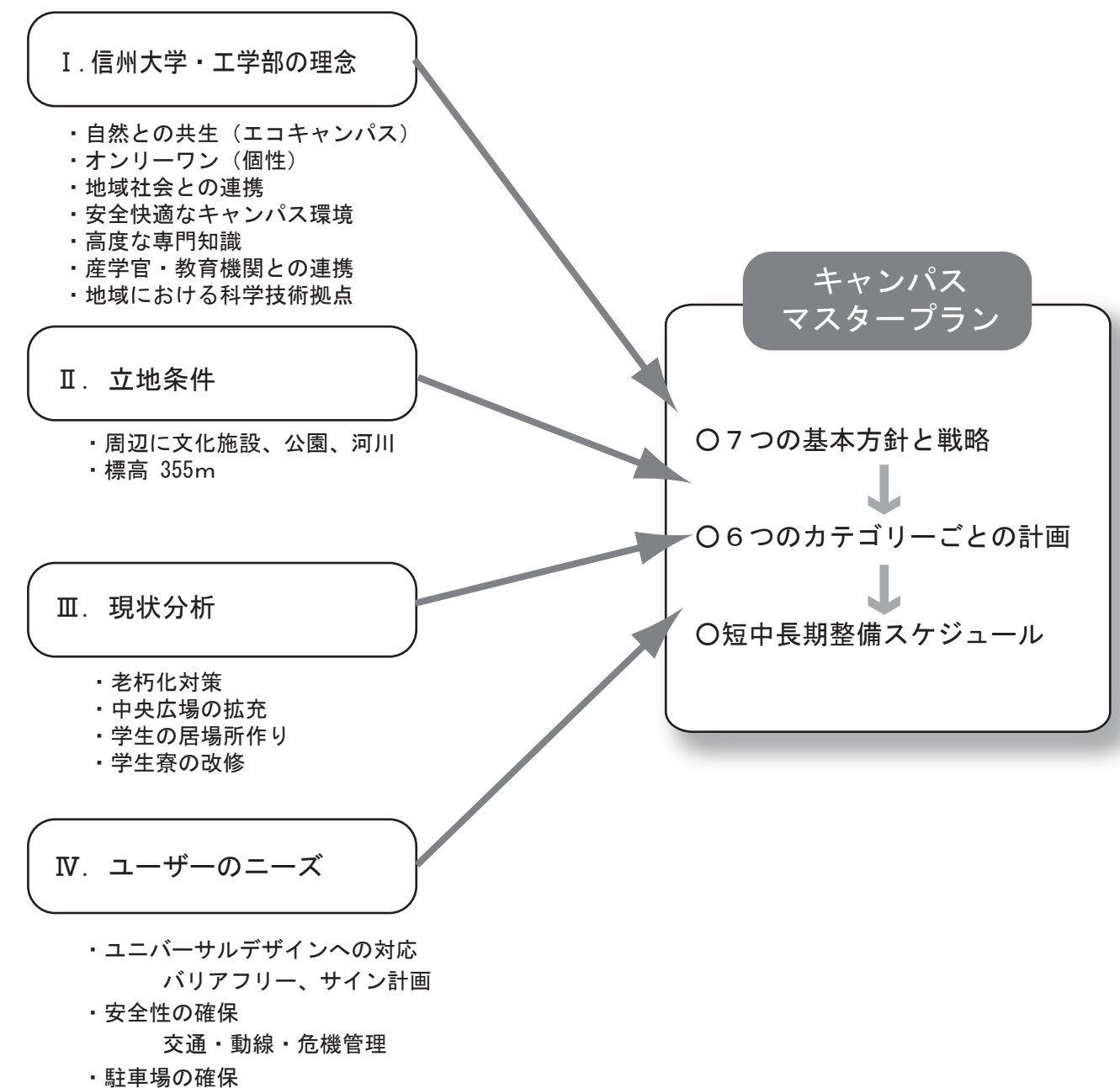
#### ■工学部の理念・目標

##### (理 念)

本学部は、恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに工学の幅広い専門的知識を有する創造性豊かな人材を養成する。また、工業技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を育成する。

##### (目 標)

本学部は、基礎学力の向上を重視しつつ専門知識並びに学際分野の修得を基盤にし、創造力の育成と課題探求能力を開発する教育を行い、世界的な研究拠点の構築を目指す。さらに、産学官及び地域高等教育機関と連携して研究成果や研究環境を地域に還元し、地域における科学技術情報の中核的拠点としての役割を果たすことを目標とする。





3-2. 基本方針と戦略 ～緑萌えるふれあい工房 ものづくりの森～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

| 基本方針 |                      | 戦略                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | カテゴリー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|----------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | キャンパス<br>アイデンティティ    | <div>【最先端技術の開発・公開】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・産学官の連携強化、地域への公開</li><li>・ナノテクノロジー、カーボンナノチューブ</li></ul> <div>【周辺の緑地環境の連続性】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・若里公園のケヤキ並木から犀川河川敷まで</li></ul>                                                                                                                          | <div>・交流の場の整備</div> <div>・シンボル並木（通り抜けの散策道）の整備</div> <div>・ゲート整備</div> <div>施設(2)キャンパス資源</div> <div>パブリックスペース(1)緑地・緑化計画</div> <div>交通(2)ゲート整備</div> <div>コミュニティ(1)交流施設への学生・市民参加</div>                                                                                                                                                              |
| 2    | アメニティを高める<br>現状資産の活用 | <div>【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生研究施設と地域開放エリア</li><li>・キャンパスの軸と建物のネットワーク化</li></ul> <div>【ニーズに対応した施設利用】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生、教職員の交流スペース</li><li>・教育研究環境の充実</li><li>・駐車場、駐輪場動線の見直し</li></ul> <div>【老朽化対策】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・建物の安全性の確保</li></ul> | <div>・シンボル並木の整備</div> <div>・駐車場の有料化</div> <div>・施設整備（図書館増築、飲食施設等）</div> <div>・広場整備（学生食堂前等）</div> <div>・施設の機能拡充</div> <div>・インフラストラクチャーの見直し</div> <div>施設(1)施設環境マネジメント</div> <div>施設(2)キャンパス資源の整備</div> <div>パブリックスペース(1)緑地・緑化計画</div> <div>パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</div> <div>交通(3)駐車場整備</div> <div>インフラ(1)インフラ整備</div> <div>コミュニティ(2)施設の地域開放</div> |
| 3    | 地域社会との連携             | <div>【「知財・人財・資財」の共有、発展】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・産学官連携施設の利用促進、地域交流施設</li></ul> <div>【地域住民との共生】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然資源、施設の地域開放</li></ul>                                                                                                                                                        | <div>・企業と連携した研究、地域サービス</div> <div>・地域文化、大学文化の発表・交流</div> <div>・図書館、福利施設等の地域開放</div> <div>・防災拠点としての機能向上</div> <div>コミュニティ(1)交流施設への学生・市民参加</div> <div>コミュニティ(2)施設の地域開放</div>                                                                                                                                                                        |
| 4    | 参加型キャンパス             | <div>【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生、教職員が参加した点検評価</li><li>・ソフト事業への学生参加</li></ul>                                                                                                                                                                                                                        | <div>・定期的な点検評価のシステム、組織づくり</div> <div>・学生の企画参加</div> <div>・施設整備等の計画及び施工への学生参加</div> <div>施設(2)キャンパス資源の整備</div> <div>パブリックスペース(3)サイン・アート</div> <div>コミュニティ(1)交流施設への学生・市民参加</div>                                                                                                                                                                    |
| 5    | サステナビリティ             | <div>【地域の風土の反映】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・地場産材の使用や地域産業との連携</li></ul> <div>【エコキャンパス】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・省エネ、CO2削減</li></ul> <div>【循環型社会への取り組み】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ゴミ削減、リサイクル、リユース</li></ul>                                                                             | <div>・県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)の使用</div> <div>・維持管理計画の策定</div> <div>・景観に配慮したゴミ置き場の整備</div> <div>施設(4)環境・サステナビリティ</div> <div>パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</div> <div>インフラ(1)インフラ整備</div> <div>インフラ(2)廃棄物処理</div>                                                                                                                                              |
| 6    | ユニバーサルデザイン           | <div>【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・誰もが使いやすい</li></ul> <div>【わかりやすいキャンパス】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・迷わない案内</li></ul>                                                                                                                                                                   | <div>・ユニバーサルデザイン<br/>(デザインガイドラインの策定)</div> <div>・サイン計画</div> <div>施設(3)デザインガイドライン</div> <div>パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</div> <div>パブリックスペース(3)サイン・アート</div>                                                                                                                                                                                           |
| 7    | 安全・安心なキャンパス          | <div>【安全な歩行空間】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・人と車と自転車の動線の分離</li></ul> <div>【防犯、危機管理】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・夜間の安全性</li></ul>                                                                                                                                                                              | <div>・交通計画(歩車分離)</div> <div>・駐車場計画、駐輪場計画</div> <div>・照明計画</div> <div>・廃棄物処理計画</div> <div>パブリックスペース(3)照明計画</div> <div>交通(1)駐輪場整備</div> <div>交通(3)駐車場整備</div> <div>インフラ(2)廃棄物処理</div>                                                                                                                                                               |

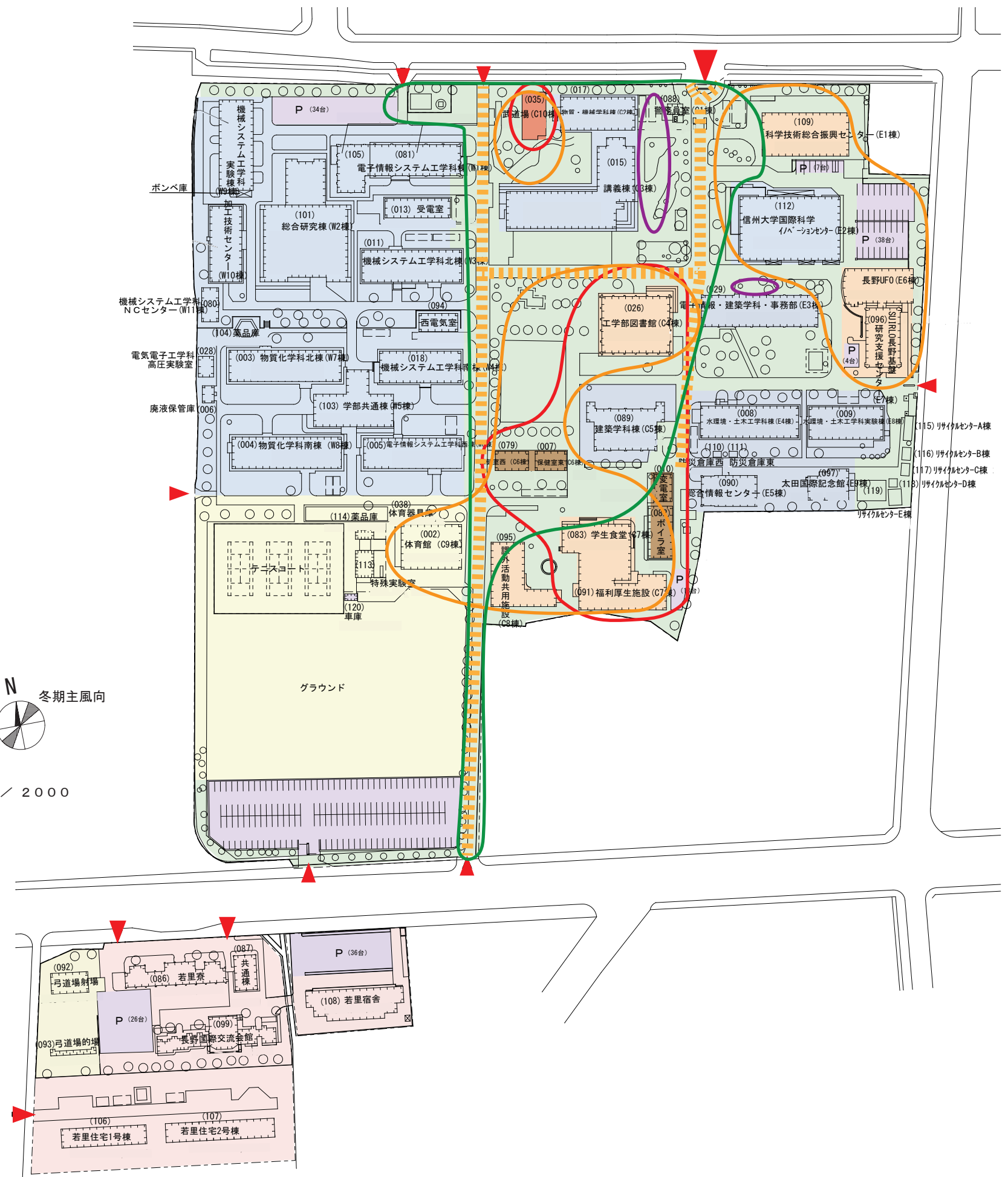
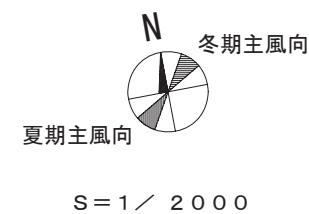
### 3-3-1 全体骨格・フレームワーク

## 土地利用・ゾーニング凡例

-  教育・研究ゾーン
-  運動・課外活動ゾーン
-  地域連携ゾーン
-  緑地広場ゾーン
-  駐車場ゾーン
-  居住ゾーン

## 計画ポイント凡例

-  建物の計画
-  オープンスペースの計画
-  交通の計画
-  コミュニティの計画
-  景観形成軸
-  保存活用する建物
-  新規計画建物
-  キャンパス出入口





3-3-2 施設配置・計画

■現状と課題

正門が敷地の北側に位置しているため、軸線となる通りからの景観は各建物の北面のファサードが重要なポイントになっており、景観に配慮したファサードの改修が引き続き必要である。耐震改修を終え、学生食堂、旧ボイラー室、学生寮などの教育研究支援施設の整備・拡充が課題となっている。特に、図書館の書架スペースの拡充や、武道場などの老朽化建物の有効利用など、現状の施設を最大限に活かしつつ、構造的な安全性の確保とニーズに対応した空間の整備が必要である。

■方針

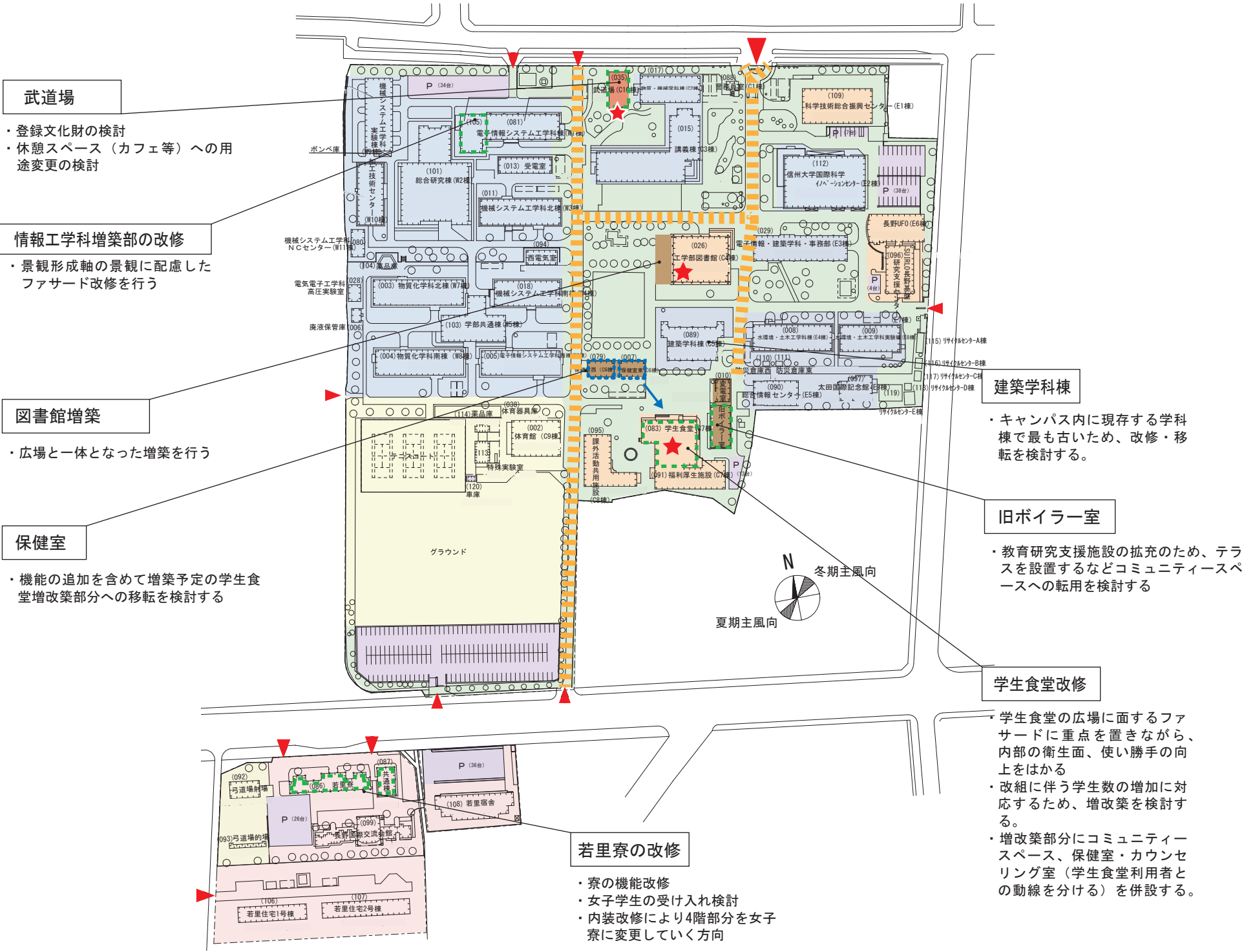
学生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるよう、図書館機能の拡充、交流施設などの整備を行う。また、計画段階から建築や土木を専攻する学生を参加させるばかりでなく、各専門を活かした工学部らしい空間及びピシステムづくりとする。さらに、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを推進する。

計画ゾーニング凡例

|            |         |
|------------|---------|
| 教育・研究ゾーン   | 緑地広場ゾーン |
| 運動・課外活動ゾーン | 居住ゾーン   |
| 地域連携ゾーン    | 景観形成軸   |
| 駐車場ゾーン     |         |

凡 例

|           |               |
|-----------|---------------|
| 内外装リニューアル | ファサードデザイン重要箇所 |
| 解体・移転     | ユニバーサルデザイン改修  |
| 保存活用する建物  |               |
| 新規計画建物    |               |



| 事業項目           |                                                      | 事業展開                                                        |  |    |  |    |  |
|----------------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|--|----|--|----|--|
|                |                                                      | 短期                                                          |  | 中期 |  | 長期 |  |
| 1. 施設環境マネジメント  | 空調・衛生設備・セキュリティなど建物の機能向上を図る。                          | ●築年数の古い建物から順次更新していく                                         |  |    |  |    |  |
| 2. キャンパス資源の整備  | 武道場を休憩スペースとして再生し、図書館増築、学生食堂、旧ボイラー室、学生寮の改修等を進める。      | ●武道場（休憩所としての再生）<br>●旧ボイラー室改修<br>●学生食堂改修<br>●若里寮改修<br>●図書館増築 |  |    |  |    |  |
| 3. デザインガイドライン  | 誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。 | ●デザインガイド作成<br>●サイン計画                                        |  |    |  |    |  |
| 4. 環境・サステナビリティ | 県産材（信州唐松・土・わらすさ・和紙など）を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。        | ●施設計画に合わせて使用検討                                              |  |    |  |    |  |

## 2 キャンパス資源の整備

## ー建物の計画ディテールー

## ■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設(メンタルヘルス・キャリアサポート関連含む)、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

## ●学生食堂の改修

学生数に対して狭隘であるため、増改築による規模拡大を検討する。



現 状



整備イメージ

## ●旧ボイラー室

役割のなくなったボイラー室は老朽化や景観上の理由から改修し、学生食堂の混雑緩和のためのフリースペースとして開放する。



現 状



整備イメージ

## ●図書館の増築

より多くの専門書のための増床を行うと共に、図書館横の広場とのつながりを考慮する。また、広場に面するところに入り口を設け、雑誌などのスペースを充実させることで、地域住民も気軽に利用できるようにする。



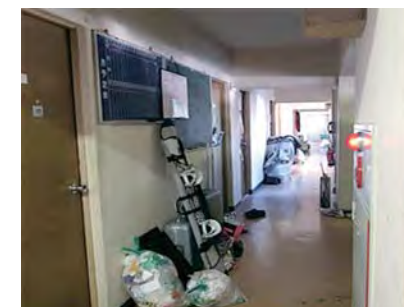
現 状



整備イメージ

## ●若里寮の改修

老朽化した若里寮・共通棟を、女子学生の受け入れも可能とする今風の学生ニーズに応じた機能向上改修し、学生の居住拠点として必要不可欠とされる学生寮として復活させる。



現 状



整備イメージ



3-3-3 パブリックスペースの計画

■現状と課題

個々の建物が一定の間隔を保ち敷地全体に広がって建っており、その間を埋めるように緑化しているが積極的なスペースの利用には至っていない。一方、イチョウ並木や桜や藤棚など季節ごとに楽しめる樹木や広場もあり、学生及び教職員の憩いの場も確保されているが、若里公園からつづくケヤキ並木との連続性や、正門からメインとなる広場への誘導が不十分である。よって地域住民にも親しまれる豊かな外部空間とするには外部からのアクセスのしやすさ、わかりやすさが課題である。

■方針

地域とキャンパスとの視覚的繋がりを考慮し、若里公園からのケヤキ並木から続く散策路としてイチョウ並木を整備する。そして、学生が憩い安らげる空間として、図書館から福利厚生施設周辺のキャンパス中央部を「学生憩いの場」とし、潤いある充実したオープンスペースを確保する。また、引き続き正面ゲートからのメインファサードを整備する。

土地利用・ゾーニング凡例

|            |          |
|------------|----------|
| 教育・研究ゾーン   | 緑地広場ゾーン  |
| 運動・課外活動ゾーン | 居住ゾーン    |
| 地域連携ゾーン    | 保存活用する建物 |
| 駐車場ゾーン     | 新規計画建物   |
|            | 景観形成軸    |

凡 例

|                |         |
|----------------|---------|
| 学生のゾーン         | 重点整備エリア |
| 広場整備           |         |
| ベースライト(安全確保照明) |         |
| ハイルイト(演出照明)    |         |

並木道の整備

- 既存のイチョウ並木を生かし、必要なところは植樹する
- 舗装を高質化する
- ベンチ等を設置する

保健室移転後の利用

- 保健室は躯体を残し、広場整備の一部とする
- これにより学生食堂・課外活動共用施設から講義棟まで広場となり、パブリックスペースが繋がる

エントランス周辺

- 正門周りのオープンスペースの景観整備

学生憩いの場

- 既存の緑地を活かし、図書館や福利厚生施設と一体となった広場整備を行う
- 既存の池を整備する
- ベンチ等を設置する

ゲートの整備

- 大型車両の必要時のみの進入

| 事業項目            | 事業展開                                |    |    |  |
|-----------------|-------------------------------------|----|----|--|
|                 | 短期                                  | 中期 | 長期 |  |
| 1. 緑地・緑化整備      | 建物や広場の整備および並木道整備を行う。                |    |    |  |
| 2. ランドスケープ整備    | 既存の緑を生かしながらさらに植樹、ベンチ、舗装等の整備を行う。     |    |    |  |
| 3. サイン・アート・照明計画 | わかりやすい案内サイン、夜間の安全を確保できるベースライトを整備する。 |    |    |  |

○広域的な緑のネットワーク



## 1 緑地・緑化整備

～パブリックスペースの計画ディテール～

### ■方針

既存のイチョウ並木を生かして必要なところに植樹し、キャンパスのシンボルとして整備する。また、地域の人も通り抜けられる気持ちの良い散策路として景観に適した舗装を整備し、アメニティの高い歩行空間とする。



現状(体育館横)



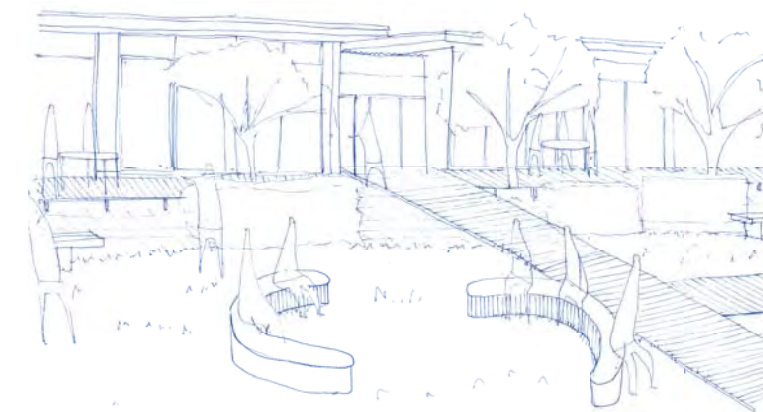
整備イメージ

### ●学生憩いの中庭

保健室の改修と中庭を整備し学生、教職員、地域の方々の憩いの場として開放する



現 状



整備イメージ

## 2 ランドスケープ整備

～パブリックスペースの計画ディテール～

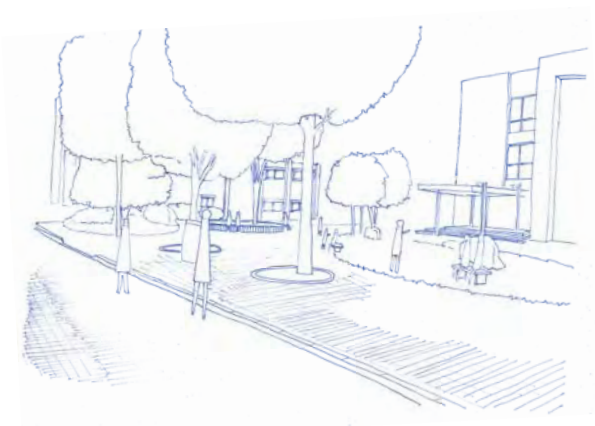
### ■方針

既存の植栽（緑）を活かし周辺の建物が安らぎの景観として一体となった広場として整備する。

### ●エントランスとしての広場



現 状



整備イメージ



3-3-4 交通・動線の計画

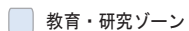
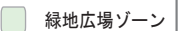
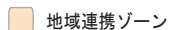
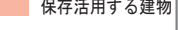
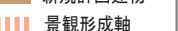
■現状と課題

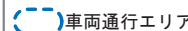
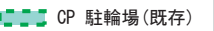
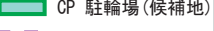
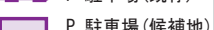
学生、教職員の車両侵入を制限していく計画を検討する。また、キャンパス内の各所に駐輪場が設置されているが建物周辺に放置する自転車が多くの、景観悪化の原因となっているため対策が必要である。

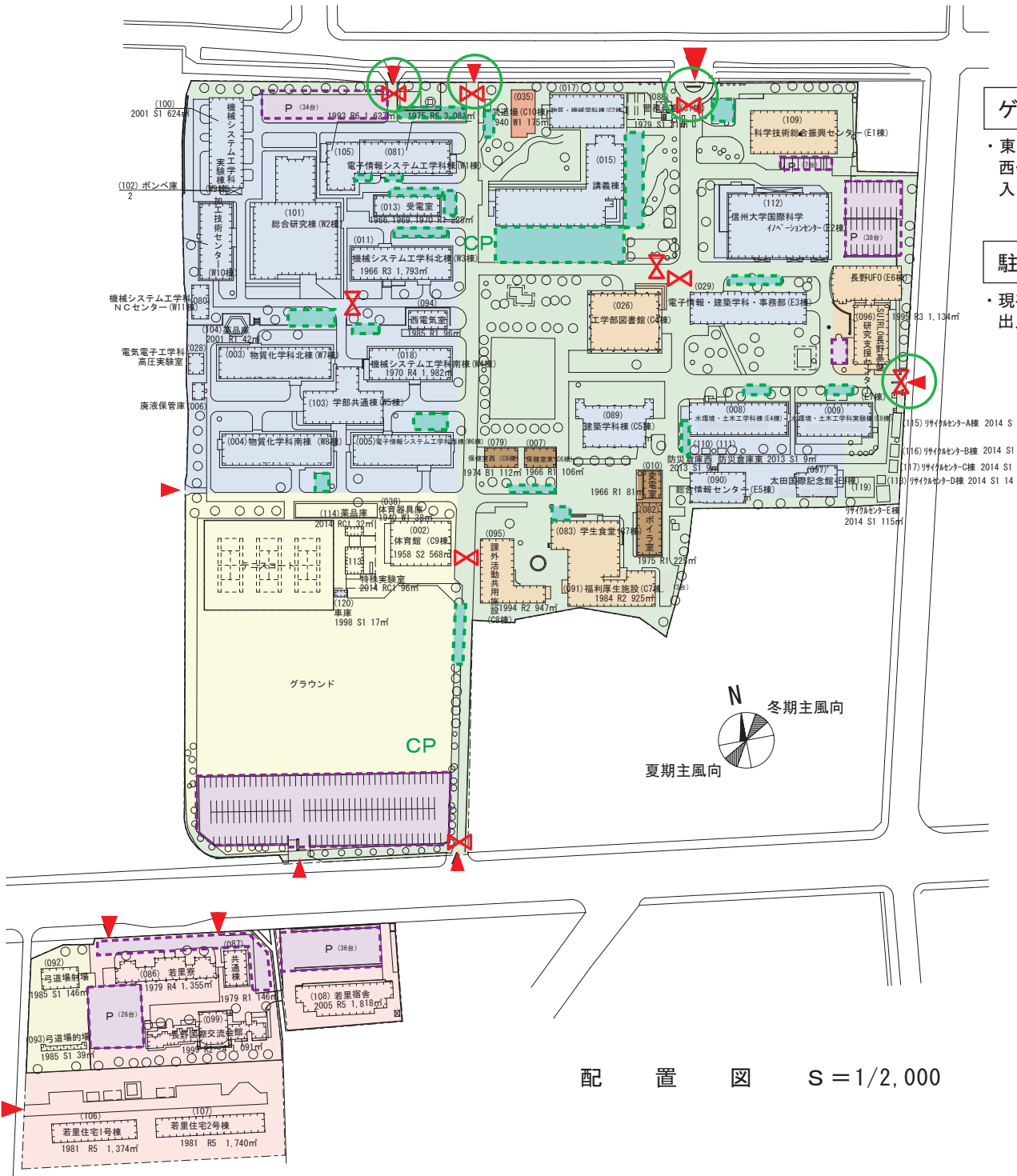
■方針

原則としてキャンパス内は、車・自転車利用者のマナー向上と景観的配慮をしながら、歩行者の安全性と快適性を確保する。また、自転車は駐輪場を増設し、学生が歩いて楽しめるウォーカブルなキャンパスを構想していく。

|     | 整備前   | 整備後    |
|-----|-------|--------|
| 駐車場 | 130 台 | 130台   |
| 駐輪場 | 760 台 | 約1000台 |

| 計画ゾーニング凡例                                                                                      |                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
|  教育・研究ゾーン   |  緑地広場ゾーン  |
|  運動・課外活動ゾーン |  居住ゾーン    |
|  地域連携ゾーン    |  保存活用する建物 |
|  駐車場ゾーン     |  新規計画建物   |
|                                                                                                |  景観形成軸    |

| 凡 例                                                                                         |                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  車両通行エリア |  CP 駐輪場(既存)  |
|  車止め     |  CP 駐輪場(候補地) |
|  ゲート整備   |  P 駐車場(既存)   |
|                                                                                             |  P 駐車場(候補地)  |



ゲート整備

- ・東側には東ゲートからの搬入、西側には北西ゲートからの搬入を基本とする。

駐輪場整備

- ・現在の収容量を確保しながら出入口付近に集中設置

| 事業項目     |                                                                              | 事業展開     |   |                  |    |    |  |
|----------|------------------------------------------------------------------------------|----------|---|------------------|----|----|--|
|          |                                                                              | 短期       | 6 | 中期               | 12 | 長期 |  |
| 1. 駐輪場整備 | 現在の収容量を確保しながら出入口付近に集中設置する。<br>また、不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。 | ●駐輪場整備   |   |                  |    |    |  |
| 2. ゲート整備 | 大型車両の進入に配慮しつつ東側のゲート門構えを整備する。<br>全体で徐々にゲートバー、車止めの機械化を進めていく。                   | ●東側ゲート整備 |   | ●ゲートバー、車止めの機械化整備 |    |    |  |
| 3. 駐車場整備 | 東側と南側の駐車場の利用を促進させて、搬入時以外のキャンパス内への自動車の進入をなくし、歩行者専用のキャンパスを目指す。                 |          |   |                  |    |    |  |

## 1 駐輪場整備

ー交通・動線の計画ディテールー

### ■方針

現在の収容量を確保しながら、南門付近と講義棟南側に駐輪場を集中設置する。  
また、放置自転車を減らすため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。



立体駐輪場の例

## 2 北側のゲート整備

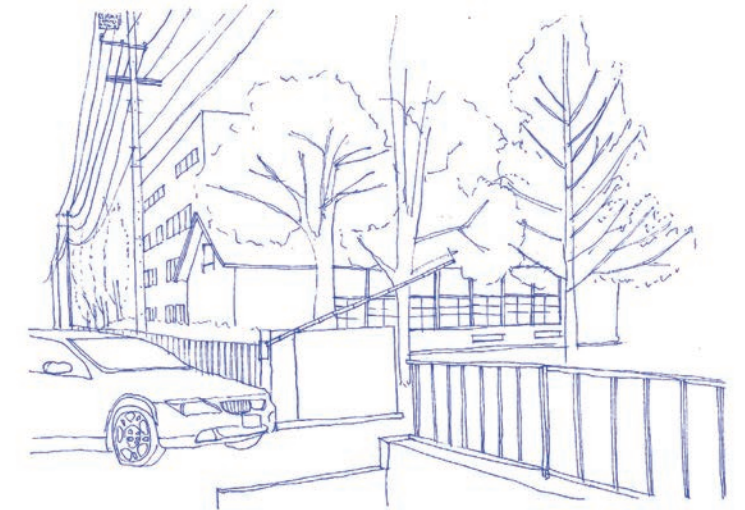
ー交通の計画ディテールー

### ■方針

歩行者専用のキャンパス作り促進のため、北側駐車場への車両導線を最短にする。



現状



ゲート整備のイメージ

## 2 車侵入ゾーンの明確化

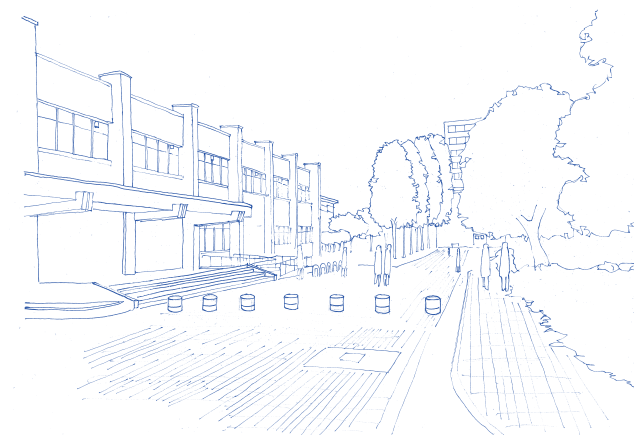
ー交通・動線の計画ディテールー

### ■方針

歩車分離のキャンパスを目指す。車止によって車の侵入ゾーンと歩行者専用ゾーンを明確化し、利用者にとって安全な計画を行う。



現状（図書館前）



車止イメージ



### 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

学部改組、大学院進学率や外国人研究員の増により既存の設備では足りない設備を確認・検討しながら教育研究活動に支障をきたさない整備・維持管理をおこなう。

〔電気設備〕 1回線高圧受電方式で、北西にある受配電室に引き込み、幹線溝を利用して各棟へ配電している。信州大学国際科学イノベーションセンターが新築され、工学部の研究活動がさらに活発になっていることから電気設備の重要性が増し、さらなる安定供給が求められている。老朽化度合いを確認・検討しながら設備更新をおこなう。

〔給水設備〕 市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、高層建物では高置水槽方式により各建物に給水される。地下水を利用した設備や雨水を中水として利用出来る建物も整備され持続的発展ができるキャンパス整備がすすんでいるが、幹線は災害に強いとは言えない。老朽化度合いを確認・検討しながら設備更新をおこなう。

〔排水設備〕 雨水系・生活系・実験系の3系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水は建物単位でPH濃度をモニタリングしている。学生食堂の使用が増え、在籍する学生や教職員数と食堂の混雑解消とのバランスを取りながら更新を検討する。

〔ガス設備〕 都市ガス(13A)を2箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給している。更新の際はポリエチレン管などの地震に強いガス管の導入の検討も視野に入れる。

〔空調設備〕 GHPやEHPの整備がすすみボイラー運転の効率が落ちてきたことからボイラーを廃止した。新営建物及び改修整備済である。建物についてはガスヒートポンプによる個別空調が主体だが、信州大学国際科学イノベーションセンターは地下水を利用した空調システムとなっている。耐用運転時間を超えた空調設備が増え故障も多くなってきた為、高効率の物に切り替え維持管理費の削減に努める。

〔廃棄物〕 リサイクルセンター移動にともない分別を見直し、リサイクル化を推進した。実験系廃棄物は容器に分別回収し、業者に委託して処理している。

#### ■方針

##### 1. 省エネルギー化

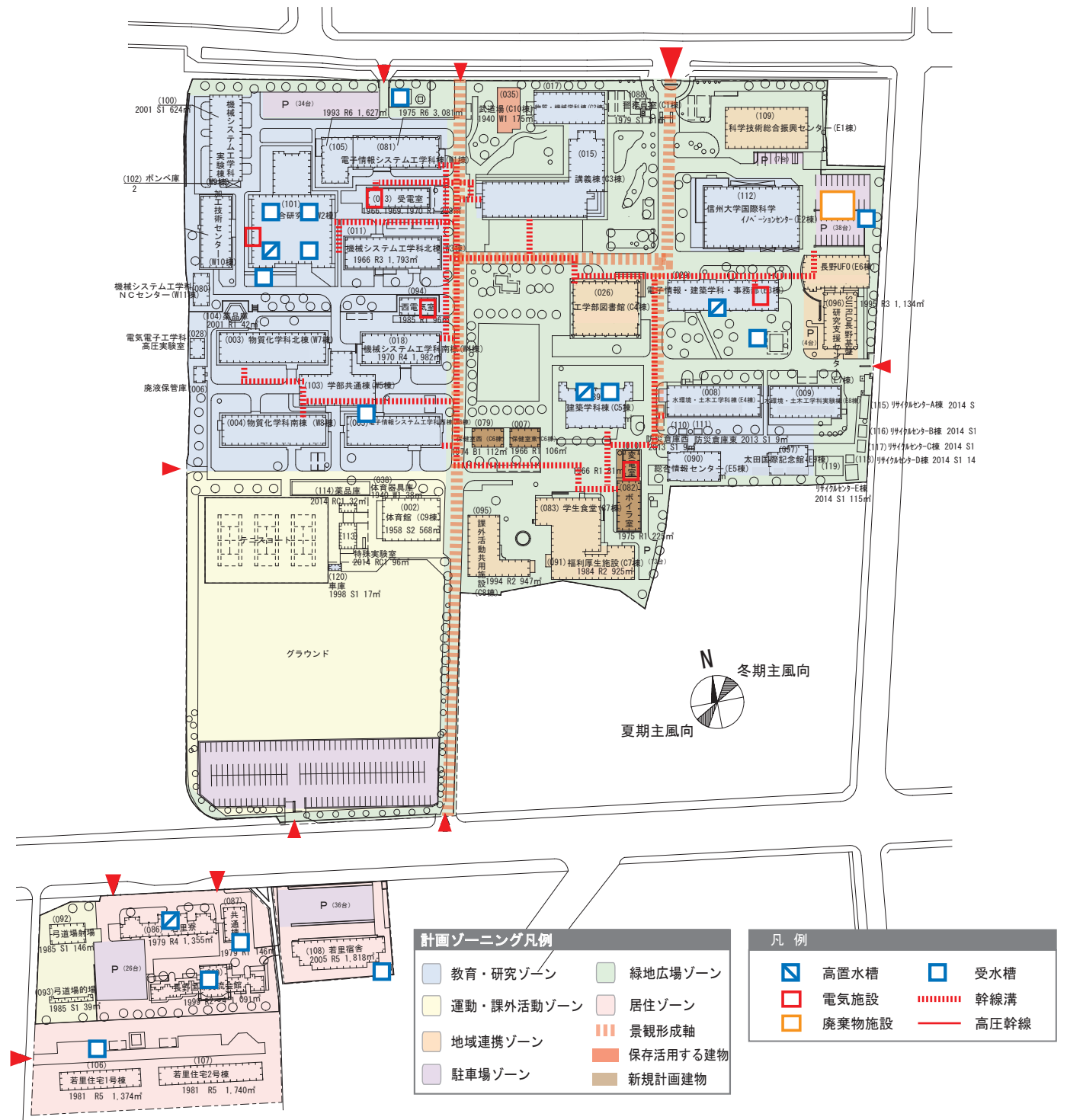
教育研究活動や地域連携を進めていく上でエネルギー消費が増大する傾向にあるが、設備機器の耐用年数を鑑み先進的な設備の導入も比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。また寒冷地であることを考慮し、年間の一次エネルギー消費量の少ない設備の導入を進めていく。

##### 2. 既存設備の有効活用

既存施設の有効活用を積極的におこなうため、アクティブ・ラーニングスペースのような今までにない活用方法を検討する。併せて維持管理費用を圧迫しない・安心安全な教育研究環境を維持するという観点から予防保全に努める。

##### 3. 循環型社会への取り組み

長寿命化を念頭に環境負荷の低い持続的発展が期待できるキャンパス整備を計画する。その際に地域の避難場所としての性格も併せ持つ為、安心安全な防災機能にも配慮したものとする。



| 項 目       | 事 業 展 開                                                                   |     |     |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------|-----|-----|
|           | 短 期                                                                       | 中 期 | 長 期 |
| 1. インフラ整備 | <div>●維持管理計画策定</div> <div>●給排水・ガス配管の改修および更新</div> <div>●加圧ポンプ式給水の検討</div> |     |     |

3-3-6 コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

産学官及び地域連携施設がキャンパスの東側にあり、大学の枠を越えた研究活動の場になっているがその活動は一部の関係者以外にはあまり知られておらず、閉鎖的である。運動場は地域の人々の利用も多いが、図書館などの施設利用はまだ低く、豊かな緑地も含めて地域の人に愛着を持って利用してもらえるような工夫が必要である。他にも、図書館は学生のために24時間開館の対応を行っているが、安全面など十分な対応ができていない。

■方針

図書館、体育館などの施設も地域の人々が気楽に利用できるように広く案内し、イベントを企画するなど、学生の社会活動への参加を促しながら地域交流を図る。留学生や外国人研究者の増加により、宿舎の拡充が必要になっている。そこで若里住宅を短期宿泊施設として利用する方針を示す。

| 計画ゾーニング凡例                                                                           |          |                                                                                     |         |
|-------------------------------------------------------------------------------------|----------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------|
|    | 教育・研究ゾーン |    | 緑地広場ゾーン |
|    | 運動・課外活動ゾ |    | 居住ゾーン   |
|    | 地域連携ゾーン  |    | 景観形成軸   |
|  | 駐車場ゾーン   |  | 新規計画建物  |

| 凡 例                                                                                   |                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
|    | 地域交流・学生間（教職員）交流施設 |
|    | 学生・地域交流ゾーン        |
|    | 産学官連携ゾーン          |
|  | 国際交流ゾーン           |

| 事業項目                    |                                              | 事業展開   |    |    |
|-------------------------|----------------------------------------------|--------|----|----|
|                         |                                              | 短期     | 中期 | 長期 |
| 1. 交流施設の計画・運営への学生や市民の参加 | 旧ボイラー室の改修は計画段階から各学科の学生が参加し、キャンパスを学生主体で作っていく。 | ●検討・実施 |    |    |
| 2. 施設の地域開放促進            | 産学官連携ゾーン内の建物及び図書館、福祉施設、運動施設の利用の促進をする。        | ●検討・実施 |    |    |

|   |           |                  |
|---|-----------|------------------|
| 1 | 施設の地域開放促進 | -コミュニティの計画ディテール- |
|---|-----------|------------------|

■方針

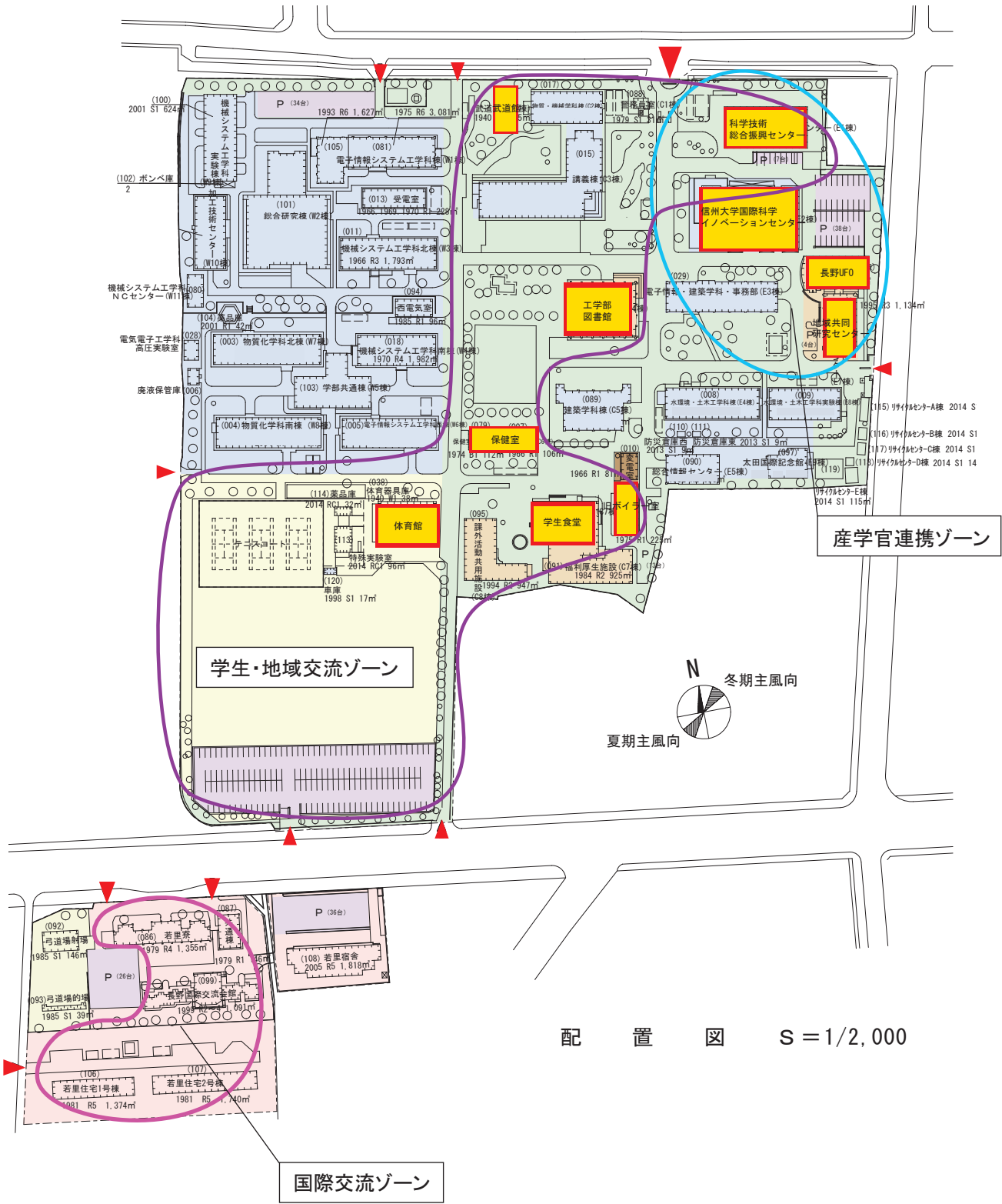
キャンパス内の施設を地域に開放し、多くの人が利用できるようにする。

●既存施設（運動施設・図書館・福祉施設）

民間経営会社との業務委託契約（土日に限る）によりトータルの施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。



運動場



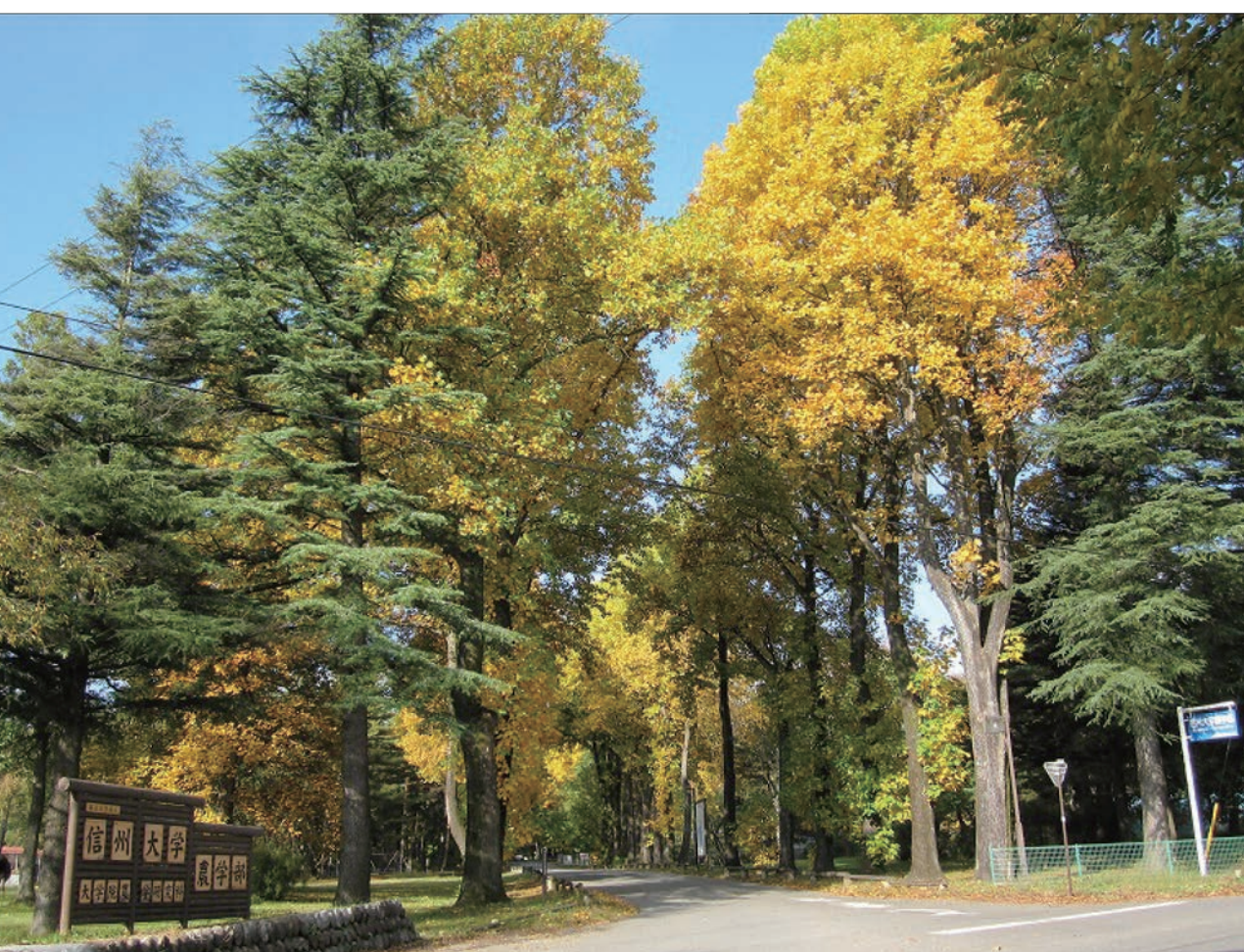
配置図 S = 1/2,000





# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2018

## D. 伊那キャンパス ～食と緑を科学する 自然と共に育む知～





キャンパスマスタープランについて

1－1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 ..... 1

1－2. アクションプランの位置づけ ..... 1

1－3. 信州大学の理念との整合 ..... 2

1－4. PLAN “the N・E・X・T”、信州大学ビジョン2015／信州飛翔プランとの整合 … 2

1－5. キャンパスの全体像 ..... 6

1－6. 各キャンパス共通事項 ..... 7

D. 伊那キャンパス

2. 現状分析

2－1. 配置図・現状写真・問題点 ..... D－1

2－2. ディベロップメントプラン ..... D－1

3. 伊那キャンパスマスタープラン

3－1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針 ..... D－2

3－2. 基本方針と戦略 ..... D－3

3－3. カテゴリー別計画

3－3－1. 全体骨格・フレームワーク ..... D－4

3－3－2. 施設配置・計画 ..... D－5

(1)施設環境マネジメント (2)キャンパス資源の整備 (3)デザインガイドライン

(4)環境・サステイナビリティ

3－3－3. パブリックスペースの計画 ..... D－7

(1)緑地・緑化整備 (2)ランドスケープ (3)サイン・アート・照明計画

(4)災害・安全衛生 (5)ユニバーサルデザイン

3－3－4. 交通・動線の計画 ..... D－9

(1)歩行者優先の整備 (2)駐車場整備 (3)駐輪場計画 (4)動線計画

3－3－5. 設備・インフラストラクチャーの計画 ..... D－11

(1)インフラ整備 (2)廃棄物処理

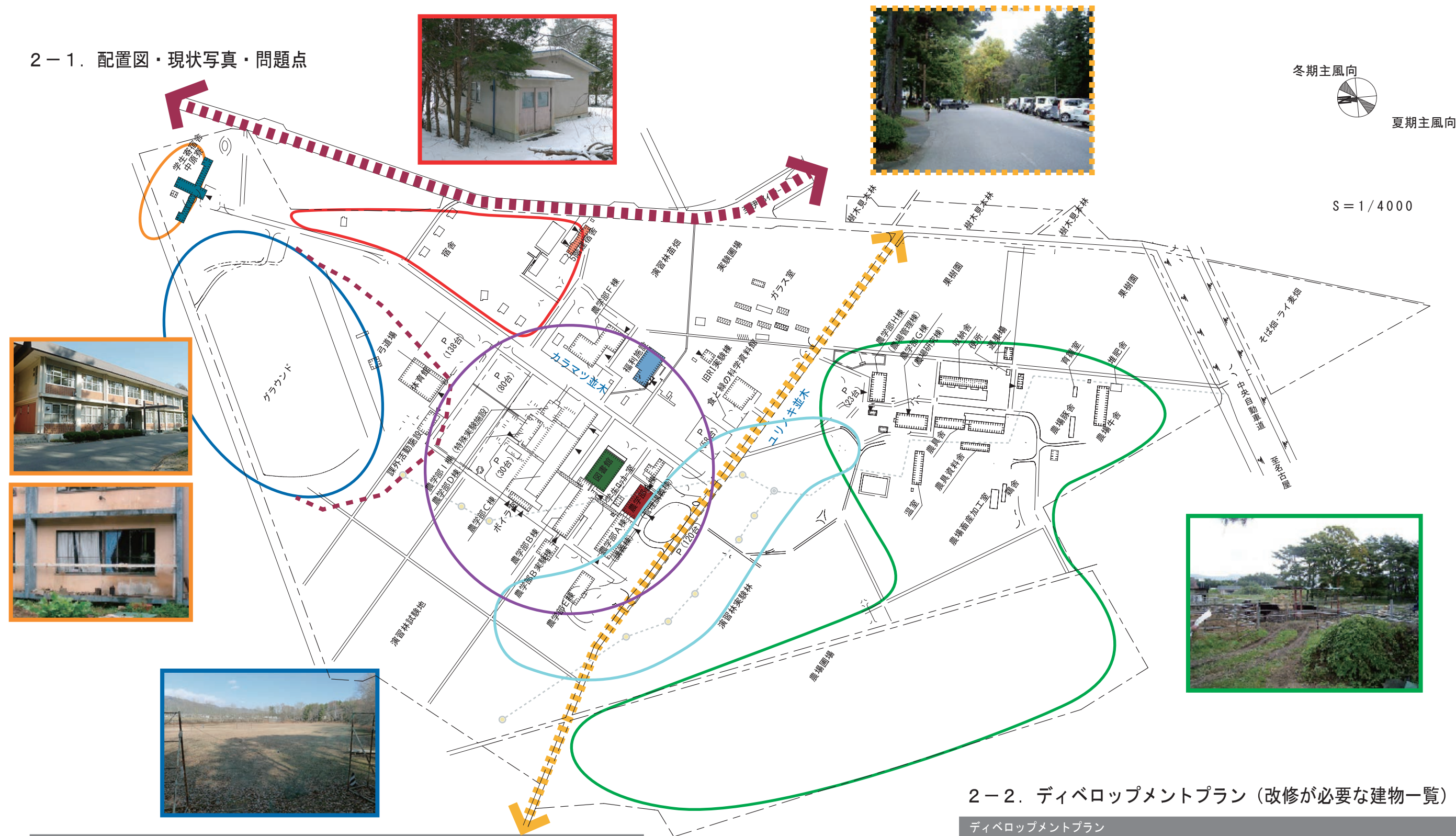
3－3－6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 ..... D－12

(1)交流施設の計画・運営 (2)施設の地域開放促進

3－4. 附属施設の計画 ..... D－13



## 2-1. 配置図・現状写真・問題点



## 2-2. ディベロップメントプラン（改修が必要な建物一覧）

## ディベロップメントプラン

|                                                                                       |         |           |    |        |         |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------|-----------|----|--------|---------|
|  | 中原寮改修   | 1965(昭40) | R3 | 1,707㎡ | Is値0.86 |
|  | 管理講義棟改修 | 1971(昭46) | R2 | 1,140㎡ | Is値0.6  |
|  | 5階建宿舍改修 | 1972(昭47) | R5 | 1,147㎡ | Is値0.42 |
|  | 福利施設改修  | 1978(昭53) | R2 | 2,971㎡ | Is値0.59 |
|  | 図書館改修   | 1971(昭46) | R1 | 882㎡   |         |

## 問題点凡例

- 宿舎が老朽化しており、改修・転用等を検討する
- 中原寮（学生寮）は築４０年を経ているので、大規模な改修が必要である
- グラウンド・体育館の管理が不十分であり、防災機能を含めて整備を行う必要がある
- 畜舎の汚水などについて伝染病のことも踏まえ、整備が必要である
- 歩車分離を図って安全性を向上させる必要がある
- 横井戸周辺の安全確保と歴史的農業遺産としての位置づけを行う必要がある
- ◀- -▶ 歩行者の安全確保のため、村との調整協議にて整備が必要である
- ◀- -▶ 計画道路を含む周辺自治体の広域計画との整合性を検討する必要がある

### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学伊那キャンパスは、大学の理念及び農学部理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティという6つのカテゴリーに分類整理し、全体骨格を除く5つのカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■農学部理念・目標

##### （理 念）

信州の豊かな自然と風土のもとで、食料・環境・生命を支える学問を展開し、科学性、実践性、倫理性の高い教育と研究を行う。自然と人が共生する持続的社会の創造を目指し、広い視野と課題探求能力を備えた人材を養成する。

##### （目 標）

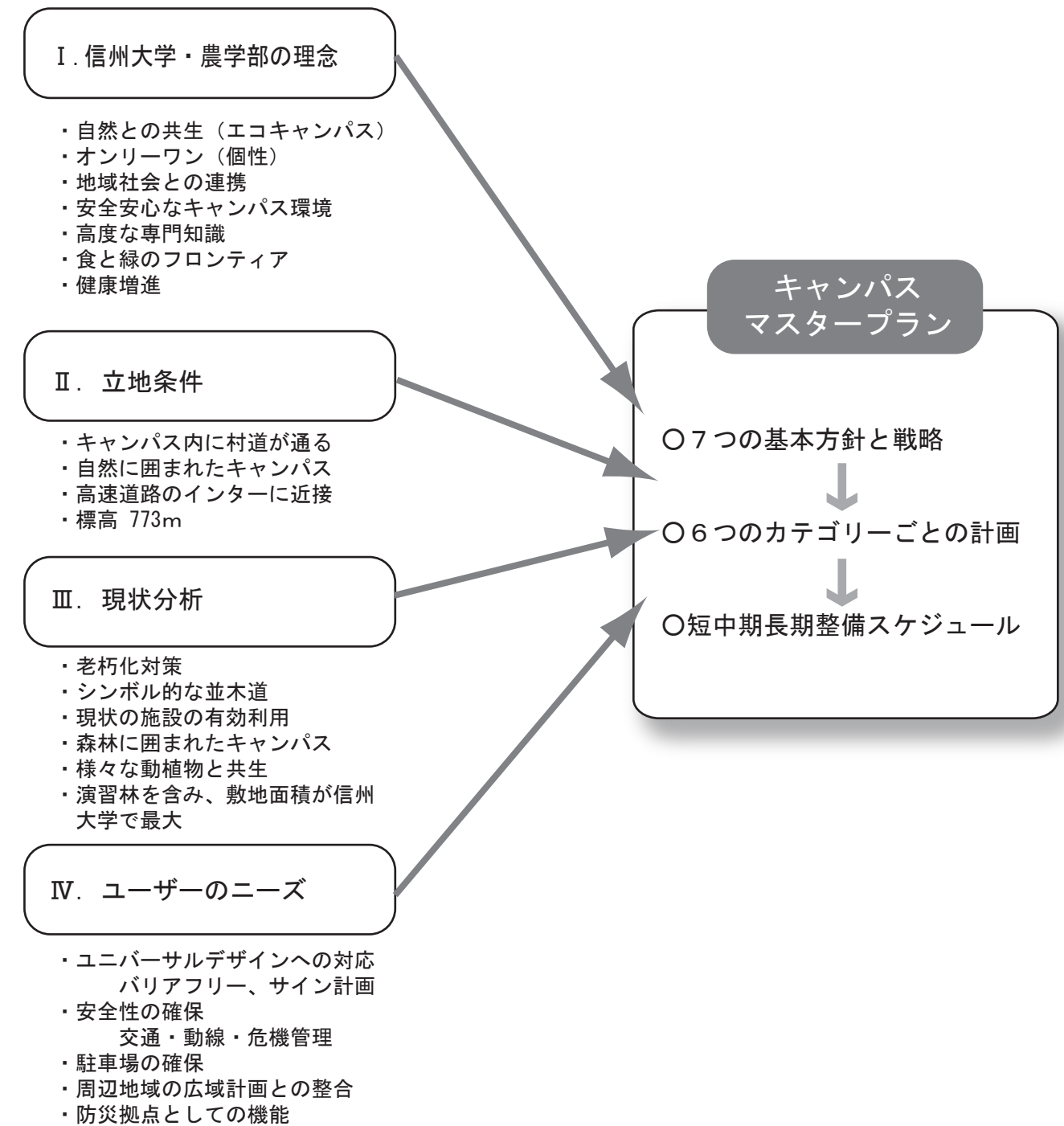
1. 変化する社会に適応した知的創造に貢献する
2. 食と緑のフロンティアを切り拓き、人間生活の質的向上と健康で豊かな社会の創造に貢献する
3. 人間性あふれた創造力豊かな人材を養成する
4. 開かれた大学として幅広い連携を進め、社会に貢献する

##### （教育理念）

自然豊かな環境のもとで、豊かな人間性と幅広い教養を築き、農学に関する広い知識・技術を涵養して、専門的な知識や研究能力を養成する。さらに、地球的な広い視野と現実的な視点に立って問題をとらえ解決する能力を持つ人材を育成する。

##### （教育目標）

1. 持続的社会の創造に貢献する人間性豊かな人材の育成
2. 社会の一員としての問題意識の醸成と実践性、倫理性、国際性を備えた人材の育成
3. 農学分野の基礎能力と応用能力を持つ人材の養成
4. フィールド研究と実験研究が連携する教育の実践





3－2. 基本方針と戦略 ～食と緑を科学する 自然豊かな命の森 ～ <恵まれた自然環境での安全・安心な活力ある教育・研究拠点の整備・創出>

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

| 基 本 方 針 |                      | 戦 略                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | カテゴリー                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1       | キャンパス<br>アイデンティティー   | <div>【豊かな自然を生かす】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・良好な実験・観察フィールドの持続と生態系の保全</li><li>・農場、演習林の適切な利用</li></ul> <div>【教育研究が育む農林産物の利活用】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・農林産物の販売</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                | <div>・実験・観察フィールド資料の公開・施設の充実</div> <div>・実験・観察フィールドの解説案内整備</div> <div>・農林産物産品の開発研究・販売</div> <div>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</div> <div>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</div> <div>パブリックスペース(3)サイン・アート</div> <div>コミュニティ(1)交流施設の計画・運営</div> <div>コミュニティ(2)施設の地域開放</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 2       | アメニティを高める<br>現状資産の活用 | <div>【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・農学部シンボル「ユリノキ並木」と「カラマツ並木」</li><li>・学生研究施設と地域開放エリア</li></ul> <div>【ニーズに対応した施設利用】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生、職員の交流スペース</li><li>・教育研究環境の充実</li><li>・駐車場、駐輪場動線の見直し</li></ul> <div>【老朽化対策】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・正門位置の見直し</li><li>・建物の安全性の確保</li></ul> <div>【森林資源・運動施設の活用】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生及び地域の自然・農林学習空間、運動施設の市民開放</li></ul> | <div>・カラマツ並木の一部歩行者専用道路化</div> <div>・駐車場利用者制限</div> <div>・施設整備（農場畜産管理・食品加工研究施設）</div> <div>・機能改善（図書館）</div> <div>・広場整備（動物エリア、グラウンド、福利施設周辺）</div> <div>・耐震補強</div> <div>・インフラストラクチャーの見直し</div> <div>・宿舍の有効利用</div> <div>・西駒・手良沢山・野辺山ステーションの有効利用</div> <div>・正門新設</div> <div>・歴史的遺産の保全</div> <div>施設配置・計画(1)施設環境マネジメント</div> <div>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</div> <div>パブリックスペース(1)緑地・緑化整備</div> <div>パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</div> <div>交通・動線(1)歩行者優先の整備</div> <div>交通・動線(2)駐車場整備</div> <div>インフラ(1)インフラ整備</div> <div>コミュニティ(1)交流施設の計画・運営</div> <div>コミュニティ(2)施設の地域開放</div> |
| 3       | 地域社会との連携             | <div>【「知財・人財・資財」の共有、発展】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・産学官連携施設（資料館、研修空間の提供）</li></ul> <div>【地域住民との共生】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・自然資源、施設の地域開放</li><li>・広域地域との整合</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                  | <div>・企業と連携した農林産物の研究、販売</div> <div>・図書館、福利施設等の地域開放</div> <div>・アクセス機能の向上</div> <div>・防災拠点としての機能向上</div> <div>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</div> <div>パブリックスペース(1)緑地・緑化整備</div> <div>パブリックスペース(4)災害・安全衛生</div> <div>交通・動線(4)動線計画</div> <div>コミュニティ(1)交流施設の計画・運営</div> <div>コミュニティ(2)施設の地域開放</div>                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 4       | 参加型キャンパス             | <div>【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生、教職員が参加した点検評価</li><li>・ソフト事業への学生参加</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | <div>・定期的な点検評価のシステム、組織づくり</div> <div>・農産物加工販売所の計画運営への学生の参加</div> <div>施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</div> <div>パブリックスペース(5)ユニバーサルデザイン</div> <div>コミュニティ(1)交流施設の計画・運営</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 5       | サステナビリティ             | <div>【地域の風土の反映】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・地場産材の使用や地域産業との連携</li></ul> <div>【エコキャンパス】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・省エネ、CO2削減</li></ul> <div>【循環型社会への取り組み】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・ゴミ削減、リサイクル、リユース</li></ul>                                                                                                                                                                                                          | <div>・県産材（信州から松・土・わらすさ・和紙など）の使用</div> <div>・維持管理計画の策定</div> <div>・景観に配慮したゴミ置き場の整備</div> <div>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</div> <div>施設配置・計画(4)環境・サステナビリティ</div> <div>パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</div> <div>インフラ(2)廃棄物処理</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 6       | ユニバーサルデザイン           | <div>【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・誰もが使いやすい</li></ul> <div>【わかりやすいキャンパス】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・迷わない案内</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                | <div>・ユニバーサルデザイン（デザインガイドラインの策定）</div> <div>・サイン計画</div> <div>施設配置・計画(3)デザインガイドライン</div> <div>パブリックスペース(3)サイン・アート</div> <div>パブリックスペース(5)ユニバーサルデザイン</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 7       | 安全・安心なキャンパス          | <div>【安全な歩行空間】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・人と車と自転車の動線の分離</li></ul> <div>【防犯・危機管理】</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・夜間の安全性</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <div>・交通計画、駐車場計画、駐輪場計画</div> <div>・照明計画</div> <div>・廃棄物計画</div> <div>パブリックスペース(3)照明計画</div> <div>交通(1)駐輪場整備</div> <div>交通(3)駐車場整備</div> <div>インフラ(1)インフラ整備</div> <div>インフラ(2)廃棄物処理</div>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |

### 3-3-1 全体骨格・フレームワーク





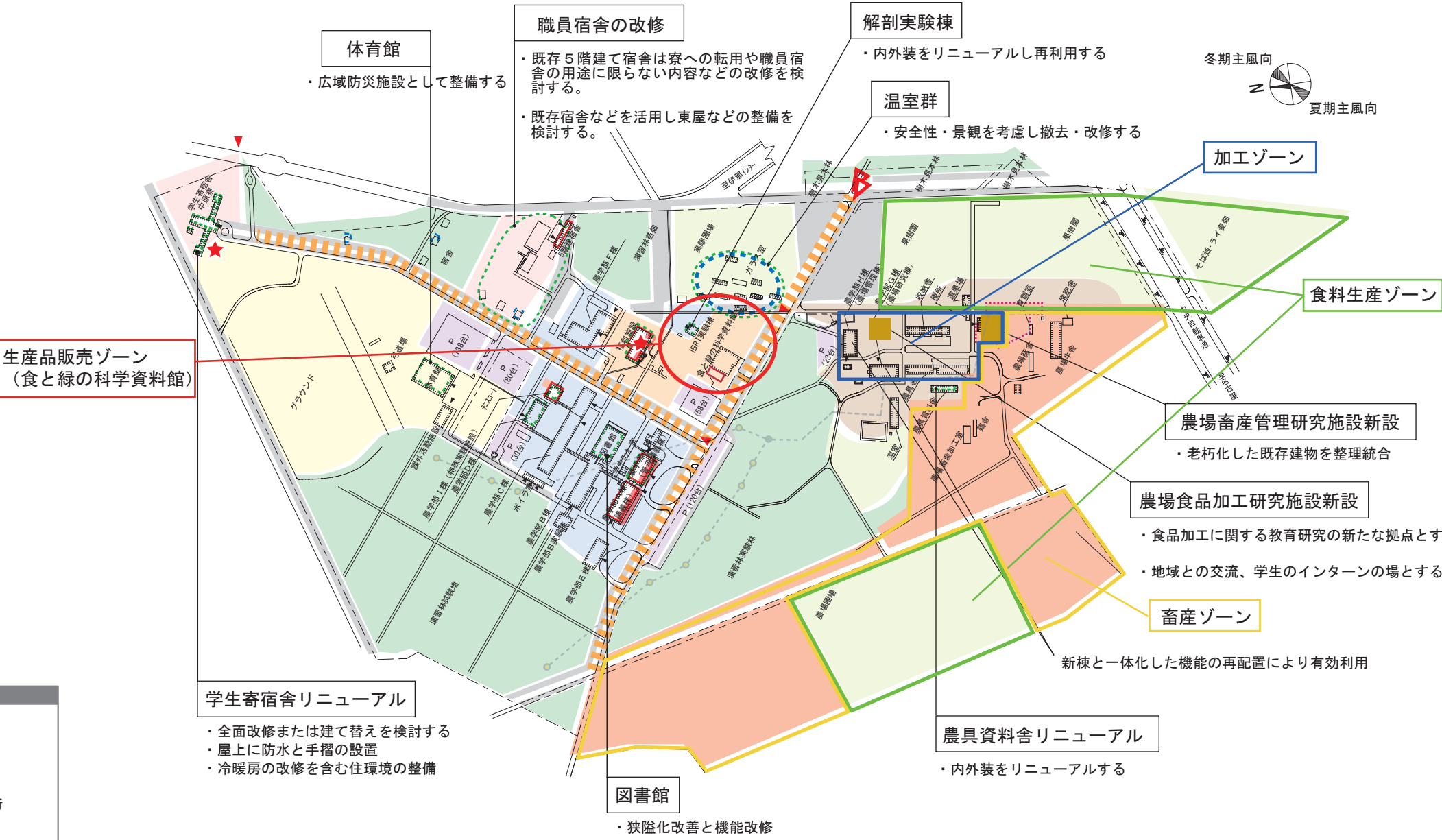
3-3-2 施設配置・計画

■現状と課題

伊那キャンパスは広大な敷地を有し、緩やかな起伏をもつ地形に沿って施設が建てられており、各棟が渡り廊下で繋がれている。耐震強度の低い建物もあり、順次補強していく必要がある。農場を含むキャンパス内には学生寄宿舍、職員宿舎、温室群、農場関連施設群などの老朽化が進んでおり、改修等の対応が必要である。

■方針

学生が安全快適に学校生活を送れるように、既存建物の耐震補強や内外装のリニューアルを行う。内外装の老朽化、耐震強度不足を改善すると共に、女子トイレ等の整備も合わせて行う。全体として自然環境に配慮したデザインとし、ユニバーサルデザインを推進する。建物改修・新設の際は、一部にレンガまたは自然に調和する木、レンガのようなナチュラルな色合いを採用し、キャンパス全体として調和のとれた景観を形成する。



| 土地利用・ゾーニング凡例 |        |
|--------------|--------|
| 教育・研究ゾーン     | 駐車場ゾーン |
| 運動・課外活動ゾーン   | 居住ゾーン  |
| 地域連携ゾーン      | 風致ゾーン  |
| 森林ゾーン        | 衛生管理区域 |
| 農園ゾーン        | 外部開放区域 |
| 動植物ゾーン       | 景観形成軸  |

| 凡 例           |              |
|---------------|--------------|
| 耐震補強          | 内外装リニューアル    |
| 解体・移転         | 新規計画建物       |
| ファサードデザイン重要箇所 | ユニバーサルデザイン改修 |
| 横井戸           |              |

| 事業項目           |                                                                                                                             | 事業展開                 |  |    |        |  |     |          |  |  |                                  |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|--|----|--------|--|-----|----------|--|--|----------------------------------|
|                |                                                                                                                             | 短期                   |  | 6年 | 中期     |  | 12年 | 長期       |  |  |                                  |
| 1. 施設環境マネジメント  | 耐震強度の低い建物から順次補強改修していく。<br>また、補強工事と同時に内装やファサードデザインの改善もあわせて行う。                                                                | ●耐震設計→補強・改修          |  |    |        |  |     |          |  |  |                                  |
| 2. キャンパス資源の整備  | 学生寄宿舍の屋上に手摺を設置するなど安全面の向上、冷暖房の改修を含む住環境の整備により、快適な宿舎内環境を築く。また、キャンパスの持っている特徴（農産）や地域との関わり合いを考慮した施設の機能向上やリニューアル（農場新営建物2棟、図書館）を行う。 | ●施設利用方針検討            |  |    | ●学生寄宿舍 |  |     | ●図書館機能向上 |  |  | ●農場畜産管理研究施設 新設<br>●農場食品加工研究施設 新設 |
| 3. デザインガイドライン  | 誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内（サイン）のガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。                                                                        | ●デザインガイド作成<br>●サイン計画 |  |    |        |  |     |          |  |  |                                  |
| 4. 環境・サステナビリティ | 県産材（信州唐松・土・わらすさ・和紙など）を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。                                                                               | ●施設計画に合わせて使用検討       |  |    |        |  |     |          |  |  |                                  |

## 1 施設環境マネジメント

ー施設配置・計画ディテールー

### ■方針

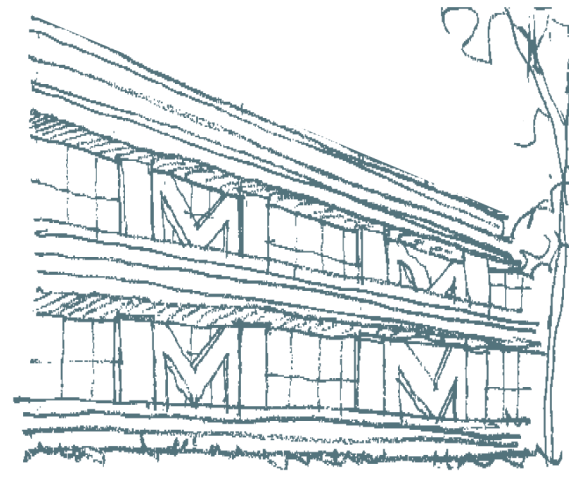
1981年の耐震基準の法改正以前に建設された強度不足の建物を耐震補強していく。また、単純な耐震補強に終らせることなくデザイン性を兼ね備えた整備を行う。

### ●景観形成軸

ユリノキ並木やカラマツ並木など周辺の環境との調和を重視し、補強ブレースの他に格子のデザインを取り入れるなど、自然景観を害さないファサードデザインとした耐震補強をする。



現状（管理棟）



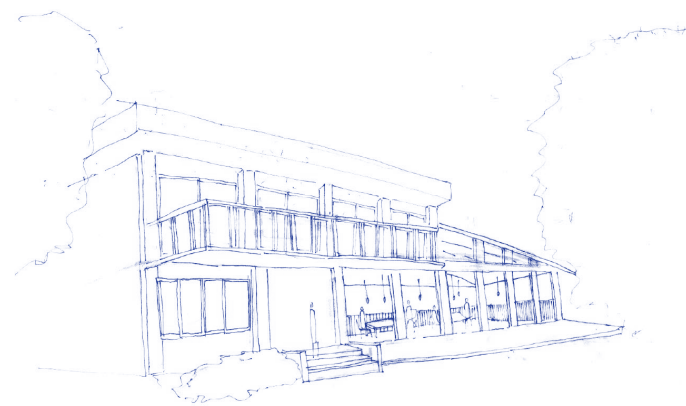
整備イメージ

### ●福利施設

改修を行い、機能拡充、周辺環境と調和した施設を目指す。



現状



整備イメージ

## 2 キャンパス資源の整備

ー施設配置・計画ディテールー

### ■方針

豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。建物改修・新設の際は、一部にレンガまたはレンガ色を採用し、キャンパス全体として調和のとれた景観を形成する。

### ●図書館

学内や地域の利用者が図書館を効果的に利用できるように、質問や相談を受け付けたり、文献探しの助けとなるレファレンスコーナーを設ける。



現 状



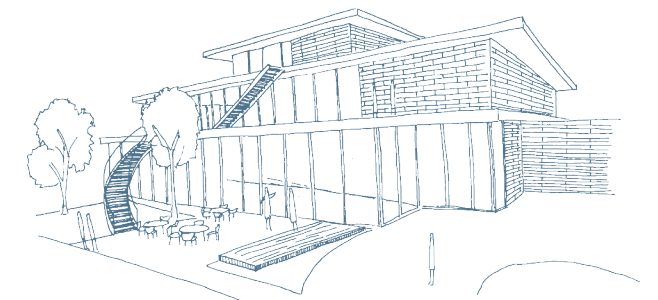
整備イメージ

### ●農場食品加工研究施設

食品加工に関する教育研究の新たな拠点とし、地域との交流・学生のインターン実習の現場として活用する。



現状





3-3-3 パブリックスペースの計画

■現状と課題

本キャンパスは豊かな自然環境を有している。その一方、福利施設（学食）前および食と緑の科学資料館を含むカラマツ並木の東側は、十分な整備が行われておらず、平屋の宿舍の整備を含め両施設をつなぎスムーズな往来ができるような空間整備を実施する必要がある。村道脇に隣接されている圃場は、数種類の家畜が飼育され地域への公開も行われているが、外灯やサインは十分に整備されておらず、夜間の安全性にも問題がある。

■方針

カラマツ並木東側のゾーンさらに村道周辺をつなぐよう散策路整備等を行うことで、学生や周辺住民がゆっくりとくつろげる外部空間とする。また、衛生管理に配慮しながら地域の児童等への見学のための施設を整備する。照明については、動植物の生育に問題ないように計画する。

計画ゾーニング凡例

|            |          |
|------------|----------|
| 教育・研究ゾーン   | 駐車場ゾーン   |
| 運動・課外活動ゾーン | 居住ゾーン    |
| 地域連携ゾーン    | 風致ゾーン    |
| 森林ゾーン      | 衛生管理区域   |
| 農園ゾーン      | 臨時外部開放区域 |
| 動植物ゾーン     | 景観形成軸    |

凡 例

|                |
|----------------|
| 広場の整備          |
| ベースライト(安全確保照明) |
| ハイルイト(演出照明)    |
| 横井戸            |



| 事業項目            |                                                                                              | 事業展開                              |    |    |     |    |  |  |  |
|-----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|----|----|-----|----|--|--|--|
|                 |                                                                                              | 短期                                | 6年 | 中期 | 12年 | 長期 |  |  |  |
| 1. 緑地・緑化整備      | 文化景観エリア・を学生交流・地域交流のエリアとして開放できるよう整備する。                                                        | ●環境整備                             |    |    |     |    |  |  |  |
| 2. ランドスケープ      | ユリノキ並木やカラマツ並木をキャンパスのシンボルロードとして保全し、他の沿道の風致ゾーンも自然景観の保全に努める。                                    | 風致ゾーン及びユリノキ並木等保全                  |    |    |     |    |  |  |  |
| 3. サイン・アート・照明計画 | 外来者にわかりやすくトータルデザインされた広場案内サインを整備する。主な道には夜間の安全を確保できるようにベースライトを整備する。照明については、動植物の生育に問題ないように計画する。 | ●サイン計画<br>●照明設計<br>●随時整備<br>●随時整備 |    |    |     |    |  |  |  |
| 4. 災害・安全衛生      | グラウンドを近隣地域のための広域避難場所として整備する。管理区域内のサインの充実（安全衛生）、フェンスの設置を行う。                                   | ●近隣市町村と調整<br>●随時整備(看板、フェンスの設置)    |    |    |     |    |  |  |  |
| 5. ユニバーサルデザイン   | 誰もが使いやすいデザイン、わかりやすい案内、敷地内の段差解消などのガイドラインをつくり、空間設計に反映させる。また、並木の案内板を整備する。                       | ●デザインガイド作成                        |    |    |     |    |  |  |  |

## 1 緑地・緑化整備

## -パブリックスペースの計画ディテール-

## ■方針

豊かな自然環境を維持しながら地域に開放し、自然学習やレクリエーションなど、多くの人が訪れる場となるよう計画する。広域避難場所としてグラウンドを整備し、文化景観エリアの整備、横井戸およびカラ松並木の保存と整備を行う必要がある。



管理棟前駐車場



カラマツ並木

## ●文化景観エリア

学生交流、地域交流のエリアとして散策路やベンチ等の整備をする。村道周辺は現草地の維持保存をする。



現 状



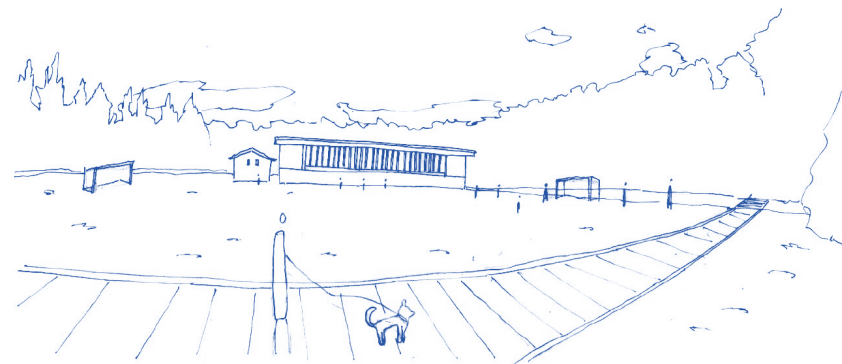
整備イメージ

## ●グラウンド

グラウンドを整備（段差の解消など）し、広域避難場所としての機能を持たせる。



現状



整備イメージ

## ●横井戸

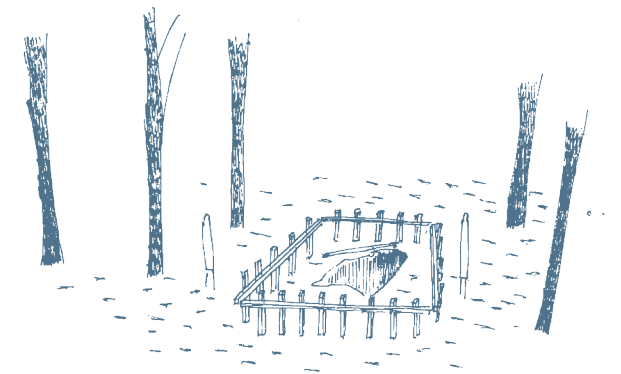
歴史地理的文化遺産として文化財登録を目指す。保存と安全のために柵を設置する。



神子柴歴史文化遺産の碑



縦穴から出口に至る水路



整備イメージ



3-3-4 交通・動線の計画

■現状と課題

現在、敷地中央に村道（ユリノキ並木）が走り一般車両の交通量も多く、歩行者の安全性と快適性の弊害となっている。カラマツ並木でも車の通行により危険性が高い。安全設備とゆとりある歩行空間が必要である。また、キャンパス内の放置自転車は景観悪化の原因となっている。

更に、計画道路を含む周辺地域の広域計画との整合も必要とされている。

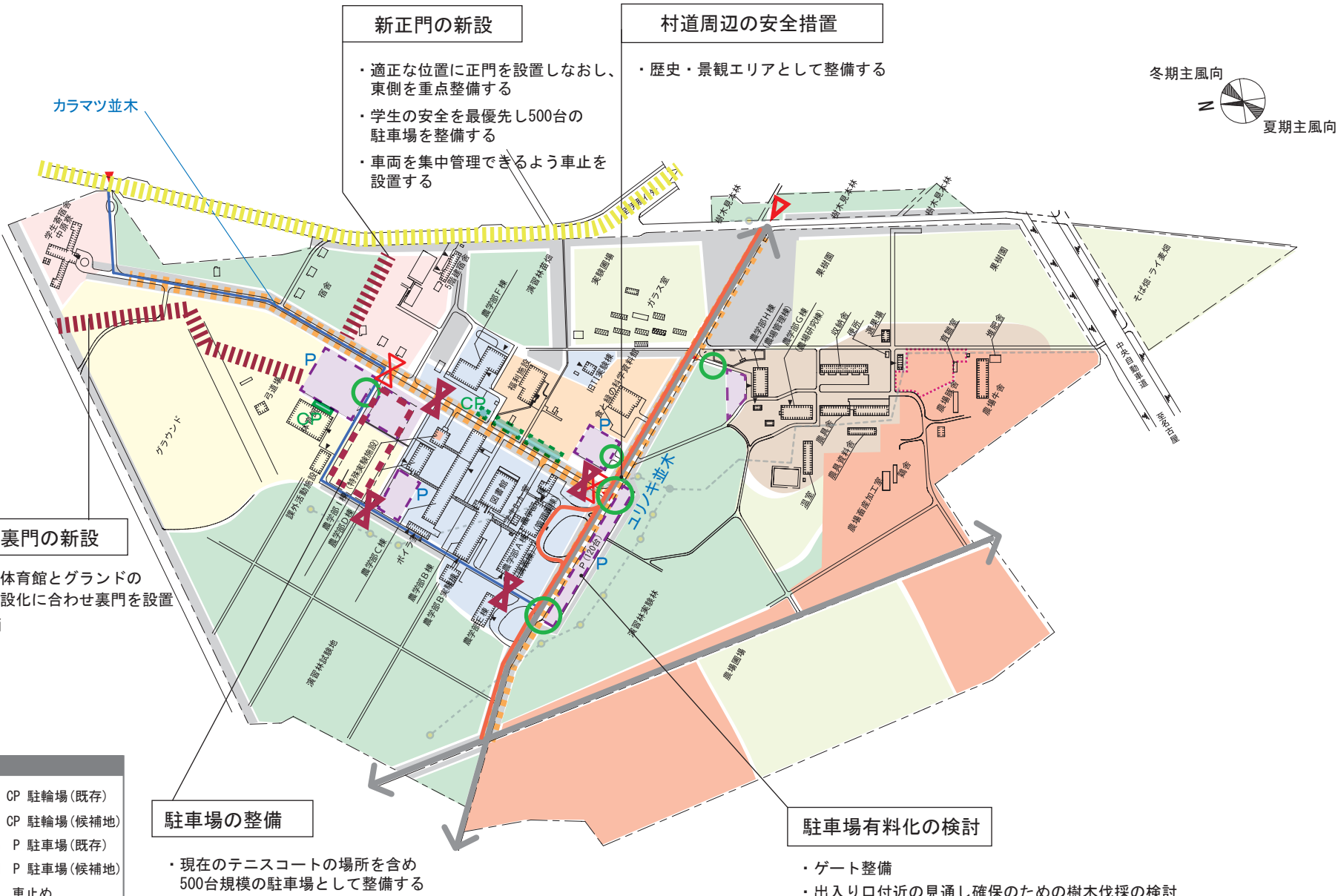
■方針

歩行者の安全性と快適性を確保するため、集約的に整備するとともに、カラマツ並木とキャンパス内西側道路に車止めを設ける。また、新正門を現在の宿舍付近に設け、周辺の広域計画との整合を図るとともに、体育館・グラウンドの防災施設としての機能を高めるため、北側道路とグラウンドをつなぐ新裏門・通路を設置する。

|     | 整備前   | 整備後    |
|-----|-------|--------|
| 駐車場 | 450 台 | 500 台  |
| 駐輪場 | 380 台 | 約400 台 |

| 計画ゾーニング凡例 |            |  |          |
|-----------|------------|--|----------|
|           | 教育・研究ゾーン   |  | 駐車場ゾーン   |
|           | 運動・課外活動ゾーン |  | 居住ゾーン    |
|           | 地域連携ゾーン    |  | 風致ゾーン    |
|           | 森林ゾーン      |  | 衛生管理区域   |
|           | 農園ゾーン      |  | 臨時外部開放区域 |
|           | 動植物ゾーン     |  | 景観形成軸    |

| 凡 例 |        |  |             |
|-----|--------|--|-------------|
|     | 構内車路   |  | OP 駐車場(既存)  |
|     | 歩道整備   |  | OP 駐車場(候補地) |
|     | 村道(公道) |  | P 駐車場(既存)   |
|     | ゲート整備  |  | P 駐車場(候補地)  |
|     | 計画道路   |  | 車止め         |
|     |        |  | 横井戸         |



| 事業項目        |                                                                          | 事業展開    |        |    |     |
|-------------|--------------------------------------------------------------------------|---------|--------|----|-----|
|             |                                                                          | 短期      | 6年     | 中期 | 12年 |
| 1. 歩行者優先の整備 | 歩行者の安全性と快適性を確保するため、村道にハンプや横断歩道など車速を落とす工夫を行う。また、木製ガードレールを整備する。            | ●協議 ●整備 |        |    |     |
| 2. 駐車場整備    | キャンパス内の駐車場はゲートを設置し原則的に有料とし、景観配慮のため同時に植栽の整備も行う。                           |         | ●ゲート整備 |    |     |
| 3. 駐輪場計画    | 現在の収容量を確保し、景観配慮しながら集中設置する。また、不正駐輪を予防するため利用者登録制とし有料シールの導入などを検討し、適正数を維持する。 | ●駐輪場整備  |        |    |     |
| 4. 動線計画     | 新正門新設にともない、歩行者、車両の動線計画を行う。                                               | ●動線計画   |        |    |     |

## 1 歩行者優先の整備

ー交通・動線の計画ディテールー

### ■方針

歩行者の安全確保のため、村道（ユリノキ並木）の30km/h制限を生かした車両減速措置、カラマツ並木の一部の歩行者優先道路整備を行う。

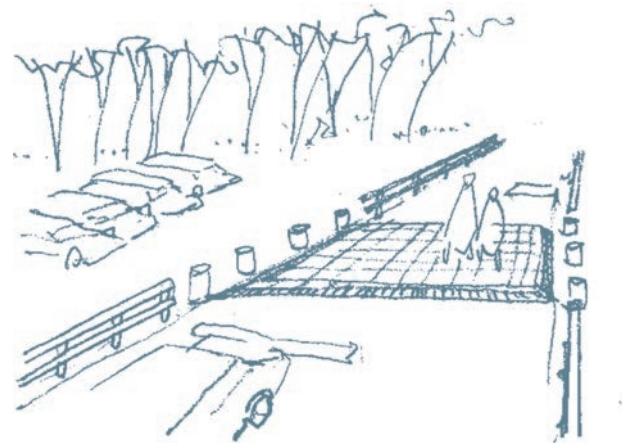
車はキャンパス内の既存の駐車場に駐車することを原則とし、有料化する。カラマツ並木は原則車両通行禁止とし、テニスコート西側へ迂回させ、緊急自動車及び身障者対応に限るものとする。

### ●車両減速措置及びガードレール整備

歩行者の安全性と快適性を確保するため、村道にハンプ設置やガードレールなどの整備、車速を落す工夫を行う。これは村役場と協議し検討が必要である。



村道沿いの駐車場



整備イメージ

### ●カラマツ並木の一部歩行者専用道路整備

カラマツ並木の一部は緊急車両等を除き車両通行禁止とする。



カラマツ並木

## 4 動線計画

ー交通・動線の計画ディテールー

### ■方針

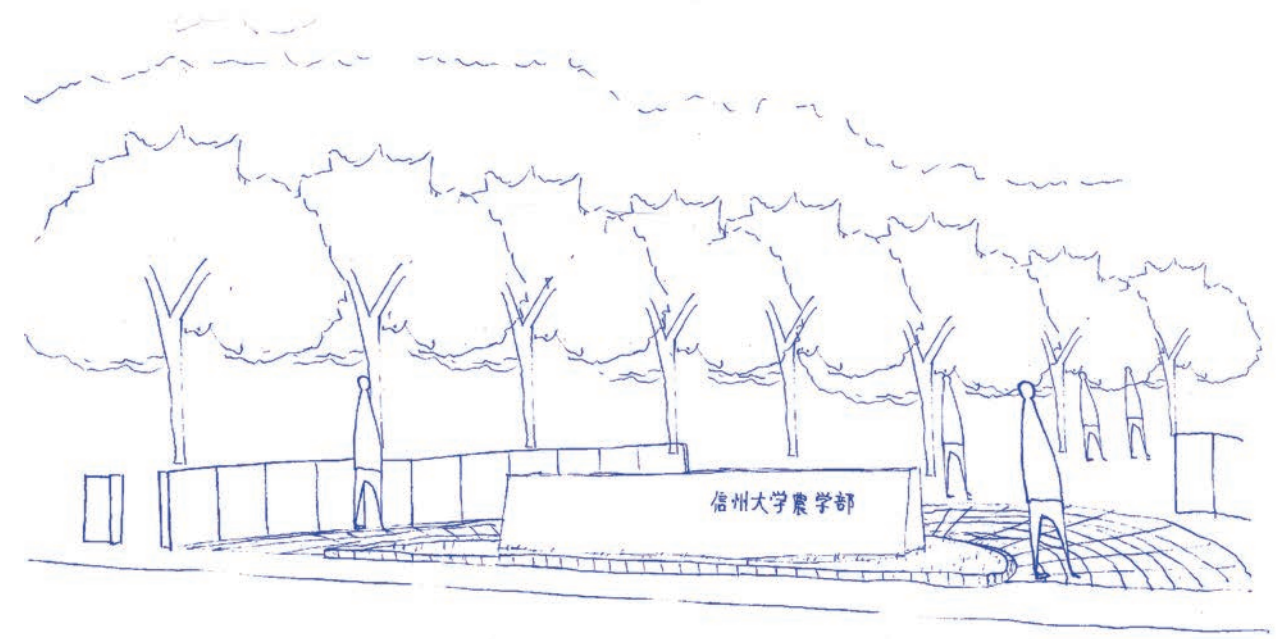
新正門を現在の宿舍付近に設け、周辺の広域計画との整合を図るとともに、体育館・グラウンドの防災施設としての機能を高めるため、北側道路とグラウンドをつなぐ新裏門・通路を設置する。

### ●新正門

周辺の広域計画に合わせて新正門を設置し、東側を重点整備する。



現状



整備イメージ



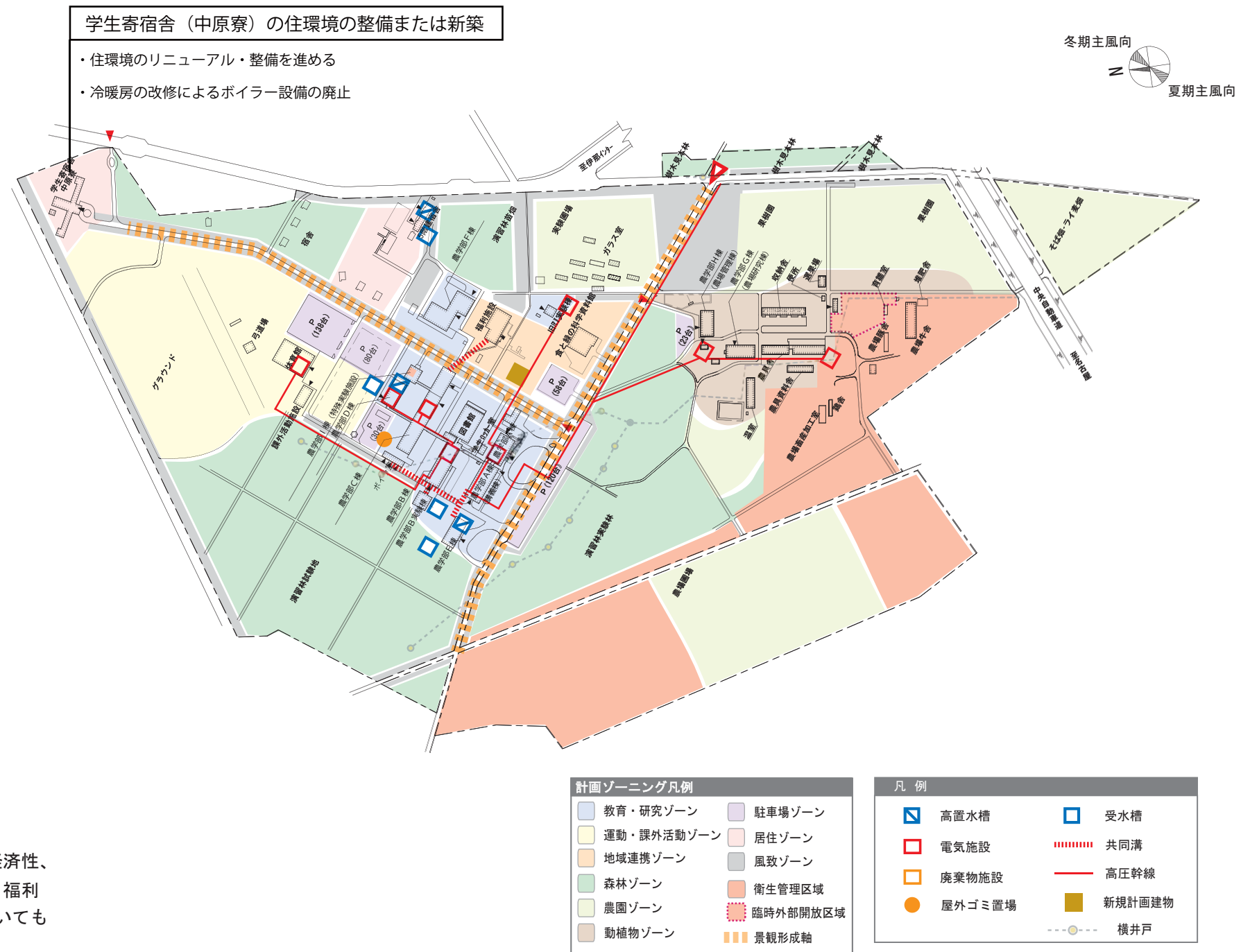
### 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

- [電気設備] 1回線高圧受電方式で、共同溝及び地中埋設管路を利用して各棟へ配電。又、農場等の地区は架空配電。
- [給水設備] 市水本管より供給を受け、直結給水方式、または高置水槽方式により各建物に給水。尚、一部の建物では、地下式水槽を利用。
- [排水設備] 雨水系・生活系・実験系の3系統分流式で地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道に流さる。尚、実験排水は最終調整槽にてPH濃度をモニタリングしている。
- [ガス設備] 都市ガスが未整備なため、液化石油ガスのバルクタンクで管理し各棟へ供給。
- [空調設備] 蒸気による暖房、GHP(ガスヒートポンプ)、EHP(電気ヒートポンプ)が混在している。蒸気はボイラ室より供給しているが各建物一括供給であるため、個別暖房ができずエネルギーロスが多い。このため、代替を進めボイラー及び蒸気暖房の撤廃を目指している。
- [廃棄物] 資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。それ以外の一般廃物及び実験系廃棄物は業者に委託して処理している。

#### ■方針

- 省エネルギー化  
設備機器（ボイラー）の耐用年数を鑑みGHP、EHPの比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。福利施設・管理講義棟・農学部D棟の改修によりボイラーの廃止を進める。ZEBについても検討していく。
- 地球環境への配慮  
CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、実現を目指す。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。
- 循環型社会への取り組み  
ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなどを検討し取り組んでいく。



| 項 目       | 事業展開                                                      |        |    |
|-----------|-----------------------------------------------------------|--------|----|
|           | 短期 6年                                                     | 中期 12年 | 長期 |
| 1. インフラ整備 | ●維持管理計画策定<br>●給排水・ガス配管の改修および更新<br>●空調熱源の検討<br>●直結給水方式への検討 |        |    |
| 2. 廃棄物処理  | ●野外ゴミ置き場の移設・整備<br>●その他廃棄物施設の整備                            |        |    |

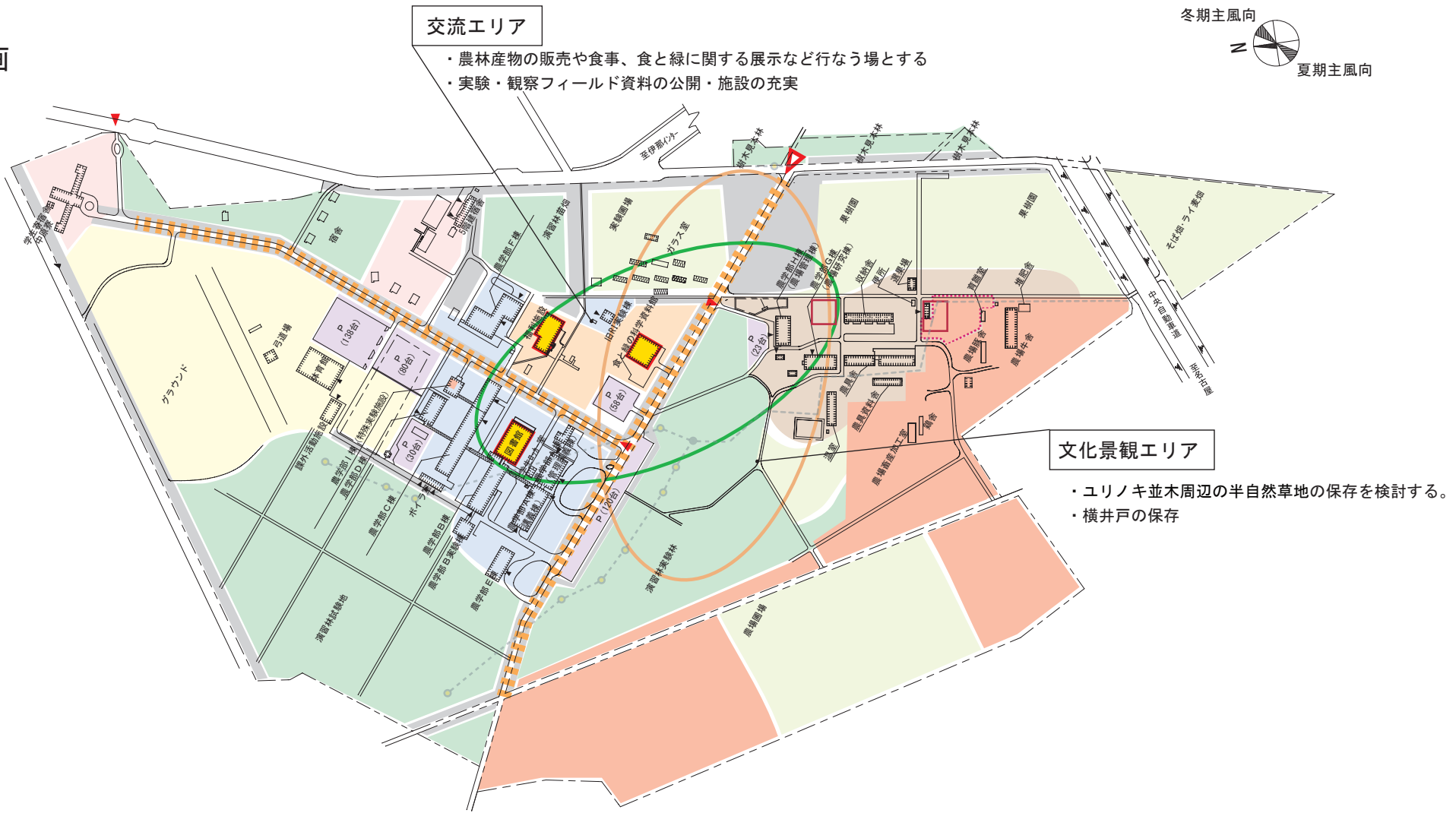
3-3-6 コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

■現状と課題

学生・教職員の交流の場としては福利施設が中心であり、食と緑の科学資料館は地域交流の場としても有効であるが、施設周辺の整備が不十分であり、文化景観エリアとの連携も望まれる。なお、資料館のソフト展開も課題として挙げられる。

■方針

文化景観エリアをキャンパスと地域の接点として、緑地整備およびベンチ、案内板などの整備を行うことにより、キャンパスの顔としてふさわしい景観を形成する。さらにこのエリアと食と緑の科学資料館を連携させることにより、様々な文化活動を展開できる充実した地域交流の場となるようにする。



2 施設の地域開放促進

-コミュニティの計画ディテール-

■方針

農学部施設、自然環境、研究成果など地域に積極的に開放し、その計画運営においては学生参加型の運営やNPO団体等と連携し充実したものにしていく。

●学生交流ゾーン・ゆとりエリア・エントランスゾーン

学生やNPO団体等の企画運営により、農学部ブランドの農産加工物を開発販売するなどの幅広い活動を支援する。

●既存施設（体育館・図書館・福利施設等）

民間企業との委託契約により、トータルの施設運営管理や柔軟なソフト展開を検討し、土日や祝日の運営等で利用者の利便性向上をはかる。



農産物の販売



図書館

| 計画ゾーニング凡例  |          | 凡 例      |  |
|------------|----------|----------|--|
| 教育・研究ゾーン   | 駐車場ゾーン   | 地域開放推進施設 |  |
| 運動・課外活動ゾーン | 居住ゾーン    | 横井戸      |  |
| 地域連携ゾーン    | 風致ゾーン    | 交流エリア    |  |
| 森林ゾーン      | 衛生管理区域   | 文化景観エリア  |  |
| 農園ゾーン      | 臨時外部開放区域 |          |  |
| 動植物ゾーン     | 景観形成軸    |          |  |

| 事業項目          |                                                                  | 事業展開   |        |    |
|---------------|------------------------------------------------------------------|--------|--------|----|
|               |                                                                  | 短期     | 中期     | 長期 |
| 1. 交流施設の計画・運営 | 各ゾーンにおいて学生参加型の運営やNPO団体等との連携を推進し学生や地域に積極的に開放するなど、施設・サービス等の充実をはかる。 | ●検討・実施 |        |    |
| 2. 施設の地域開放促進  | 図書館・福利施設など、施設の地域開放を促進する。                                         |        | ●検討・実施 |    |



3-4 附属施設の計画

■方針

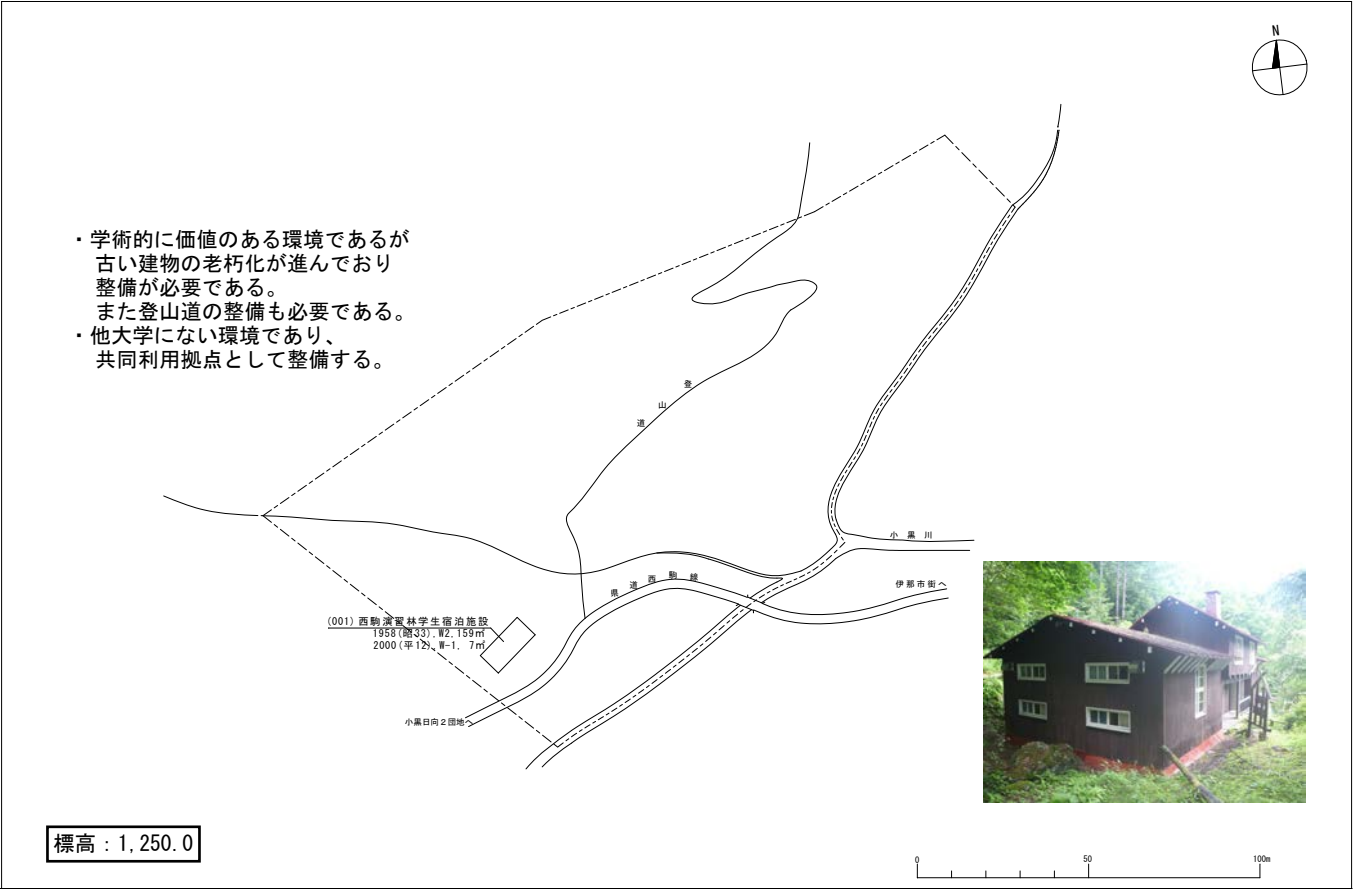
- ・施設や所在地の特性をふまえた整備、活用を進める
- ・土地の利活用を検討する

■用地リスト

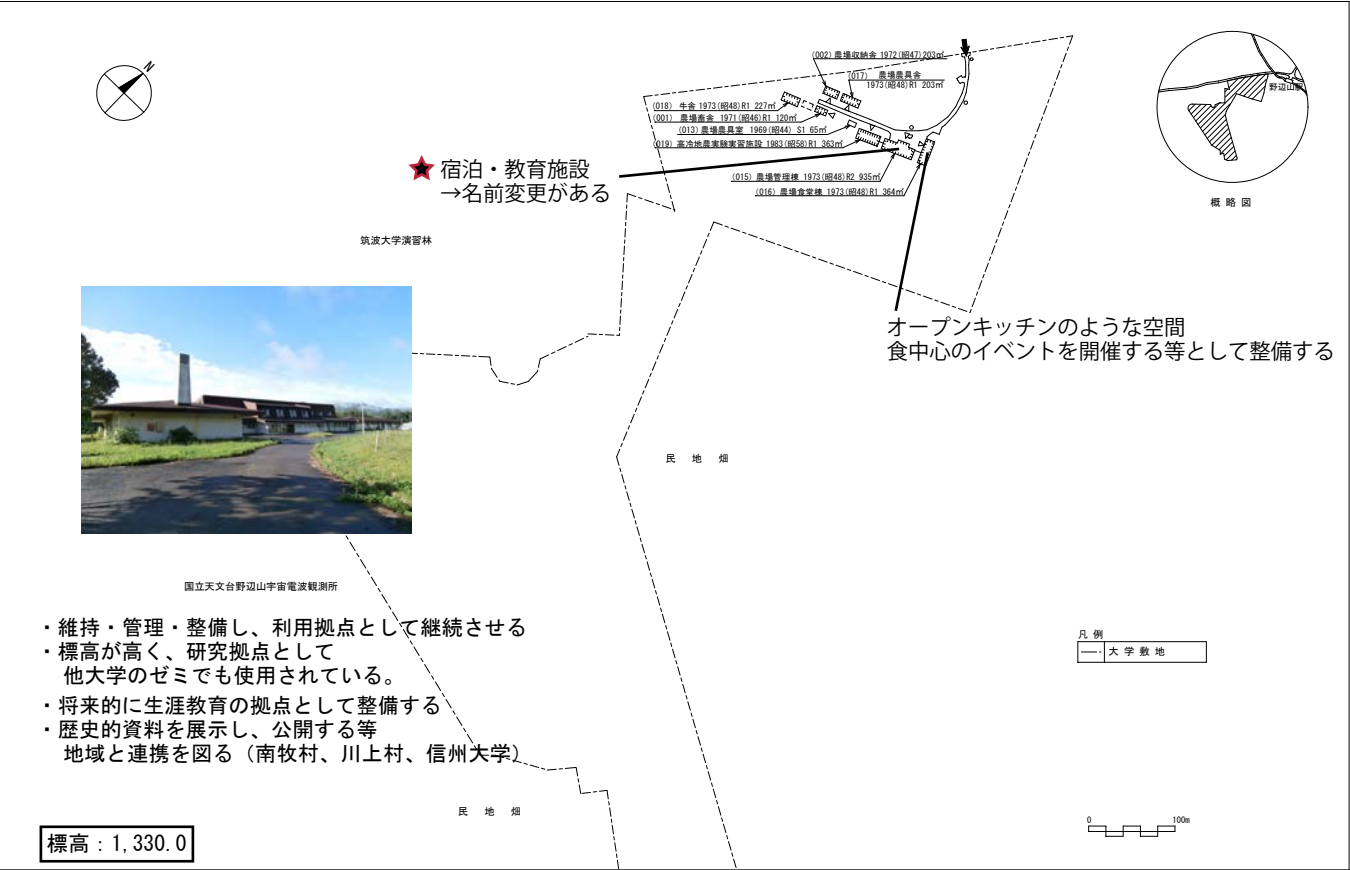
| 学部等名                              | 団地番号 | 団地名   | 所在地                        | 敷地面積（㎡）   | 建築面積（㎡） | 延べ面積（㎡） | 建ぺい率（％） | 容積率（％） |
|-----------------------------------|------|-------|----------------------------|-----------|---------|---------|---------|--------|
| 附属アルプス圏フィールド<br>西駒ステーション短期学生宿舎    | 029  | 小黒日向  | 伊那市大字伊那<br>字小黒日向           | 16,857    | 120     | 166     | 0.7     | 1.0    |
| 附属アルプス圏フィールド<br>手良沢ステーション短期学生宿舎   | 030  | 手良沢山  | 伊那市大字手良野口<br>字沢山 2202 番 12 | 2,288,356 | 629     | 745     | 0.03    | 0.03   |
| 農学部アルプス圏フィールド<br>科学教育研究センター短期学生宿舎 | 033  | 野辺山   | 南佐久郡南牧村大字<br>野辺山字ニツ山 462-1 | 287,847   | 2,105   | 2,480   | 0.7     | 0.9    |
| 農学部アルプス圏フィールド<br>科学教育研究センター       | 045  | 小黒日向2 | 伊那市伊那小黒日向                  |           |         |         |         |        |



030 附属アルプス圏フィールド手良沢ステーション短期学生宿舎



029 附属アルプス圏フィールド西駒ステーション短期学生宿舎



033 農学部アルプス圏フィールド科学教育研究センター短期学生宿舎







# 信州大学キャンパスマスタープラン Shinshu University Campus Master Plan 2018

## E. 上田キャンパス ～ 歴史の糸で最先端を紡ぐ 創造と継承の知 ～





キャンパスマスタープランについて

1－1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯 ..... 1

1－2. アクションプランの位置づけ ..... 1

1－3. 信州大学の理念との整合 ..... 2

1－4. PLAN “the N・E・X・T”、信州大学ビジョン2015／信州飛翔プランとの整合 ... 2

1－5. キャンパスの全体像 ..... 6

1－6. 各キャンパス共通事項 ..... 7

E. 上田キャンパス

2. 現状分析

2－1. 配置図・現状写真・問題点 ..... E－1

2－2. ディベロップメントプラン ..... E－1

3. 上田キャンパスマスタープラン

3－1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針 ..... E－2

3－2. 基本方針と戦略 ..... E－3

3－3. カテゴリー別計画

3－3－1. 全体骨格・フレームワーク ..... E－4

3－3－2. 施設配置・計画 ..... E－5

- (1)施設環境マネジメント (2)キャンパス資源の整備
- (3)デザインガイドライン (4)環境・サステイナビリティ

3－3－3. パブリックスペースの計画 ..... E－7

- (1)緑地・緑化整備 (2)ランドスケープ整備 (3)サイン・アート・照明計画

3－3－4. 交通・動線の計画 ..... E－9

- (1)駐車場整備 (2)車両通行路整備

3－3－5. 設備・インフラストラクチャーの計画 ..... E－11

- (1)インフラ整備

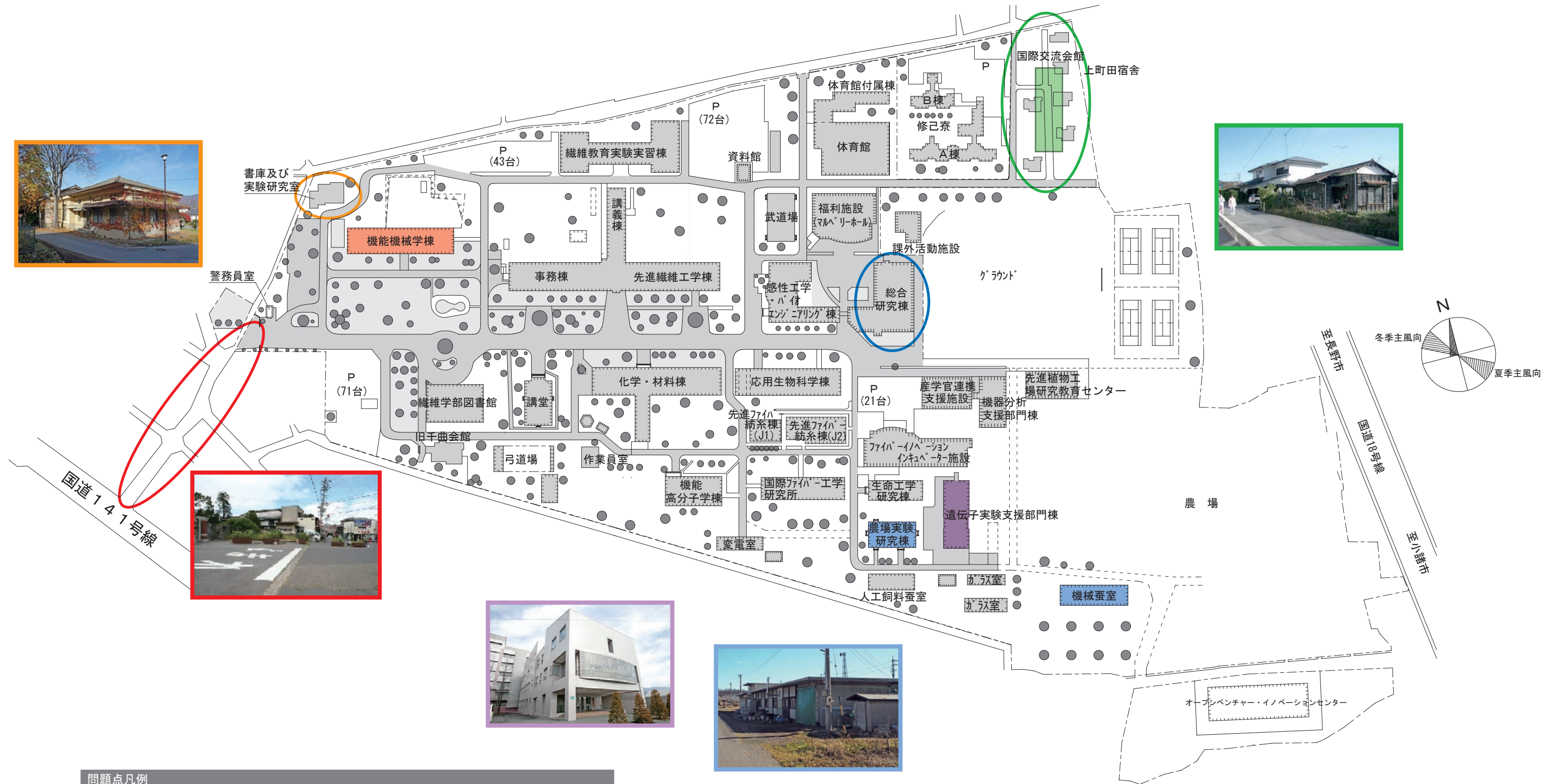
3－3－6. コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画 ..... E－12

- (1)施設の地域開放促進

3－4. 付属施設の計画 ..... E－14



## 2-1. 配置図・現状写真・問題点



## 問題点凡例

- 国道141号線からのアクセスが分かりにくく、正門の整備を含め検討が必要
- 書庫はデザイン及び歴史的に興味を引く建物であり、存廃及び改修の検討が必要
- 最先端繊維の資料展示の拡充を検討する
- 職員宿舎は廃止し、国際交流会館建設を検討する

## 2-2. ディベロップメントプラン（改修及び建替が必要な建物一覧）

## ディベロップメントプラン

- 機能機械学科棟改修
- 遺伝子実験支援部門棟改修
- 農場実験研究棟改修・機械蚕室建替

### 3-1. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学上田キャンパスは、大学の理念及び繊維学部理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、前章で検討した現状分析及びその課題、ユーザーの要望を加味し、先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を全体骨格、施設配置・計画、パブリックスペース、交通・動線、環境・インフラ、コミュニティという6つのカテゴリーに分類整理し、全体骨格を除く5つのカテゴリーについては、項目ごとに短・中・長期整備スケジュールを立案する。

#### ■繊維学部理念・目標

##### （理念）

豊かな自然に抱かれた本学部・大学院は、衣・食・住の要である“繊維”に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的先端科学技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓する。さらに、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ技術者、高度専門職業人、研究者を養成する。そして、地球環境と共生し、人類社会の発展と平和、福祉の向上に資することを理念とする。

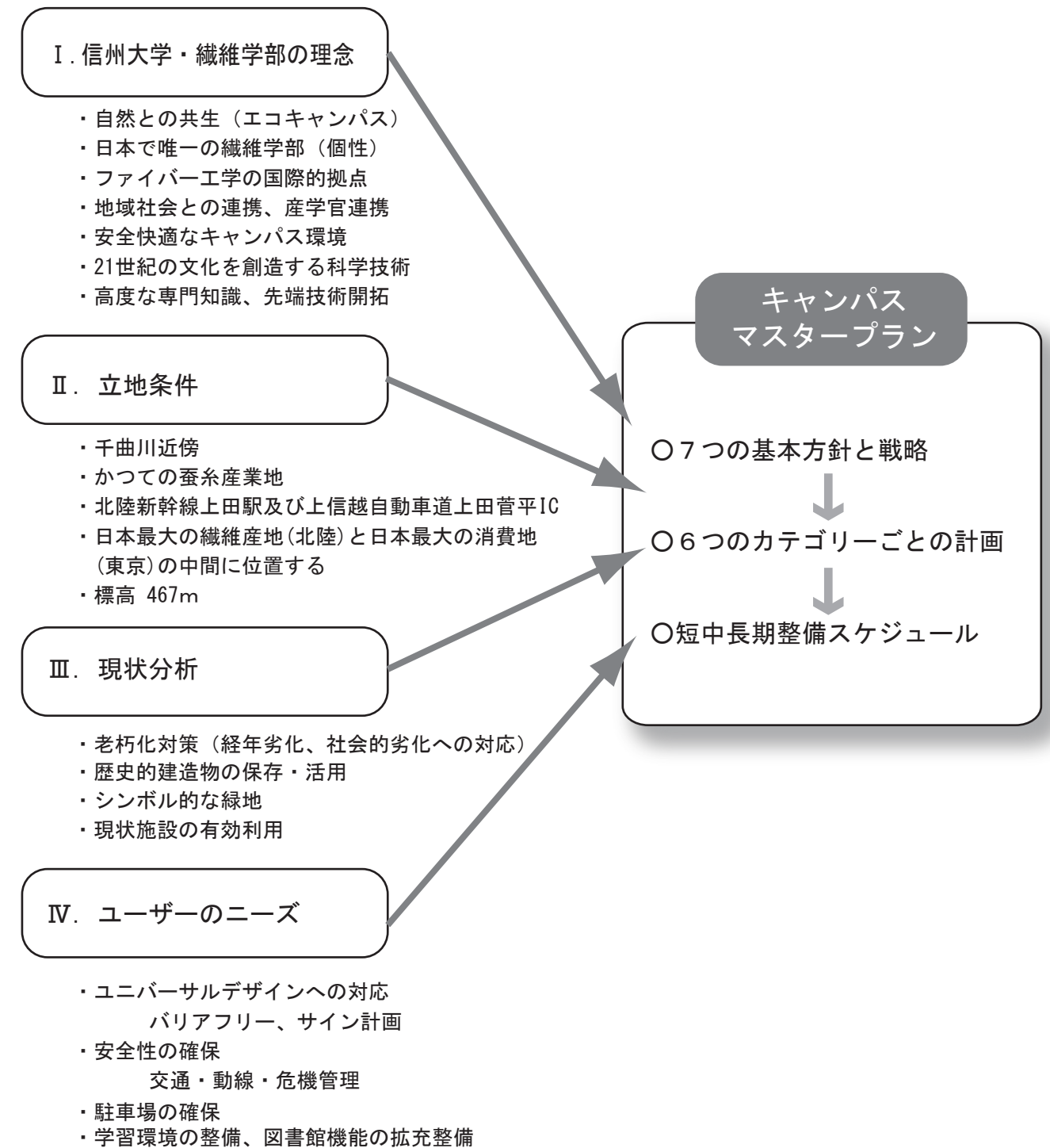
##### （目標）

##### ◎教育の目標

優れた人格の形成、進展する科学技術と社会の変化に対応しうる能力・未来創造能力、基礎学力に裏付けされた専門性、国際性、情報処理能力を涵養し、技術者、将来の研究者として十分な基礎的素養を身につけ、総合的視野と高い能力を備えた人材を養成する。

##### ◎研究の目標

- ・国際的・学際的工学系新領域の開拓
- ・新ライフスタイルを生み出す文化創造科学技術の創成
- ・フロンティア繊維総合技術科学の国際的中核研究拠点（COE）の形成
- ・産官学連携協力による新産業の創出
- ・地域産業の振興への貢献





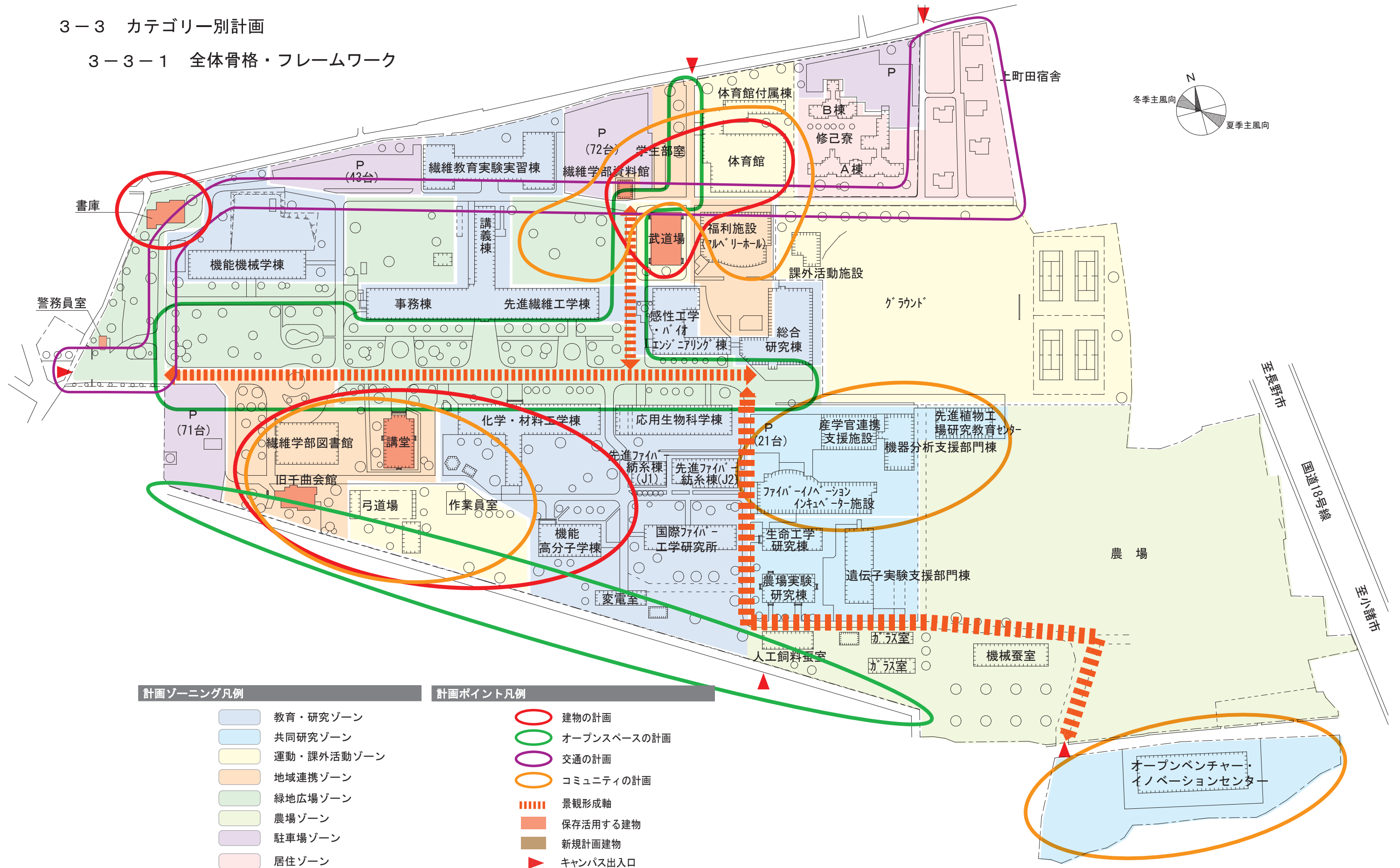
3-2. 基本方針と戦略 ～歴史の糸で最先端を紡ぐ 創造と継承の知～

キャンパス整備の基本方針とその戦略を下表にまとめる。

| 基本方針 |                      | 戦略                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | カテゴリー                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------|----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1    | キャンパス<br>アイデンティティー   | <p>【最先端技術を生かす】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・先進繊維・感性工学科、機械・ロボット学科、化学・材料学科、応用生物科学科、全国に1つしかない学部</li></ul> <p>【歴史を生かす】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・養蚕業の地域的歴史</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>・施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li><li>・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</li><li>・パブリックスペース(3)サイン・アート</li><li>・コミュニティ(1)施設の地域開放促進</li></ul>                                                                            |
| 2    | アメニティを高める<br>現状資産の活用 | <p>【心地よいキャンパス「空間秩序の明確化」】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中央の目抜き通りと環状道路</li><li>・アクセスのしやすさ</li></ul> <p>【ニーズに対応した施設利用】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生、職員の交流スペース</li><li>・教育研究環境の充実</li><li>・駐車場、駐輪場動線の見直し及び整備</li></ul> <p>【老朽化対策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・建物の安全性の確保</li></ul> <p>【歴史資産の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・現代ニーズに合わせた利用</li><li>・既存遊休施設の再生利用</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・施設配置・計画(1)施設環境マネジメント</li><li>・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>・パブリックスペース(1)緑地・緑化整備</li><li>・パブリックスペース(2)ランドスケープ整備</li><li>・交通・動線(1)駐車場有料化</li><li>・交通・動線(2)車両交通路整備</li><li>・設備・インフラ(1)インフラ整備</li><li>・コミュニティ(1)施設の地域開放促進</li></ul> |
| 3    | 地域社会との連携             | <p>【「知財・人財・資財」の共有、発展】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・産学官連携支援施設</li><li>・知的クラスター、企業との共同研究</li></ul> <p>【地域住民との共生】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・パブリックスペースの地域開放</li></ul>                                                                                                                                                                                                                               | <ul style="list-style-type: none"><li>・施設配置・計画(2)キャンパス資源の整備</li><li>・パブリックスペース(1)緑地・緑化整備</li><li>・交通・動線(2)車両交通路整備</li><li>・コミュニティ(1)施設の地域開放促進</li></ul>                                                                                                                |
| 4    | 参加型キャンパス             | <p>【キャンパスづくりへの学生・教職員の参加】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学生、教職員が参加した点検評価</li><li>・参画意識向上</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"><li>・施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li><li>・パブリックスペース(3)サイン・アート計画</li></ul>                                                                                                                                                                   |
| 5    | サステナビリティ             | <p>【地域の風土の反映】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・地場産材の使用や地域産業との連携</li></ul> <p>【エコキャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・省エネ、CO2削減、エネルギー使用の合理化</li></ul> <p>【循環型社会への取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・3Rの推進(リサイクル、リユース、リデュース)<br/>再資源化 再利用 削減</li></ul>                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"><li>・施設配置・計画(1)施設環境マネジメント</li><li>・施設配置・計画(4)環境・サステナビリティ</li><li>・設備・インフラ(1)インフラ整備</li></ul>                                                                                                                                         |
| 6    | ユニバーサルデザイン           | <p>【バリアフリー、ボーダーレスなキャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・誰もが使いやすい</li></ul> <p>【わかりやすいキャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・迷わない案内</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                            | <ul style="list-style-type: none"><li>・施設配置・計画(3)デザインガイドライン</li><li>・パブリックスペース(3)サイン・アート計画</li><li>・パブリックスペース(4)ユニバーサルデザイン</li></ul>                                                                                                                                   |
| 7    | 安全・安心なキャンパス          | <p>【安全な歩行空間】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人と車と自転車の動線の分離</li></ul> <p>【防犯、危機管理】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・夜間の安全性</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"><li>・パブリックスペース(3)サイン・アート計画</li><li>・交通・動線(2)車両交通路整備</li><li>・設備・インフラ(1)インフラ整備</li></ul>                                                                                                                                              |

### 3-3 カテゴリー別計画

#### 3-3-1 全体骨格・フレームワーク





3-3-2 施設配置・計画

■現状と課題

登録有形文化財の講堂をはじめ歴史的建物が現存し、上田キャンパスの顔ともなっている。一方で、内外装の老朽化が進み、現状の施設を最大限に活かしつつ、構造的な安全性の確保とニーズに対応した空間の整備が必要である。また国際研究者や短期交換留学生も年々増加傾向にあり、国際交流機能の充実が求められる。

■方針

景観形成軸沿いを中心に、養蚕の歴史・技術の展示と体験から成るキャンパスミュージアム構想を検討する。歴史的建物はその情緒を生かし保存リニューアルし、地域に開放したり学内交流の拠点ともなるよう整備する。また、学生が安全かつ快適にキャンパスライフを送れるよう、既存建物の老朽化対策をし、ニーズに対応したリニューアルを行う。景観形成軸に面するファサードは景観に配慮したデザインとする。内外装は地元の材料等の使用を積極的に検討する。さらに、誰もが使いやすいユニバーサルデザインのガイドラインを作成し、順次整備する。

計画ゾーニング凡例

|            |         |
|------------|---------|
| 教育・研究ゾーン   | 緑地広場ゾーン |
| 共同研究ゾーン    | 農場ゾーン   |
| 運動・課外活動ゾーン | 居住ゾーン   |
| 地域連携ゾーン    | 景観形成軸   |
| 駐車場ゾーン     |         |

凡 例

|               |
|---------------|
| 内外装リニューアル     |
| 解体・移転         |
| 保存活用する歴史的建物   |
| 新規計画建物        |
| ファサードデザイン重要箇所 |
| ユニバーサルデザイン改修  |



| 事業項目           |                                                                                     | 事業展開                           |                    |    |             |    |  |  |  |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|--------------------|----|-------------|----|--|--|--|
|                |                                                                                     | 短期                             |                    | 中期 |             | 長期 |  |  |  |
| 1. 施設環境マネジメント  | 空調・衛生設備・セキュリティなど建物の機能向上を図る。                                                         |                                |                    |    |             |    |  |  |  |
| 2. キャンパス資源の整備  | 旧千曲会館など歴史的建築物はその情緒を生かし保存リニューアルし、記念館・展示場・ホールの機能を持った創造館の新設を検討する。また、既存建物の安全性、快適性を確保する。 | ●施設利用方針検討<br>●施設設計<br>●農場実験研究棟 | ●機能機械学棟<br>●国際交流会館 |    | ●遺伝子実験支援部門棟 |    |  |  |  |
| 3. デザインガイドライン  | 誰もが使いやすいデザインのガイドラインをつくり、施設・空間設計に反映させる。                                              | ●デザインガイド作成                     |                    |    |             |    |  |  |  |
| 4. 環境・サステナビリティ | 県産材(信州唐松・土・わらすさ・和紙など)を使用することを通じ、地域産業への関心を高める。                                       |                                | ●施設計画に合わせて使用検討     |    |             |    |  |  |  |

## 2 キャンパス資源の整備

## ー施設配置・計画ディテールー

## ■方針

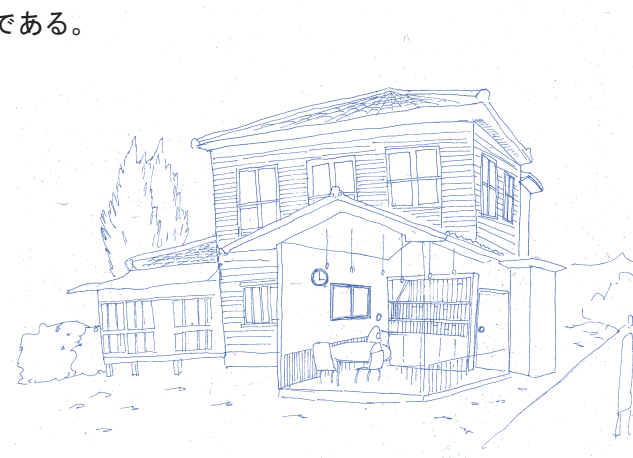
豊かなキャンパスライフを送れるようニーズにあった福利施設、地域の人も利用できる交流施設など、既存のストックを活用しながらアメニティの高い空間価値を付加していく。

## ●交流会館「旧千曲会館」

歴史的建物として保存・リニューアルし学生、教職員及びOB・OGのための交流施設として再生中である。



現 状



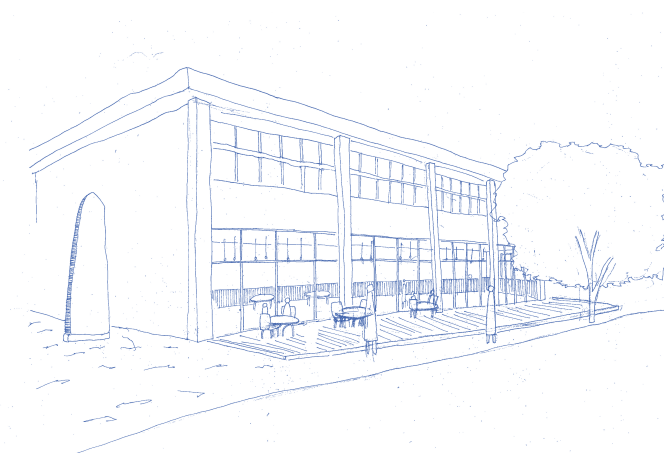
整備イメージ

## ●農場実験研究棟の改修

養蚕技術の継承の場として整備する。景観形成軸沿いに位置するため、周囲との連携を踏まえたファサードデザインとする。



現 状



整備イメージ

## ●書庫

エントランスから近いという立地を生かし、資料保管・展示施設として整備する。



現 状



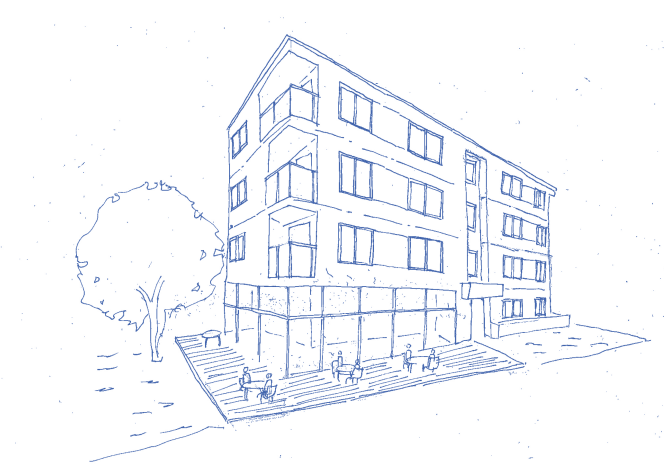
整備イメージ

## ●国際交流会館

1階部分に交流スペースを設けて、共住による国内外の学生間の交流を図る。



現 状



整備イメージ



-7

## 1 緑地・緑化整備

### ーパブリックスペースの計画ディテールー

#### ■方針

つむぎの道の整備や夜間の照明演出等の工夫をし、広く地域の人も利用できる緑豊かな広場を整備する。

#### ●全体計画

つむぎの道を中心に、各所に人々が滞留できる広場を整備する。  
キャンパスの情緒ある景観を損なわないよう植栽や自然素材を使うなどの配慮をする。

#### ●緑地



現 状

正門からキャンパスに入ると、多くの樹木が立ち並んでいるのがわかる。特に、ヒマラヤ杉が立ち並んでいる様子はここにしかない景観である。また、この中央の通りは車が通らないので、安心して緑を楽しむことができる。

#### ●絹の道

植栽やベンチを設置し、放置自転車を抑制する。資料館の建物とあわせて、道というよりも広場のなかに建物が位置しているような景観整備を行う。



現 状



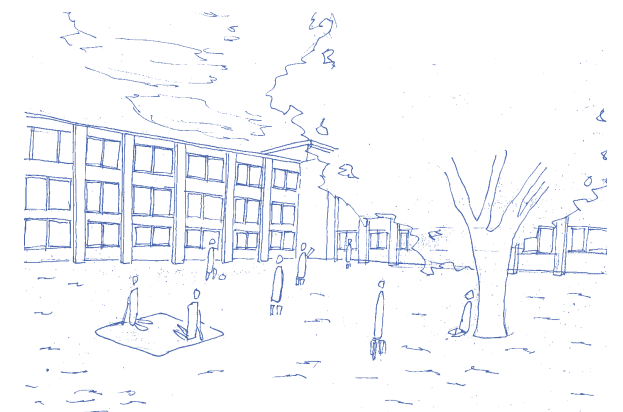
整備イメージ

#### ●緑地の整備

絹の道と連携して整備を行う。広場のような空間を目指す。



現 状



整備イメージ



3-3-4 交通・動線の計画

■現状と課題

現在、車両が景観形成軸を横断し、歩行者の快適性及び安全面の弊害となっている。また、キャンパス内の放置自転車は景観悪化の原因となっている。

■方針

歩行者の安全性と快適性を確保するため、正門から資料館手前までの北ルート沿いの駐車場に加え、ファイバーインキュベーター施設まで通る南ルート沿いに新たに駐車場を確保することで中心軸のつむぎの道から完全に自動車を排除する。駐車場及び駐輪場は、全体計画と必要台数を照らし合わせて再検討を行い、景観に配慮したものとする。

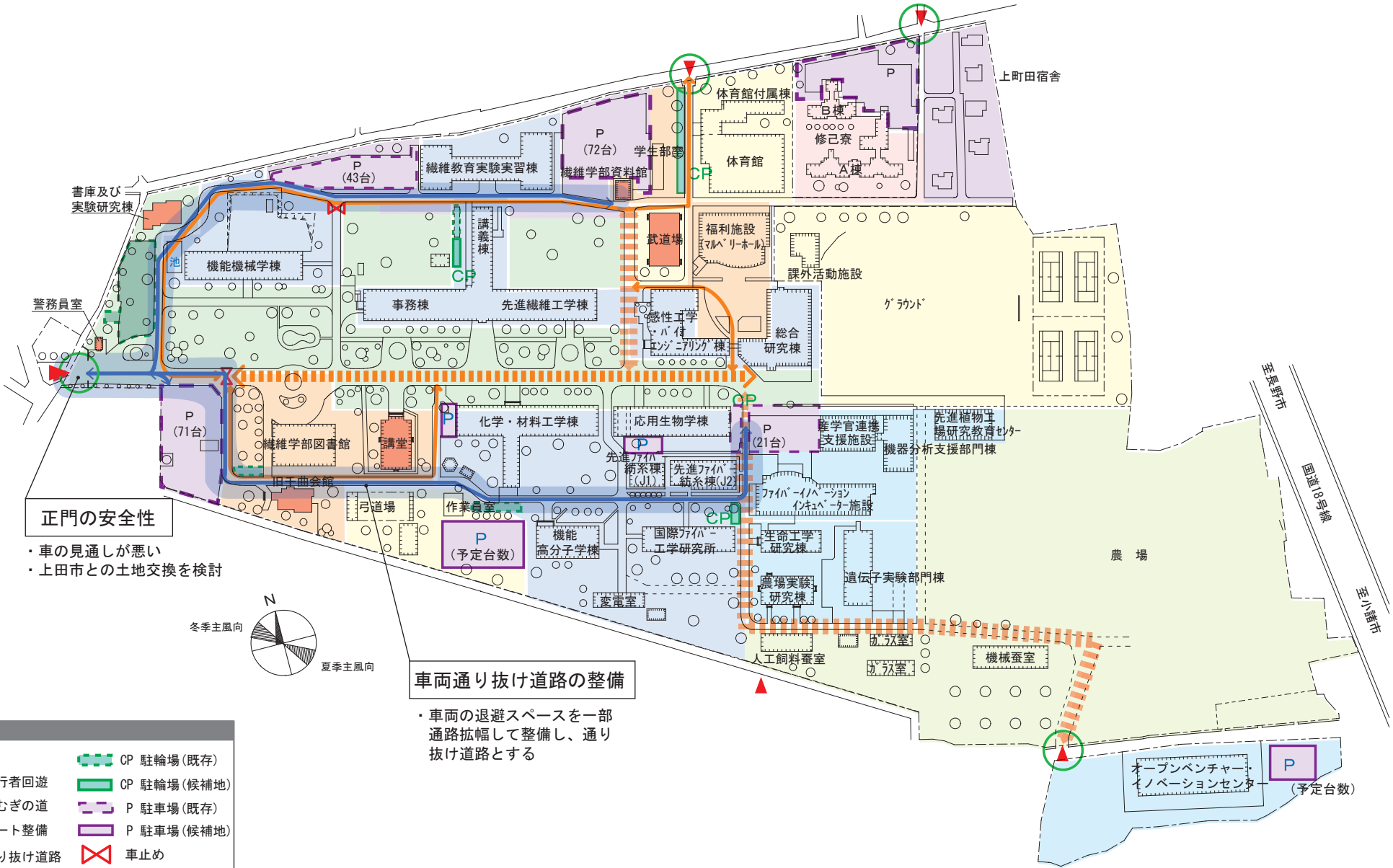
|     | 整備前   | 整備後   |
|-----|-------|-------|
| 駐車場 | 279 台 | 309 台 |
| 駐輪場 | 483 台 | 483 台 |

計画ゾーニング凡例

|            |             |
|------------|-------------|
| 教育・研究ゾーン   | 緑地広場ゾーン     |
| 共同研究ゾーン    | 農場ゾーン       |
| 運動・課外活動ゾーン | 居住ゾーン       |
| 地域連携ゾーン    | 景観形成軸       |
| 駐車場ゾーン     | 保存活用する歴史的建物 |

凡 例

|        |             |
|--------|-------------|
| 車      | CP 駐輪場(既存)  |
| 歩行者回遊  | CP 駐輪場(候補地) |
| つむぎの道  | P 駐車場(既存)   |
| ゲート整備  | P 駐車場(候補地)  |
| 通り抜け道路 | 車止め         |



| 事業項目       |                                                      | 事業展開                                                                    |  |  |      |  |  |
|------------|------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--|--|------|--|--|
|            |                                                      | 短期6                                                                     |  |  | 中期12 |  |  |
| 1. 駐車場整備   | キャンパス内の駐車場は原則的に有料とし、景観配慮のため同時に植栽の整備も行う。              | <div><div></div><div>●駐車場整備</div></div>                                 |  |  |      |  |  |
| 2. 車両通行路整備 | 正門から上町田宿舍横を通り抜ける動線として整備し、ゲート整備、上町田宿舍地区の駐車場整備もあわせて行う。 | <div><div></div><div>●設計</div><div>●整備</div><div>車両通り抜け道路整備</div></div> |  |  |      |  |  |

## 1 駐車場整備

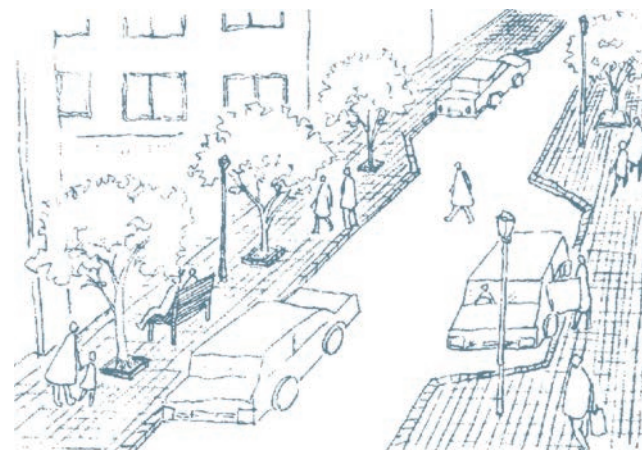
## ー交通・動線の計画ディテールー

## ■方針

自動車はキャンパスのエントランス部分と通り抜け道路沿線にある駐車場に駐車することを原則とし、キャンパス中心軸への乗り入れは、緊急車両及び身障者対応時に限るものとする。

## ●構内道路整備

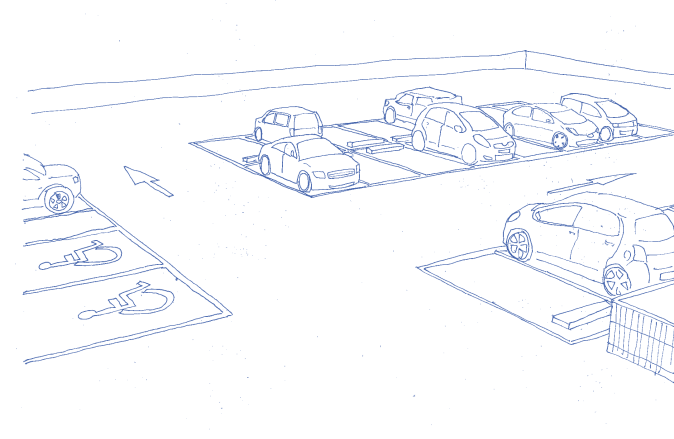
車両の退避スペースを一部通路拡幅して整備し、通り抜け道路とする。



整備イメージ

## ●駐車場の整備

駐車場は、作業員室の南側に整備する。



整備イメージ



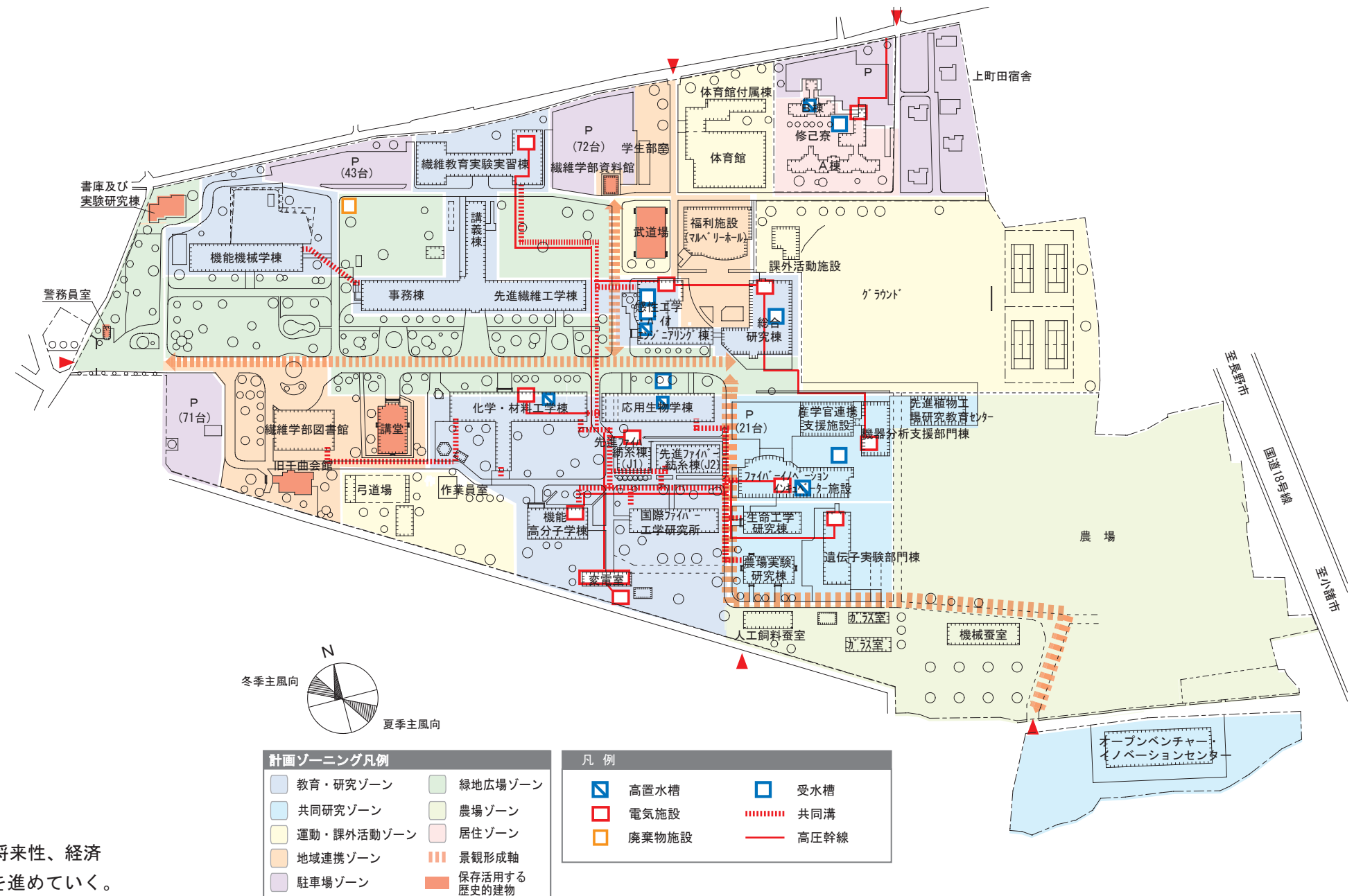
### 3-3-5 設備・インフラストラクチャーの計画

#### ■現状と課題

- 〔電気設備〕 1回線高压受電方式で、共同溝及び地中埋設管路を利用して各棟へ配電。
- 〔給水設備〕 市水本管より供給を受け、低層建物は直結給水方式、高層建物は高置水槽方式により各建物に給水。尚、一部の建物では、雨水を中水として利用。
- 〔排水設備〕 雨水系・生活系・実験系の3系統分流式。雨水系は、地下浸透及び公共側溝へ放流。生活系・実験系は公共下水道へ放流。尚、実験排水は建物単位でPH濃度をモニタリングしている。
- 〔ガス設備〕 都市ガス(13A)を1箇所より引き込み、土中埋設配管にて各建物に供給。
- 〔空調設備〕 新営建物及び改修整備済建物についてはガスヒートポンプによる個別空調が主体となっている。それ以外はFFガス暖房機となっており、交換が必要である。
- 〔廃棄物〕 資源の有効活用のため分別の徹底により、リサイクル化を推進。それ以外の一般廃棄物及び実験系廃棄物は業者に委託して処分している。

#### ■方針

- 省エネルギー化  
GHP（ガスヒートポンプ）、EHP（電気ヒートポンプ）の比較検討の上で将来性、経済性、快適性、維持更新のしやすさなどの観点から維持管理計画の策定を進めていく。また、可能な限り空調・電気・衛生設備等について省エネ型、トップランナー型機器の導入、廊下・トイレ等の公共部におけるLED照明と人感センサー化のさらなる推進、建物の断熱化等、省エネルギーにつながる取り組みを促進する。ZEBについても検討していく。
- 地球環境への配慮  
CO2の排出を削減するためその目標値を設定し、到達するまでのロードマップを作成する。省エネだけでなく低公害の太陽エネルギーなどの創エネ導入（新エネルギーの供給）も組み合わせて目標達成に努める。
- 循環型社会への取り組み  
ゴミの分別収集の徹底による再資源化、汚濁物（水、空気、物質）処理におけるエネルギー利用化を図るなど研究し取り組んでいく。
- 衛生管理上の問題から、受水槽や高置水槽の回転率が適正になるように、系統、給水計画を検討する。
- 耐用年数や劣化度から電気の安全な利用のため、電気設備の計画的な更新を図る。



| 項 目       | 事業展開                           |     |     |
|-----------|--------------------------------|-----|-----|
|           | 短 期                            | 中 期 | 長 期 |
| 1. インフラ整備 | ●維持管理計画策定<br>●給排水・ガス配管の改修および更新 |     |     |

### 3-3-6 コミュニティ（地域・学生・教職員の交流）の計画

#### ■現状と課題

上田キャンパスは歴史的建物や手入れの行き届いた樹木などを有する気持ちの良いキャンパスであり、散策する市民も見受けられる。また、産学官連携施設もあり外来者も多い。講堂や図書館がある静かなゾーン、体育館や福利施設といった人の動きのあるゾーン、産学官連携施設があるビジネスゾーンの3つのコミュニティゾーンが存在し、それらがキャンパス内に点在している。

#### ■方針

1. 従来、上田キャンパスは正門やゲートを通り、各建物にアクセスする閉じた空間であり、地域とは塀などが隔てており、「地域に開かれた身近なキャンパス」になるための障害となっていた。2017年度のまちなかキャンパス開設や、オープンベンチャーイノベーションセンター（OVIC）の建設により、キャンパスの外とのつながりが見られるようになった。今後は、このまちなかキャンパスやOVICが緩衝材となり、上田キャンパス全体が地域との交流の場となることを目指す。
2. 図書館機能の拡充を図り、キャンパスに分散保管している蔵書の集約、学習室（閲覧室）の拡大再整備を行う。

| 事業項目         | 事業展開                              |    |    |
|--------------|-----------------------------------|----|----|
|              | 短期                                | 中期 | 長期 |
| 1. 施設の地域開放促進 | 図書館・福利施設など、施設の地域開放を促進する<br>●検討・実施 |    |    |

|   |           |                  |
|---|-----------|------------------|
| 1 | 施設の地域開放促進 | ーコミュニティの計画ディテールー |
|---|-----------|------------------|

#### ■方針

既存の講堂や図書館などを積極的に地域住民へ開放する。

##### ●資料館

繊維の歴史や最先端技術を紹介する。

##### ●既存施設（講堂、体育館、図書館）

トータルの施設運営管理や柔軟なソフト展開も検討する。

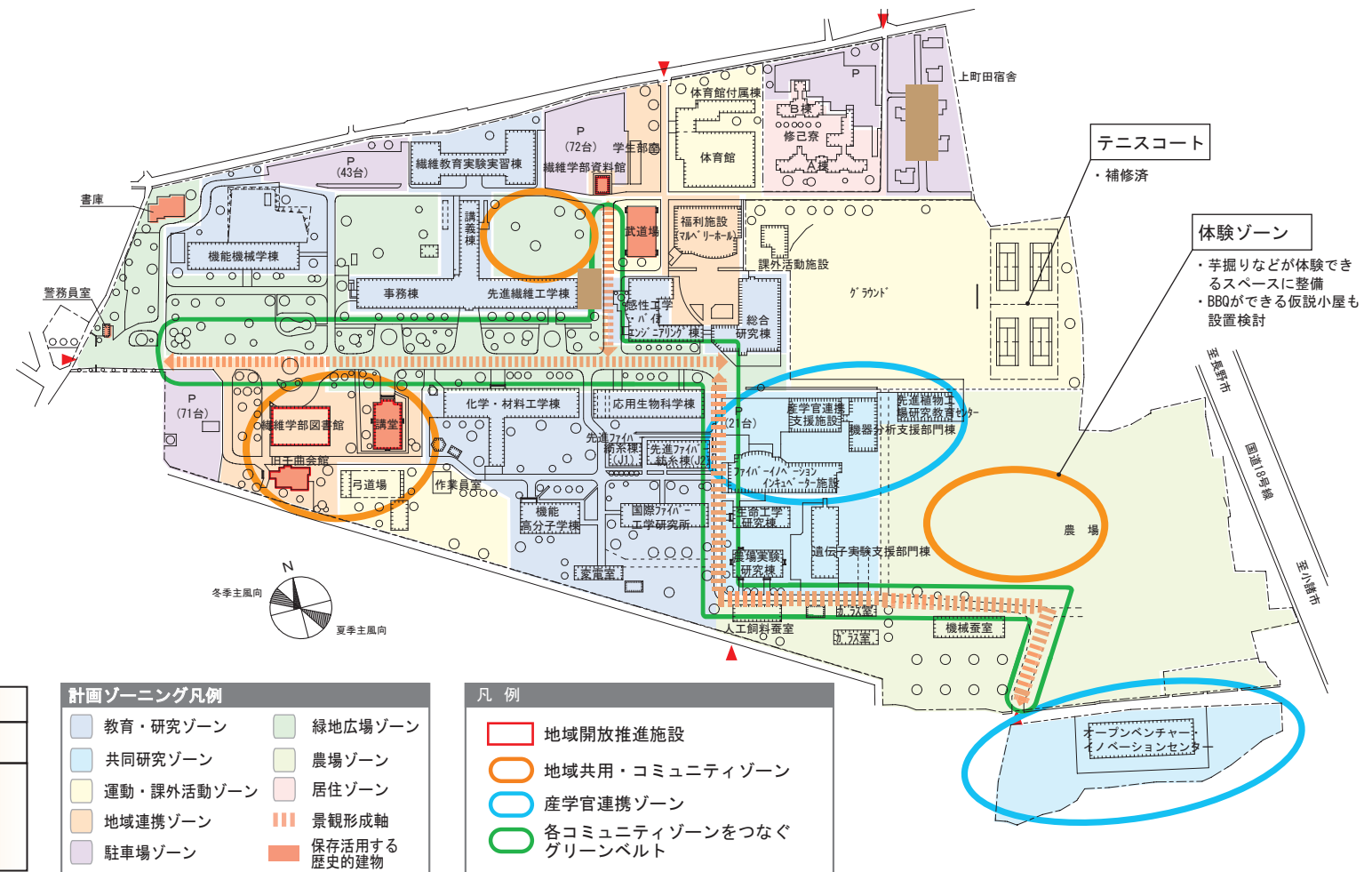
##### ●旧千曲会館

交流会館として利用する。

|   |        |                  |
|---|--------|------------------|
| 2 | 産学官の連携 | ーコミュニティの計画ディテールー |
|---|--------|------------------|

#### ■方針

大学における基本的使命である「教育」と「研究」に加え、第三の使命である「社会貢献」に関し、本学の教育、研究の付加価値を高め、信州大学における知の成果を積極的に社会へ還元する。現在様々な活動を諸機関と連携し行っているが、それらをさらに発展させる。



##### ●国際ファイバー工学教育研究センター（Fiber-IREC）

次世代ファイバー工学研究の展開、ファイバー工学分野におけるグローバル人材の育成、国内外の大学・研究機関との連携、産学官連携のための研究シーズの創出を行う国際的教育研究拠点（COE）である。

##### ●ファイバーイノベーション・インキュベーター（Fii）

オープン・イノベーション創出の基盤となる技術開発を企業・大学等が協働して推進し、実用レベルの製品試作から分析・評価までの一連の研究開発が可能なパイロットラインやレンタルラボを備えた施設である。

##### ●先進植物工場研究教育センター（SU-PLAF）

太陽光利用完全制御型コンテナ植物工場の開発、高付加価値野菜栽培システムの開発、植物工場に関わる人材育成を行うために、共用施設・機器機器やレンタルラボを備えた植物工場研究開発拠点である。

##### ●オープンベンチャー・イノベーションセンター（OVIC）

信州大学の材料科学の知見やノウハウ及び実証評価体制と、地域産業界が有する屈指の超精密技術という地域の強力なシーズを融合し、先進的かつ持続可能な新事業を創出するベンチャーエコシステムの確立を目的として、長野県との共同申請により設立された大規模産学官連携施設である。

##### ●上田市産学官連携支援施設（浅間リサーチエクステンションセンター、AREC）

地域の企業（産）、信州大学等（学）、行政（官）が連携して新技術等の共同研究開発を促進し、産学連携、産産連携を活性化させて地域産業を振興することを目的として上田市が設置した施設である。

##### ●株式会社 信州TLO

信州大学及び長野工業高等専門学校にある特許権等の知的財産を企業へ技術移転することを支援する目的で設立され、産学官連携による技術移転の架け橋として新たな共同体制の構築を行っている組織である。

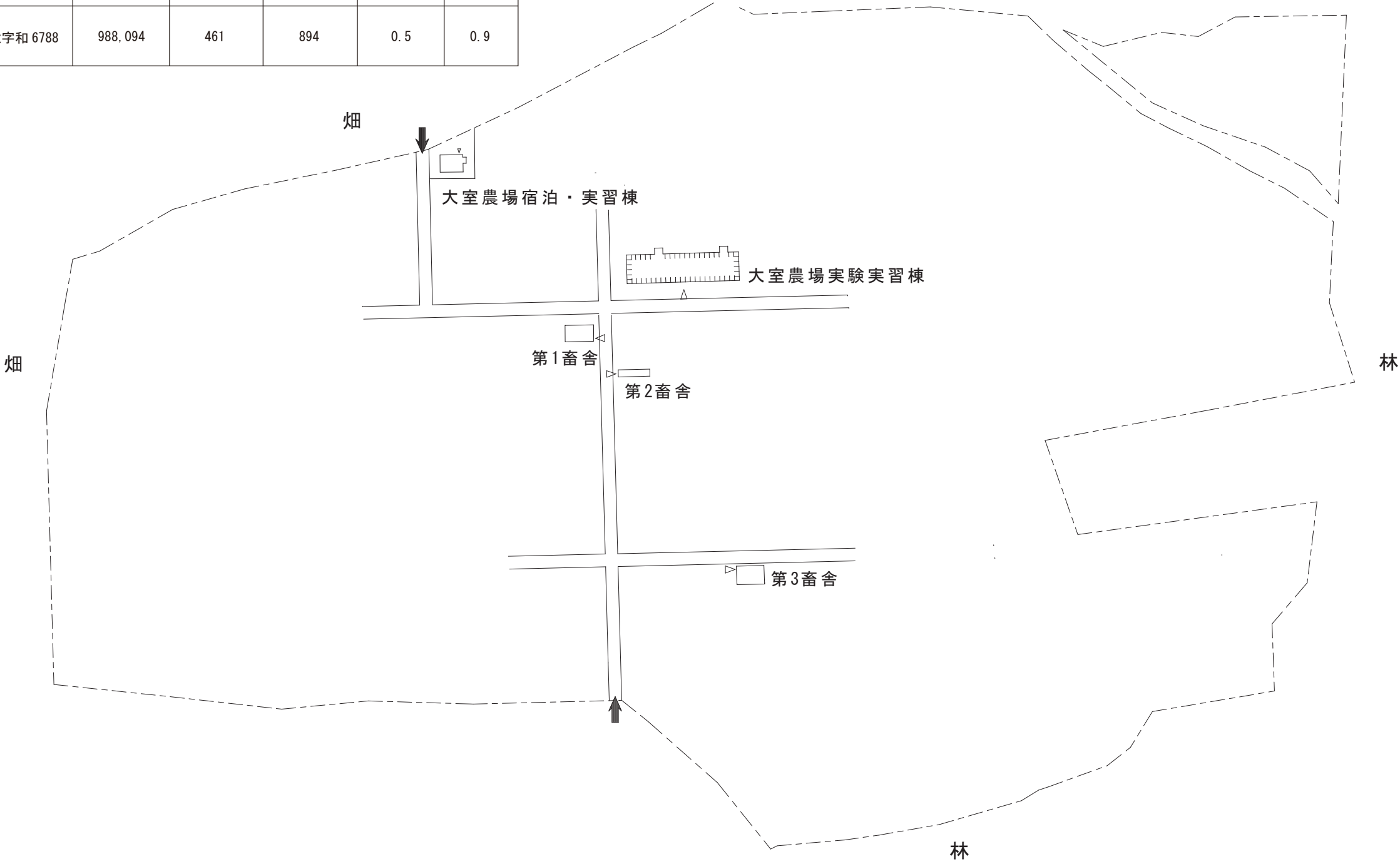


3-4 附属施設の計画

- 方針
- ・千曲川ワインバレー構想の促進

■用地リスト

| 学部等名 | 団地番号 | 団地名 | 所在地         | 敷地面積（㎡） | 建築面積（㎡） | 延べ面積（㎡） | 建ぺい率（％） | 容積率（％） |
|------|------|-----|-------------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 大室農場 | 026  | 大室  | 東御市大字和 6788 | 988,094 | 461     | 894     | 0.5     | 0.9    |



## 【アーカイブ】

## 1. キャンパスマスタープランの必要性と策定の経緯

●本学は地域分散型総合大学であり、松本、長野（教育・工学）、上田、南箕輪<sup>※1</sup>、それぞれに沿革と特性の異なる5つの主要キャンパスを持っている。

「キャンパスの施設長期計画要領」（平成6年文部科学省（当時文部省）編集）に基づき本学においても平成12年に各キャンパスの長期計画を策定し、策定後5年毎に見直しを掛けてきた。

法人化された今、法人独自で長期計画の策定が必要とされ、環境対応、危機管理対応、ユニバーサル化、省エネルギー、オープンキャンパス、サイン計画、緑地の確保、駐車スペースの確保等々大学キャンパスに求められている課題解決が山積しており、「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」（2015年に向かって全学の構成員が目指すべき目標を骨子として策定したもの）が策定されたことにより、新たに構築することになった。

そこで、国立大学時代の基本的な観点に加えて、個性豊かな、学生、教員さらに地域住民にも魅力ある、信州大学にふさわしいキャンパスマスタープランを策定し、今後の信州大学の将来像を描くものとする。

キャンパスマスタープラン策定にあたっては、本学の知識を結集するために教員も参加し、「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」を踏まえ策定するプロジェクトが、施設マネジメント委員会において承認された。

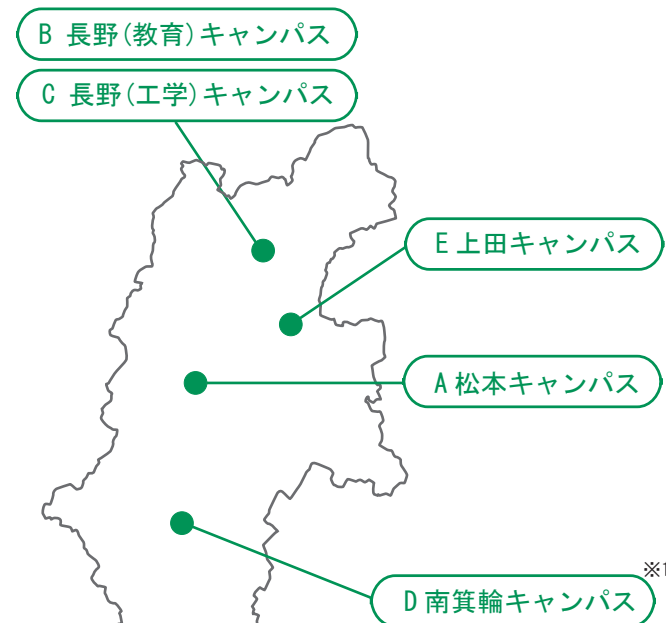
●このキャンパスマスタープランは、大学の理念目標である「教育・研究・地域貢献・国際交流」に基づくと共に、策定された「信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン」の内容も踏まえ、各キャンパスのディベロップメントプランと整合性を図りながら現況の課題やニーズなどを整理し、長期的なビジョン（骨太方針）として目指すべきキャンパスの方向性を示したものである。この方向性のもと、個々の整備などを進めるためにあたっては、その時々のキャンパスの状況を加味し、より具体的な計画を定め実行に移していくこととなる。また、本計画も5年ごとを目処に見直し、時代のニーズに即した計画としていく必要がある。

## ○信州大学の沿革

- 1949 県下の高等教育機関8校を包括・併合して信州大学を設置
- 2000 施設長期計画策定
- 2004 国立大学法人化
- 2006 キャンパスマスタープラン検討ワーキンググループ編成
- 2007 信州大学ビジョン2015／信州発飛翔プラン策定  
キャンパスマスタープラン策定



## ○キャンパス位置図



※1. 2018年現在 伊那キャンパス

## 2. キャンパスマスタープランの目標と作成方針

信州大学各キャンパスは、大学の理念及び各学部の理念に沿った研究教育等の諸活動を展開する舞台であり、それにふさわしい環境の整備と質の向上を確保することを目的とする。

キャンパスマスタープランの作成にあたっては、それらの理念に則し、キャンパスの立地条件、現状分析及びその課題、ユーザー要望を加味し先ず基本方針と戦略を策定する。更にその内容を①建物、②オープンスペース、③交通、④インフラ、⑤コミュニティ、⑥維持管理という6つのカテゴリに分類整理し具体的な計画を記す。

1) 4つの条件をキャンパスごとに抽出

I. 信州大学・各学部・研究科の理念

II. 立地条件

III. 現状分析

IV. ユーザーのニーズ

2) 7つの基本方針に分解

1. キャンパス  
アイデンティティ

2. アメニティを高める  
現状資産の活用

3. 地域社会との連携

4. 参加型キャンパス

5. サステナビリティ

6. ユニバーサルデザイン

7. 安全なキャンパス

3) 基本方針を戦略として  
より具体的な課題とする

各キャンパスの個性・

空間秩序の明確化・  
ニーズに対応した施設利用・  
老朽化対策・

知財・人財・資財の共有発展・  
地域住民との共生・

キャンパスづくりへの  
学生・教職員の参加・

地域の風土の反映・  
エコキャンパス・  
循環型社会への取り組み・

ボーダレスなキャンパス・  
わかりやすいキャンパス・

安全な歩行空間・  
防犯、危機管理・

①建 物



②オープ  
ンスペース



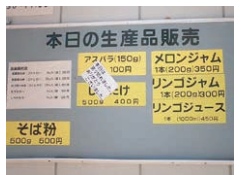
③交 通



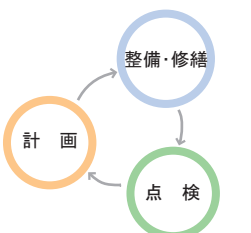
④インフラ  
ストラクチャー



⑤コミュニティ



⑥維持管理





### 3. 学生が主体的に関わるキャンパスマスタープラン作り

#### ●定期的な打ち合わせと5キャンパスへのヒアリング調査

本キャンパスマスタープラン作りでは、教職員だけでなく、信州大学工学部建築学科の学生6名が主体的に作成に関わっている。各キャンパス担当者1名、全キャンパスのパス作成者1名の合計6名が、教職員と共に制作に関わってきた。実際に各キャンパスを訪問し、運営に携わる方々からのお話を伺い、その内容を踏まえた上での提案をしていく、という作業は、通常の講義とは異なる、学生らにとっても有意義な経験となった。

#### ●キャンパスマスタープラン先進事例九州工業大学への現地視察

作成期間の中頃である2017年11月に、学生とキャンパスマスタープランの先進事例として知られる九州工業大学への現地視察を実施した。辰野金吾設計の歴史ある大学だが、新しい建築物も混在、調和しており、信州大学の複数のキャンパスでも参考にすべき計画が実施されていた。キャンパスマスタープラン構想時に学生、地域住民とのワークショップを複数回実施しているなど、今後の信州大学キャンパスマスタープラン作りに応用可能な知見も多数得ることができた。

#### ●学長への成果報告会

2018年2月20日に学生6名と共に学長への成果報告会を実施した。担当教員からの成果報告だけでなく、各学生からキャンパスマスタープラン作成を通じての気づきや感想を話してもらうことで、非常に充実した会となった。

2017.4

2017.7

2017.10

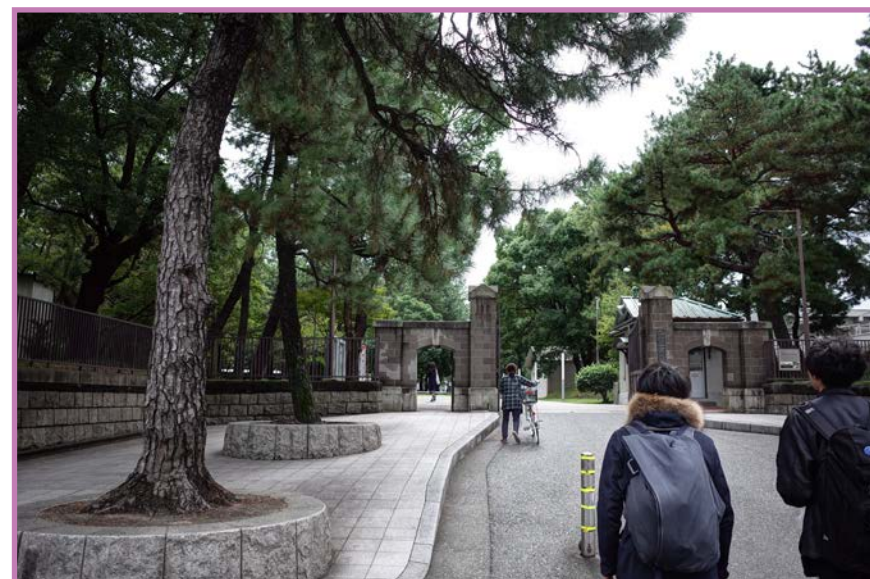
2017.11

2018.2

2018.2.20



学生との定期的な打ち合わせ



キャンパスマスタープラン先進事例九州工業大学への現地視察



学長への成果報告会

沿革

- 平成28年11月25日 作成関係者打合せ
- 平成28年12月 6日 作成関係者追加打合せ
- 平成29年 1月31日 WG開催（長野(教育)キャンパス）～第1回現地調査
- 平成29年 5月25日 WG開催（伊那キャンパス）～第1回現地調査
- 平成29年 6月12日 WG開催（上田キャンパス）～第1回現地調査
- 平成29年 6月22日 WG開催（長野(工学)キャンパス）～第1回現地調査
- 平成29年 7月28日 WG開催（長野(教育)キャンパス）～第2回現地調査
- 平成29年10月23日 WG開催（上田キャンパス）～第2回現地調査
- 平成29年10月30日 WG開催（長野(工学)キャンパス）～第2回現地調査
- 平成29年10月31日 WG開催（伊那キャンパス）～第2回現地調査
- 平成29年12月 8日 WG開催（松本キャンパス）～現地調査
- 平成29年12月25日 WG開催（長野（工学）キャンパス）～第3回現地調査
- 平成29年12月26日 WG開催（伊那キャンパス）～第3回現地調査
- 平成29年12月27日 WG開催（長野(教育)キャンパス）～第3回現地調査
- 平成29年12月28日 WG開催（上田キャンパス）～第3回現地調査
- 平成30年 2月20日 キャンパスマスタープラン勉強会
- 平成30年 2月23日 マスタープラン策定プロジェクトチーム審議
- 平成30年 3月 8日 施設マネジメント委員会～承認
- 平成30年 3月20日 役員会～承認
- 平成30年 3月20日 教育研究評議会～報告
- 平成30年 3月27日 経営協議会～報告



信州大学キャンパスマスタープラン2018 Shinshu University Campus Master Plan 2018

制作

●キャンパスマスタープラン策定プロジェクトチーム

- (リーダー) 山田 総一郎（環境施設担当理事）
- (戦略担当) 武田 三男（経営企画担当理事）
- (学生担当) 平野 吉直（学生担当理事）
- (施設担当) 南保 政弘（環境施設部長）
- (計画担当・総括) 土本 俊和（工学部教授）
- (計画担当・総括) 佐倉 弘祐（工学部助教）
- (建築計画担当) 寺内 美紀子（工学部准教授）
- (建築計画担当) 羽藤 広輔（工学部准教授）
- (建築計画担当) 梅干野 成央（工学部准教授）
- (インフラ担当) 高村 秀紀（工学部准教授）

環境施設部／財務部／学務部

●キャンパスマスタープラン策定プロジェクトWG

- (座 長) 土本 俊和（工学部教授）
- (副 座 長) 佐倉 弘祐（工学部助教）
- (インフラ担当) 高村 秀紀（工学部准教授）
- (建築計画担当) 寺内 美紀子（工学部准教授）
- (建築計画担当) 羽藤 広輔（工学部准教授）
- (建築計画担当) 梅干野 成央（工学部准教授）
- (制 作 担 当) 工学部建築学科学生 6名

【事務職員】

- (建築計画担当) 環境施設部環境整備課長 他5名
- (インフラ担当) 環境施設部環境管理課長 他7名
- (学 生 担 当) 学務部
- (財 務 担 当) 財務部
- (庶 務 担 当) 環境施設部環境企画課長 他2名
- (アドバイザー) 環境施設部長